SONY®

3-280-782-**05**(1)

XDCAM EX Clip Browsing Software

ユーザーガイド Version 2.6

ソフトウェアを使用したことによるお客様の損害、または第三者からのいかなる請求についても、当社は一切その責任を負い兼ねます。

ハードウェアにトラブルが発生して記録内容の修復が不可能になった場合、当社は一切その責任を負い兼ねます。

万一、製造上の原因による不良がありましたらお取り替えいたします。それ以外の責はご容赦ください。

付属のソフトウェアは、指定された装置以外には使用できません。

付属のソフトウェアの仕様は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

目次

Windows 編

Mac OS 編

Windows 編

Windows での使いかたを説明します

はじめに

本書の対象読者

本書では、Microsoft Windows 上で動作する XDCAM EX Clip Browsing Software（XDCAM EX クリップブラウジングソフトウェア）について説明しています。本書は、このソフトウェアを使ってファイルやフォルダーを操作するユーザーを対象としており、読者に Microsoft Windows の操作に関する基本的な知識があることを前提としています。

XDCAM HD 機器を使用する場合の注意事項

- 他の XDCAM 系アプリケーション（PDZ-1）から XDCAM HD 機器にアクセスしているときは、本ソフトウェアからその機器にアクセスすることはできません。
- 本ソフトウェアの使用中に、i.LINK ケーブルの抜き差しや XDCAM HD 機器のオン / オフを行う場合は、必ず本ソフトウェアを終了させてから行ってください。

概要

XDCAM EX Clip Browsing Software は、XDCAM EX/ XDCAM HD 機器で使用されるクリップを操作するためのソフトウェアです。
本ソフトウェアをコンピューターにインストールすると、クリップのコピー、移動、削除によってクリップを整理したり、クリップのフォーマットを変換するなどの操作を、GUI（グラフィカルユーザーインターフェース）を使って簡単に行うことができます。また、クリップをプレビューしたり、クリップに付属するメタデータを参照することもできます。
本ソフトウェアで操作できるクリップは次表のとおりです。

クリップ	ファイルフォーマット	拡張子
XDCAM EX フォーマット互換クリップ	MP4	mp4
	DV-AVI Type2 [a)、b)]	avi
XDCAM HD 機器用フォーマットクリップ	MXF [b)]	mxf

a) 本書では「DV-AVI クリップ」または「DV-AVI ファイル」と記載します。
b) 操作できる機能に制限があります。

ご注意

HQ 1440 クリップまたは DV-AVI クリップが記録された SxS メモリーカードなどのメディアは、PMW-EX1/EX3/ EX30 では使用できないメディアとして認識されます。

Version 2.6 でサポートされた機能

Version 2.6 でサポートされた主な機能を次表に示します。

項目	機能	参照先
DV-AVI クリップの操作	DV-AVI クリップについて、プレビューなどの操作ができる。ただし、操作できる機能に制限がある。	—
クリップ一覧情報のエクスポート	メディアまたはフォルダー内のクリップの一覧情報を XML とスタイルシートの 2 つの形式で出力し、Windows Internet Explorer で閲覧および印刷ができる。	17 ページ
Acquisition（撮影情報）の表示	MP4 クリップの撮影情報を、フレームごとにアニメーションまたはテキスト形式で表示できる。	22 ページ

項目	機能	参照先
クリッププロパティーの一括編集	MP4/MXF クリップのプロパティー（ステータス、タイトル 1、タイトル 2、撮影者、および説明）を一括編集できる。	23 ページ
フラッシュバンド補正	MP4/DV-AVI クリップのフラッシュバンドが発生したフレームを補正できる。	35 ページ

ソフトウェアの動作環境

本ソフトウェアを動作させるには、次の条件を備えたコンピューターを用意してください。

項目	条件
OS	Microsoft Windows XP SP3 以降（32bit 版）、Microsoft Windows Vista SP1 以降（32bit 版 /64bit 版）、または Microsoft Windows 7（32bit 版 /64bit 版）a)
CPU	Intel Pentium 4 2.0GHz 以上（Intel Core 2 Duo Processor 2.0GHz 以上を推奨）b)
メモリー	1GB 以上（2GB 以上を推奨）
ディスプレイ	解像度：1280 × 1024 ピクセル以上を推奨
オーディオ	オーディオ再生機能
その他	• Windows デスクトップサーチ（WDS）c) • Windows Internet Explorer 7 以上 d)

a) Microsoft、Windows、Windows Vista および Windows 7 は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
b) Intel、Intel Core、Pentium はアメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。
c) Windows XP でフリーワード検索を使用するには、あらかじめ WDS の最新版（Version 3.00 以上）をインストールしておく必要があります。WDS がインストールされていない、または WDS のバージョンが 3.00 よりも古いと、フリーワード検索を実行できません。
Windows Vista および Windows 7 には WDS コンポーネントが含まれているため、インストールする必要はありません。
d) エクスポートしたクリップの一覧情報を閲覧、印刷するとき

その他、本書に記載されている商品名、会社名等は、その会社の登録商標または商標です。

本ソフトウェアが対応している XDCAM 機器

本ソフトウェアは、次の XDCAM 機器に対応しています。

シリーズ名	機種名
XDCAM HD422（Version 1.2 以上）	PDW-F800
	PDW-700
	PDW-740
	PDW-F1600
	PDW-HD1500
	PDW-HR1
XDCAM HD（Version 1.92 以上）	PDW-F355L
	PDW-F335L
	PDW-F335K
	PDW-F75
XDCAM HD ドライブ	PDW-U1

ご注意

XDCAM HD422 シリーズのフォーマット混在記録モードには対応していません。XDCAM 機器が混在記録モードのとき、この機器をクリップのコピー先、または移動先として指定できないことがあります。

ソフトウェアのインストール

MainConcept 社製プラグインソフトウェアをインストールしている場合は

当該のプラグインソフトウェアを購入済みの場合は、以下の URL へアクセスし、最新版にバージョンアップしてください。このウェブサイトは、［ヘルプ］メニューの［MainConcept バージョン ...］を選択して開くダイアログの URL をクリックすることによって表示することができます。
http://www.mainconcept.com/plugin4clipbrowser

Version 1.0x がインストールされている場合は

あらかじめ Version 1.0x（1.00 または 1.01）をアンインストールしておいてください（10 ページ参照）。

CD-ROM からインストールする場合

1 付属の CD-ROM を CD-ROM ドライブに入れる。

表紙ページが自動的にブラウザに表示されます。ブラウザで表示されないときは、CD-ROM に入っている index.htm をダブルクリックしてください。

2 XDCAM EX Clip Browsing Software Installer から［Windows XP/Vista/7］を選択してクリックする。

セットアップファイルが保存されているフォルダーが表示されます。

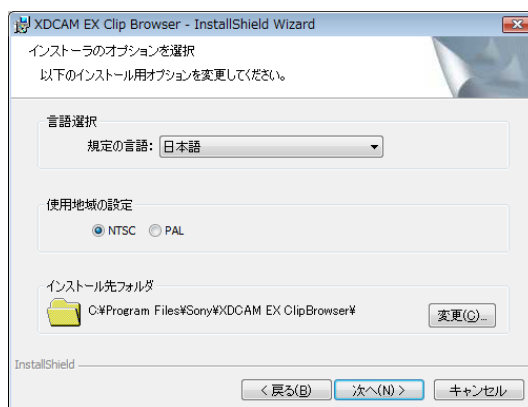
3 Setup.exe をダブルクリックする。

セットアップウィザード画面が表示されます。

4 セットアップウィザード画面で［次へ］をクリックする。

使用許諾契約画面が表示されます。

5 ［使用許諾契約の条項に同意します］を選択し、［次へ］をクリックする。

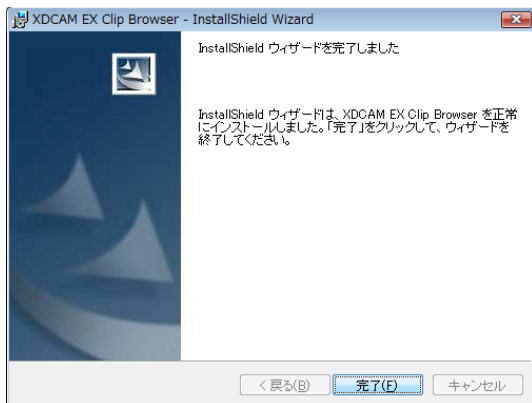
次の画面が表示されます。

6 必要に応じてオプションの設定を変更し、［次へ］をクリックする。

ご注意

Windows の日本語版では、OS のバージョンによって、使用している文字セットが異なります（Vista は JIS2004、XP は JIS90）。したがって、Windows Vista で入力した文字を Windows XP で参照したとき、文字の形状が異なったり、表示できないことがあります。詳しくは、マイクロソフト社のウェブサイトで『JIS X 0213:2004 対応と新日本語フォント「メイリオ」について』に関する情報をご覧ください。

インストール先フォルダーを変更するには

［変更 ...］をクリックして開くダイアログでインストール先フォルダーを指定します。

以降、順次表示される指示に従って、インストールを進めてください。
インストールが完了すると、次の画面が表示されます。

7 ［完了］をクリックしてダイアログを閉じる。

アンインストールするには

Windows のコントロールパネルから「プログラムの追加と削除」を選択し、リストから［XDCAM EX Clip Browser］を選択して削除してください。

ご注意

本ソフトウェアをアンインストールすると、MainConcept 社製プラグインソフトウェアもアンインストールされます。

起動と終了

◆ ソフトウェアをインストールする方法については、「ソフトウェアのインストール」（9 ページ）をご覧ください。

ソフトウェアを起動する

デスクトップのショートカットアイコンをダブルクリックします。
XDCAM EX のバナーが表示され、ソフトウェアが起動すると操作ウィンドウ（11 ページ参照）が表示されます。

ご注意

本ソフトウェアを同時に複数起動することはできません。

ソフトウェアを終了する

次のいずれかを実行します。
- ファイルメニューで［終了］を選択する。
- 操作ウィンドウの右上隅にある×（閉じる）ボタンをクリックする。

ご注意

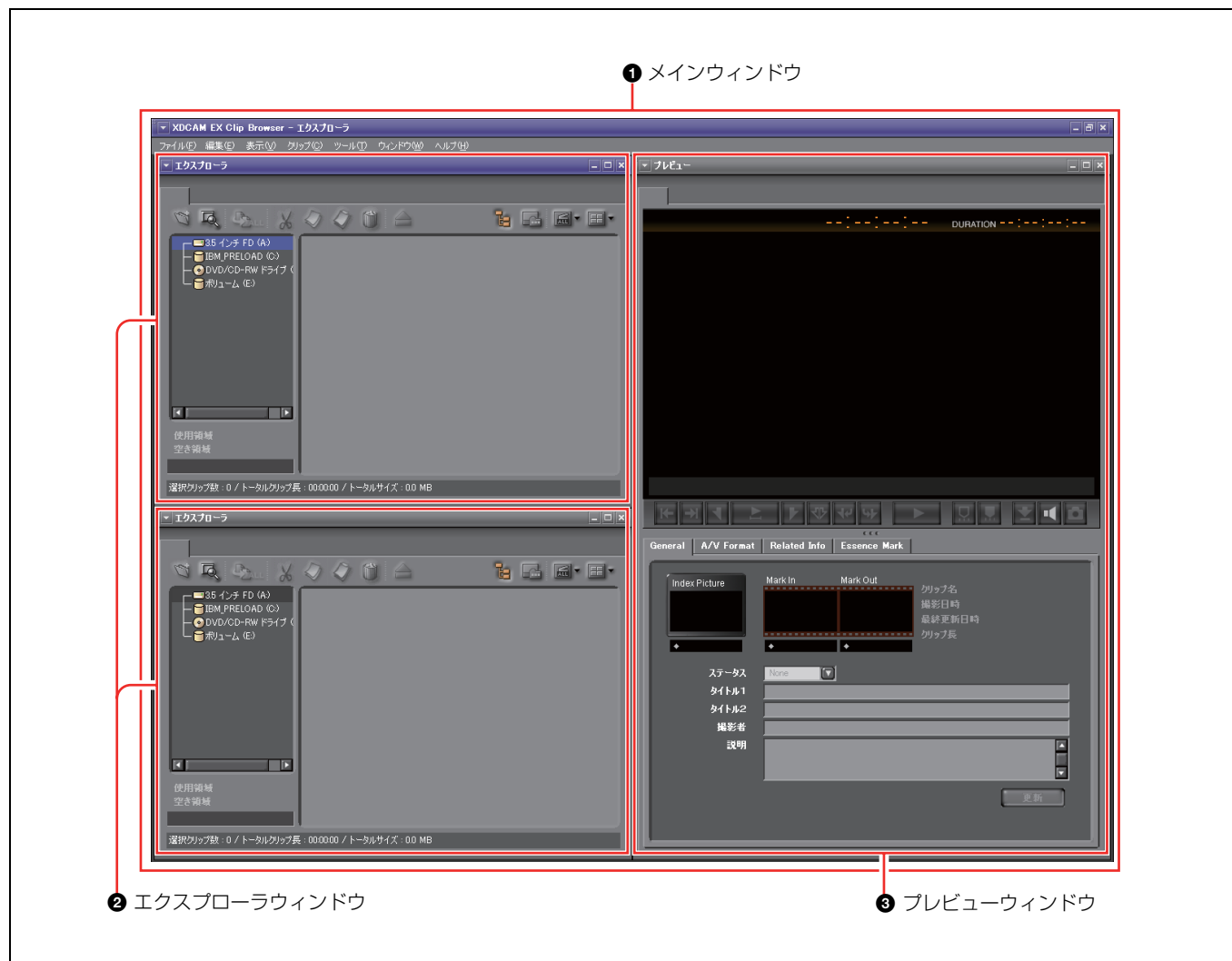
ファイル操作が行われているときに、コンピューターの電源を切らないでください。ファイルが壊れる可能性があります。操作の終了を待つか、操作をキャンセルしてから電源を切ってください。

各部の名称と働き

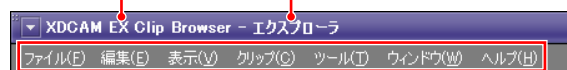
操作ウィンドウの構成

初期状態では、次図に示すように構成されています。

❶ メインウィンドウ

❷ エクスプローラウィンドウ

❸ プレビューウィンドウ

❶ メインウィンドウ

フレーム内にエクスプローラウィンドウとプレビューウィンドウを持つ親ウィンドウです。
タイトルバーには、本ソフトウェアの名称とフレーム内のアクティブなウィンドウの名称が表示されます。
メニューバーに表示されるメニューとメニュー項目は、開いているウィンドウ（複数開いている場合はアクティブなウィンドウ）に応じて切り替わります。

❷ エクスプローラウィンドウ

エクスプローラウィンドウは、10 個まで同時に開くことができます。また、開いている複数のウィンドウは、タブ化して 1 つのウィンドウにまとめることができます。

◆ 詳しくは、「エクスプローラウィンドウ」（13 ページ）をご覧ください。

❸ プレビューウィンドウ

プレビューウィンドウは、5 個まで同時に開くことができます。また、開いている複数のウィンドウは、タブ化して 1 つのウィンドウにまとめることができます。

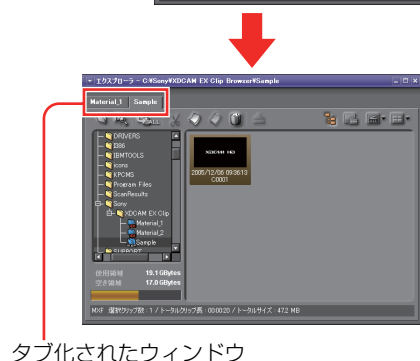
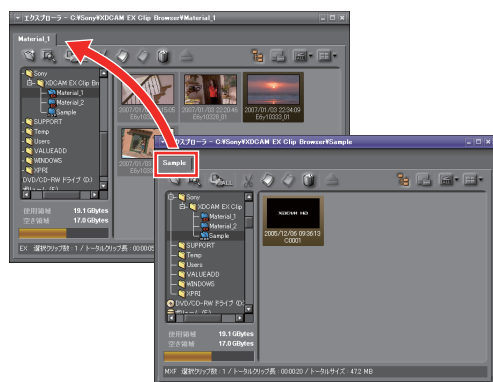
◆ 詳しくは、「プレビューウィンドウ」（18 ページ）をご覧ください。

ウィンドウ構成をカスタマイズするには

複数のウィンドウを開くには

［ウィンドウ］メニューで［新しいエクスプローラを開く］または［新しいプレビューを開く］を選択します。
選択したコマンドに応じて、エクスプローラウィンドウまたはプレビューウィンドウが開きます。

複数のウィンドウをまとめるには

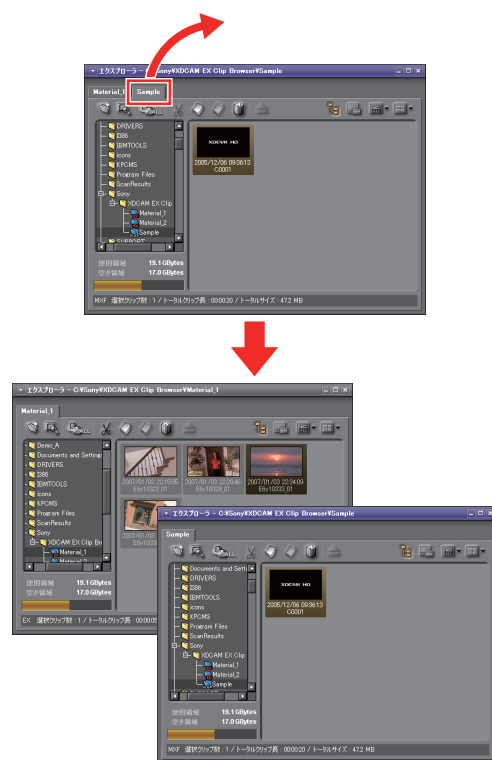
同種のウィンドウ（エクスプローラウィンドウ同士、またはプレビューウィンドウ同士）は、タブ化してまとめることができます。
一方のウィンドウのタブをドラッグして、他方のウィンドウ内にドロップします。

タブ化されたウィンドウ

プレビューウィンドウの場合、すでにウィンドウが 1 つ開いているときにエクスプローラウィンドウで次のいずれかの操作を行うと、該当するメディアファイルのウィンドウがタブとして追加されます。

- リスト表示部でメディアファイルをダブルクリックする。
- リスト表示部でメディアファイルを選択し、［クリップ］メニューで［再生］を選択する。

該当するメディアファイルのウィンドウ、またはタブがすでに開いている場合は、そのウィンドウまたはタブがアクティブになります。

タブ化を解除してウィンドウを分離するには

分離したいウィンドウのタブをドラッグして、ウィンドウの外にドロップします。

そのほかのカスタマイズ操作

- ウィンドウのタイトルバーをドラッグして、ウィンドウを移動する。
- ウィンドウの任意の境界をドラッグして、ウィンドウを任意の大きさに変える。
- ウィンドウの右上隅にある□（最大化）ボタンをクリックして、ウィンドウの大きさを最大にする。
- ウィンドウの右上隅にある×（閉じる）ボタンをクリックして、使用しないウィンドウを閉じる。

カスタマイズしたウィンドウ構成は記憶されるため、次回ソフトウェアを起動したときに構成が再現されます。

ウィンドウの配置を最適化するには

［ウィンドウ］メニューで［ウィンドウの配置を最適化する］を選択すると、メインウィンドウ内でエクスプローラウィンドウとプレビューウィンドウの配置が最適化されます。

スナップ機能が有効なときは

ウィンドウの境界をドラッグしてサイズ変更すると、隣接するウィンドウとの並びを保ったまま、隣接するウィンドウのサイズも連動して変わります。

◆ スナップ機能を無効にすることもできます。詳しくは、「ユーザー設定」（43 ページ）をご覧ください。

補足

Shift キーを押したまま操作すると、設定と逆の動作になります。
スナップ機能有効時：スナップ機能が働かない。
スナップ機能無効時：スナップ機能が働く。

ウィンドウ / タブ選択のショートカット操作

複数のウィンドウを起動しているときやウィンドウをタブ化しているとき、ウィンドウやタブの選択をキーボードで操作することができます。

ウィンドウの選択をキーボードで操作するには

Ctrl キーを押したまま Tab キーを押します。（以下、このような操作を「Ctrl + Tab キーを押す」と表記します。）
キーを押すごとに、ウィンドウの選択が切り替わります。
Ctrl + Shift + Tab キーを押すと、逆順にウィンドウが選択されます。

タブの選択をキーボードで操作するには

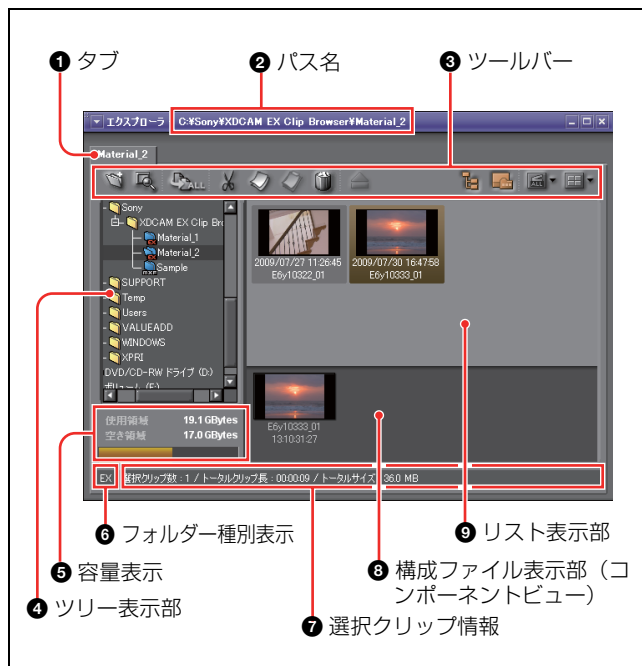
Ctrl + PageUp キー、または Ctrl + PageDown キーを押します。

エクスプローラウィンドウ

このウィンドウ上で、クリップ（ファイル）とフォルダーの各種操作を行い、クリップに付属するメタデータを参照します。操作対象となるフォルダーとファイルは、XDCAM EX/XDCAM HD フォーマットのフォルダーおよびメディアです。

❶ タブ

ツリー表示部で選択されているメディアまたはフォルダーの名前が表示されます。
複数のエクスプローラウィンドウを開いているとき、ここをドラッグして別のウィンドウ内にドロップすると、ウィンドウを 1 つにまとめることができます（12 ページ参照）。

❷ パス名

ツリー表示部で選択されているメディアまたはフォルダーのパス名（フルパス）が表示されます。

❸ ツールバー

クリップやフォルダーの操作に使用するツールボタンが配置されています。

ツールボタン		機能	参照先
アイコン	名称		
	フォルダの新規作成	選択されているメディアまたはフォルダー内に新しいフォルダーを作成する。	38 ページ
	検索	検索ダイアログを開く。	34 ページ
	すべてコピー	選択されているメディアまたはフォルダー内のすべてのクリップを、本ソフトウェアが自動的に作成するフォルダー内にコピーする。	25 ページ
	切り取り	選択されているクリップを切り取る。	26 ページ

ツールボタン		機能	参照先
アイコン	名称		
	コピー	選択されているクリップをコピーする。	24 ページ
	貼り付け	「切り取り」または「コピー」が実行されたクリップを、別のメディアまたはフォルダー内に貼り付ける。	24 ページ 26 ページ
	削除	選択されているクリップまたはフォルダーを削除する。	27 ページ 38 ページ
	メディアの取り出し	ツリー表示部で XDCAM ドライブまたは SxS メモリーカードドライブが選択されているとき、メディアの取り出し、またはメディアを安全に取りはずせる状態にする（下記の「メディアの取り出しについて」を参照）。	—
	フォルダツリーの表示 / 非表示	ツリー表示部の表示 / 非表示を切り換える。	—
	コンポーネントビューの表示 / 非表示	コンポーネントビューの表示 / 非表示を切り換える。	—
	表示フィルター	XDCAM EX クリップのファイルフォーマットによる表示条件（すべて /MP4/DV-AVI）を切り換える。	—
	リスト表示	クリップの表示形式（サムネイル / 一覧 / 詳細）を切り換える。	—

メディアの取り出しについて

操作対象のドライブによって、動作または可能な操作が異なります。

ドライブ（メディア）	動作または可能な操作
XDCAM EX 機器（SxS メモリーカード）	USB 接続が切断される。USB ケーブルの取りはずし、および機器の電源オフが可能。
ExpressCard スロット（SxS メモリーカード）	接続が切断される。メモリーカードの取り出しが可能。
カードリーダー（SxS メモリーカード）	メモリーカードの取り出しが可能。a)
XDCAM 機器（プロフェッショナルディスク）	ディスクが排出される。a)

a) 接続ケーブルを取りはずしたり、機器の電源をオフにする場合は、OS の「ハードウェアの安全な取り外し」を使用してください。

❹ ツリー表示部

「マイコンピュータ」よりも下の階層にあるメディアおよびフォルダーがツリー表示されます。
メディアまたはフォルダーの種類を表すアイコンは次表のとおりです。

アイコン	メディアまたはフォルダーの種類
	ハードディスクドライブ
	CD/DVD ドライブ、および Blu-ray Disc ドライブ
	XDCAM ドライブ（通常）
	XDCAM ドライブ（UserData）
	SxS メモリーカードドライブ
	USB 接続された大容量記憶装置（リムーバブルドライブ）
	マウントされたネットワーク上のドライブ
	本ソフトウェア管理外の一般的なフォルダー
	EX 属性のフォルダー
	MXF 属性のフォルダー

ここでは、Windows エクスプローラのツリー表示部と同様な操作が可能です。
フォルダツリーの表示 / 非表示ボタンによって、この表示を隠したり、再び表示させたりすることができます。

ご注意

- メディアを選択したときに、「サルベージが必要です」や「記録を行った装置にて復旧処理を行ってください」のメッセージが表示されることがあります。この場合、記録中に XDCAM EX 機器の電源を切ったり、記録メディアを抜いたことにより、メディアのデータが不完全な状態になっています。メディアを XDCAM EX 機器に戻して直ちにデータを復旧させてください。データを復旧させないまま操作を続けると、データが復旧できなくなります。
- Windows デスクトップのテーマによってはリスト表示の文字が欠けることがありますが、本ソフトウェアの動作に影響はありません。

❺ 容量表示

ツリー表示部で選択されているメディアの使用容量と空き容量を表示します。

容量は数値とバーグラフで表示され、オレンジのバーが使用容量を示します。

❻ フォルダー種別表示
ツリー表示部で次のいずれかのフォルダーが選択されているときに表示されます。
EX：EX 属性のフォルダー
MXF：MXF 属性のフォルダー

❼ 選択クリップ情報
リスト表示部におけるクリップの選択情報（選択クリップ数 / トータルクリップ長 / トータルサイズ）が表示されます。

ご注意

トータルクリップ長は概略値のため、目安としてご利用ください。

❽ 構成ファイル表示部（コンポーネントビュー）
クリップを構成しているファイルを時系列に表示します。
表示するには、［表示］メニューで［コンポーネントビュー］を選択するか、ツールバーでコンポーネントビューの表示 / 非表示ボタンをクリックします。
リスト表示部で DV-AVI クリップを 1 つだけ選択すると、そのクリップを構成しているファイルがサムネイル形式で表示されます。

ご注意

- DV-AVI クリップの構成ファイルのみが表示対象です。
- 構成ファイル表示部では、コピーや削除などの操作はできません。

❾ リスト表示部
ツリー表示部で選択されているメディアやフォルダーに保存されているクリップを、次の 3 つの形式で表示します。
サムネイル表示：クリップの代表画（設定されていない場合は先頭フレーム）と 2 つのクリップ属性（デフォルトは撮影日時とクリップ名）が表示される。

◆ クリップ属性の表示項目は変更することができます。詳しくは、「ユーザー設定」（43 ページ）をご覧ください。

一覧表示：クリップの種類と状態を示すアイコン、およびクリップ名が表示される。
詳細表示：クリップの種類と状態を示すアイコン、クリップ名、および各種の属性が表示される。

クリップの表示形式を切り換えるには

次のいずれかを実行します。
- ［表示］メニューで［サムネイル］、［一覧］、［詳細］のいずれかを選択する。
- ツールバーのリスト表示ボタンをクリックし、［サムネイル］、［一覧］、［詳細］のいずれかを選択する。

いずれの表示形式の場合も、クリップの状態を示すマークが、サムネイルまたはアイコン上に表示されます。

表示形式	アイコン	説明
一覧表示 / 詳細表示	MP4	通常の MP4 ファイル
	MP4	OK マーク付きの MP4 ファイル a)
	MP4	一部の画像が表示できない場合があるが、それ以外の画像は通常 MP4 ファイルと同様に、クリップ操作が可能な MP4 ファイル
	MP4	不正な MP4 ファイル（実体がない、デコードできないなど）
	AVI	通常の DV-AVI ファイル
	AVI	一部の画像が表示できない場合があるが、それ以外の画像は通常 DV-AVI ファイルと同様に、クリップ操作が可能な DV-AVI ファイル
	AVI	不正な DV-AVI ファイル（実体がない、デコードできないなど）
	MXF	通常の MXF ファイル
	MXF	OK マーク付きの MXF ファイル（XDCAM 機器で OK マークを設定した）a)
	MXF	一部の画像が表示できない場合があるが、それ以外の画像は通常 MXF ファイルと同様に、クリップ操作が可能な MXF ファイル
	MXF	不正な MXF ファイル（実体がない、デコードできないなど）

表示形式	表示例	説明
サムネイル表示		通常のクリップ
		OK マーク付きクリップ a)
		複数のメディアにまたがって記録されたクリップの先頭部分 b)
		複数のメディアにまたがって記録されたクリップの中間部分 b)
		複数のメディアにまたがって記録されたクリップの末尾部分 b)
		一部の画像が表示できない場合があるが、それ以外の画像は通常クリップと同様に、クリップ操作が可能なクリップ
		読み込めないため、プレビューやプロパティー編集ができないクリップ c)、d)

a) 本ソフトウェアでは、OK マーク付きクリップも移動または削除することができます。
b) 複数のメディアに分割して記録されたクリップは、不足している画像部分は再生されません。
c) ファイルが壊れている、サムネイルが作成できないなどの原因により、本ソフトウェアで再生 / 表示できないクリップです。
d) 他のアプリケーションがクリップのファイルを使用しているため、本ソフトウェアで再生 / 表示できないクリップです。

詳細表示にしているときの表示項目を並べ替えるには

並べ替えのキーにしたい項目のヘッダーカラムをクリックします。
クリックするごとに昇順整列と降順整列が切り替わります。
また、次の項目は、[表示] メニューの [整列] から並べ替えを実行することもできます。

- クリップ名
- サイズ
- クリップ長
- ステータス
- 撮影日時
- 最終更新日時
- 記録モード
- メディア跨ぎ

詳細表示にしているときの表示項目を変更するには

[表示] メニューの [詳細表示の設定 ...] を選択して開くダイアログで、次のように操作します。

表示する項目を決めるには：チェックボックスをオンにします。[すべて表示] ボタンをクリックすると、すべての項目のチェックボックスがオンになります。
表示しない項目を決めるには：チェックボックスをオフにします。[すべて非表示] ボタンをクリックすると、「クリップ名」を除き、すべての項目のチェックボックスがオフになります。
表示する順番を変更するには：項目名をクリックしてハイライト表示させ、[上へ] ボタンまたは [下へ] ボタンをクリックします。
初期設定に戻すには：[規定値に戻す] ボタンをクリックします。
変更を確定するには：[OK] ボタンをクリックします。
変更を中止するには：[キャンセル] ボタンをクリックします。

ツールチップの表示項目を変更するには

リスト表示部でクリップをポイントしたときに表示されるツールチップの表示項目は、[表示] メニューの [ツールチップの表示設定 ...] を選択して開くダイアログで変更することができます。

◆ 操作については、前項の「詳細表示にしているときの表示項目を変更するには」をご覧ください。

クリップの一覧情報をエクスポートするには

メディアまたはフォルダー内のクリップの一覧情報を XML とスタイルシートの 2 つの形式で出力し、Windows Internet Explorer [1] で閲覧および印刷することができます。

1) 本機能は、Windows Internet Explorer 7 および Windows Internet Explorer 8 で動作確認済みです。

1 エクスプローラウィンドウのツリー表示部で、クリップの一覧情報を出力したいメディアまたはフォルダーを選択する。

2 リスト表示部で出力対象のクリップを選択する。（すべてのクリップ、または表示フィルターによって表示されているフォーマットのクリップすべてが出力対象のときは、この操作は不要です。）

3 ［ファイル］メニューで［クリップ一覧の出力 ...］を選択する。

クリップ一覧の出力ダイアログが開きます。

4 次の項目を設定する。

出力先

- フォルダ：出力先のフォルダーを指定します。エディットボックスにドライブ名から始まるパス名を入力するか、［...］ボタンをクリックして開くフォルダの参照ダイアログでフォルダーを選択し、［OK］ボタンをクリックします。
- データ名：ここで指定した名前のファイル（XML ファイルとスタイルシート）が、出力先のフォルダーに生成される同名のフォルダー内に出力されます。

ご注意

ウェブブラウザーの制約により、データ名として使用すると、クリップの一覧情報が正しく表示されない文字があります。データ名には、英数字を使用することをおすすめします。

出力オプション

- サムネイル：テキスト情報とともにクリップのサムネイル（JPEG ファイル）を出力します。
- エッセンスマークの詳細：クリップに設定されているエッセンスマークの詳細情報を出力します。

出力範囲

- すべて：選択したメディアまたはフォルダー内のすべてのクリップ
- 表示しているクリップ（MP4/DV-AVI）：リスト表示部に表示されているクリップ
- 選択しているクリップ：リスト表示部で選択されているクリップ

5 ［実行］ボタンをクリックして、エクスポートを開始する。

エクスポートの進捗状況がプログレスバーで表示され、処理が完了すると次のダイアログが表示されます。

操作終了時に XML ファイルを表示するには

［出力ファイルを表示する。］チェックボックスをオンにします。

6 ［OK］ボタンをクリックして、ダイアログを閉じる。

Windows 編

出力したファイルを開くには

出力先フォルダーに生成された「データ名」フォルダー内の「データ名」.xml ファイル、または「データ名」.xsl ファイルをダブルクリックします。
表示されたクリップの一覧情報は、Windows Internet Explorer の印刷コマンドを使って印刷することができます。

プレビューウィンドウ

このウィンドウ上で、クリップのプレビューを行ったり、クリップの各種情報を確認します。

プレビューウィンドウについてのご注意

このウィンドウで行う再生はプレビュー再生です。以下の点にご注意ください。

- コンピューターの性能や使用状況によっては、コマ落ちしたり、タイムコードが実際の値とずれることがあります。また、クリップが滑らかに再生されなかったり、画面の一部の更新が遅れることがあります。
- クリップが不完全な状態の場合、再生時に画像が乱れたり、フリーズすることがあります。
- 分割されたクリップの場合は、不足している画像部分は再生されません。
- XDCAM EX 機器以外で作成したクリップについては、再生できない場合があります。
- 再生中にコンピューターの画面の設定（プロパティ）を変更すると、画像が正しく再生できなくなることがあります。その場合は、ソフトウェアを再起動してください。

❶ タブ

クリップ名が表示されます。
複数のプレビューウィンドウを開いているとき、ここをドラッグして別のウィンドウ内にドロップすると、ウィンドウを 1 つにまとめることができます（12 ページ参照）。

❷ クリップ名

選択されているタブのクリップ名が表示されます。

❸ ビューアー部

クリップのプレビューを行います（次項参照）。

❹ スプリッター

上下にドラッグすることによって、ビューアー部とクリッププロパティー部の表示比率を変えることができます。

❺ クリッププロパティー部

クリップの各種情報を確認することができます（20 ページ参照）。

ビューアー部

❶ スクリーン

再生画を表示します。
ここをダブルクリックするか、または［表示］メニューで［全画面］を選択すると、フルスクリーン表示になります。
元の表示に戻すには、スクリーンをダブルクリックするか、または Esc キーを押します。

❷ クリップ種別表示

記録フォーマットの違いによるクリップの種別が表示されます。

XDCAM EX (MP4)：XDCAM EX クリップ（MP4 ファイル）

XDCAM EX (DV-AVI)：XDCAM EX クリップ（DV-AVI ファイル）

XDCAM HD/HD422：XDCAM HD または XDCAM HD422 クリップの MPEG HD ファイル（MXF ファイル）

XDCAM HD/HD422 Proxy：XDCAM HD または XDCAM HD422 クリップのプロキシファイル（MXF ファイル）

❸ エッセンスマーク個数表示

エッセンスマークの設定個数（現在の設定個数 / 最大設定個数）が表示されます。

❹ タイムコード表示

現在位置（プレイライン位置）のタイムコードとクリップに設定されているイン点 / アウト点間のデュレーション（長さ）が表示されます。タイムコードが記録されていない場合は、カウンター値が表示されます。
NTSC 方式で記録されたクリップの場合は、現在位置タイムコードの分と秒の区切り記号で、ドロップフレーム（.）とノンドロップフレーム（:）を識別することができます。
現在位置のタイムコードをクリックして数値を入力し、Enter キーを押すと、指定したタイムコードの位置に移動します。ただし、不正なタイムコードを入力した場合、この操作は無効になります。

◆ タイムコードの表示形式は変更することができます。詳しくは、「ユーザー設定」（43 ページ）をご覧ください。

❺ ポジションバー

クリップのタイムスケールを表します。
ポジションバー上には、クリップの各種情報が次表に示すマークで表示されます。

マーク	意味
	イン点
	アウト点
	エッセンスマーク a)
	タイムコードブレーク点（タイムコードの不連続点）
	構成ファイルの分割点（DV-AVI クリップが複数のファイルで構成されている場合のみ表示される。）
	フラッシュバンド未補正マーク a)
	フラッシュバンド補正済みマーク a)

a) エッセンスマークとフラッシュバンド未補正 / 補正済みマークが重なるときは、フラッシュバンド未補正 / 補正済みマークが優先表示されます。

❻ プレイライン

タイムスケール上の現在位置を示します。
任意の位置にドラッグするか、またはポジションバー上の任意の場所をクリックして、その位置に移動することができます。スクラブ操作（左右に繰り返しドラッグする操作）にも対応しています。

❼ コマンドボタン

クリップのプレビュー操作を行うためのボタン群です。

これらのボタンが持つ機能は、キーボードで操作することもできます。

アイコン	名称	キーボード操作	機能
	スタートへ	Home	クリップのスタート点（先頭フレーム）に移動する。
	エンドへ	End	クリップのエンド点（最終フレーム）に移動する。
	マークイン [a]	I	現在位置をイン点に設定する。再生中も操作可能（再生を継続する）。
	イン／アウト間再生	Shift ＋スペース	イン点からアウト点までの範囲を再生する（再生中はボタンのアイコンが緑色に点灯する）。再生中にクリックすると停止する。
	マークアウト [a]	O	現在位置をアウト点に設定する。再生中も操作可能（再生を継続する）。
	マークイン／アウトのクリア [a]	Shift ＋ X	イン点およびアウト点の設定を解除する。再生中も操作可能（再生を継続する）。
	イン点へ	↑	イン点に移動する。
	アウト点へ	↓	アウト点に移動する。
	再生	スペース	再生する（再生中はボタンのアイコンが緑色に点灯する）。再生中にクリックすると停止する。
	エッセンスマークの追加 [a]	E	現在位置にエッセンスマークを設定する。[b] 再生中も操作可能（再生を継続する）。ただし、設定済みの位置では操作できない。
	エッセンスマークの削除 [a]	Shift ＋ E	現在位置に設定されているエッセンスマークを削除する。再生中も操作可能（再生を継続する）。
	代表画の設定 [c]	P	現在位置のフレームを代表画に設定する。再生中も操作可能（再生を停止する）。
	オーディオチャンネルの設定	—	チャンネル設定ダイアログを開く。
	静止画を作成	—	ファイル名と保存先を指定するダイアログが開き、現在位置のフレームをビットマップ形式の静止画として保存することができる。ただし、XDCAM ディスク上のクリップから静止画を作成することはできない。

a) 以下のクリップの場合、編集点（イン点／アウト点）およびエッセンスマークの編集は不可
- XDCAM ドライブ上のクリップ
- DV-AVI クリップ

b) 設定可能なエッセンスマークの最大個数は以下のとおり
- XDCAM EX クリップ（MP4 ファイル）：126 個
- XDCAM HD クリップ（クリップ長が 126 秒未満）：秒数＋ 1 個（例：45 秒のクリップの場合、46 個）
- XDCAM HD クリップ（クリップ長が 126 秒以上）：126 個

c) DV-AVI クリップの代表画の設定は不可

クリッププロパティー部

General（一般情報）タブ

クリップに関する一般的な情報が表示されます。
- Index Picture（代表画）：設定されていないときは、クリップの先頭フレームが代表画として表示される。
- Mark In（イン点）：設定されていないときは、クリップの先頭フレームがイン点として表示される。
- Mark Out（アウト点）：設定されていないときは、クリップの最終フレームがアウト点として表示される。
- クリップ名
- 撮影日時
- 最終更新日時
- クリップ長
- ステータス：OK、NG、KEEP、None から選択できる。

- タイトル 1：ASCII 文字で 63 バイト以下のタイトルを付けることができる。
- タイトル 2：127 バイト以下のサブタイトルを付けることができる。
- 撮影者：撮影者の名前を 127 バイトまで記入することができる。
- 説明：撮影状況などの説明を 2047 バイトまで記入することができる。

ステータス、タイトル 1、タイトル 2、撮影者、および説明を編集した場合、編集結果をクリップに反映するには、［更新］ボタンを押します。［更新］ボタンを押さずにウィンドウまたはタブを閉じると、編集結果は破棄されます。

◆ これらの属性を同一のメディアまたはフォルダー内のクリップ間で共通にしたいときは、一括して編集することができます。詳しくは、「クリッププロパティーを一括編集するには」（23 ページ）をご覧ください。

ご注意

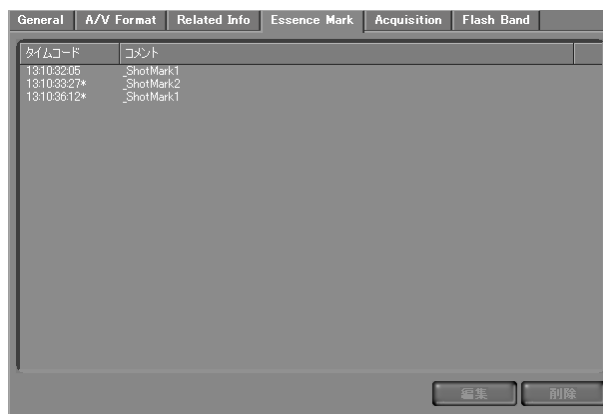
DV-AVI クリップのプロパティーは編集できません。

A/V Format（オーディオ / ビデオフォーマット）タブ

クリップの記録フォーマットに関する情報が表示されます。
- ビデオフォーマット
- オーディオフォーマット

Related Info（クリップ関連情報）タブ

クリップの記録条件に関する情報が表示されます。
- モデルタイプ
- レンズ名
- 記録モード
- メディア跨ぎ
- ファイル名
- 構成ファイル数
- UMID
- キーフレーム
- ユーザービット
- プロキシ AV データ
- 編集リスト
- ハード＆ソフトウェア

Essence Mark（エッセンスマーク）タブ

クリップに設定されているエッセンスマークのタイムコードとコメントがリスト表示されます。
このリストでエッセンスマークを選択すると、再生画はそのエッセンスマークが設定されているフレームに移動します。

コメントを編集するには：リスト上でエッセンスマークを1つだけ選択し、［編集］ボタンをクリックして開くコメントの編集ダイアログで編集します。コメントは 32 バイトまで入力できます。編集後に［OK］ボタンをクリックすると、コメント欄に変更が反映されます。

エッセンスマークを削除するには：リスト上でエッセンスマークを選択し（Ctrl キーまたは Shift キーを押したままクリックすることによって複数選択可能）、[削除］ボタンをクリックして表示される確認のダイアログで［はい］をクリックします。

ご注意

- 以下のクリップのエッセンスマークのコメントは編集できません。
  - XDCAM ドライブ上のクリップ
  - DV-AVI クリップ
- XDCAM EX 機器で表示できるエッセンスマークは、「_ShotMark1」と「_ShotMark2」だけです。
- 本ソフトウェアでエッセンスマークを設定したクリップを XDCAM EX 機器で再生すると、指定したフレームの近傍フレームにエッセンスマークが表示されます。

Acquisition（アクイジション）タブ：Animation View（アニメーション表示）選択時

Acquisition（アクイジション）タブ：Text View（テキスト表示）選択時

MP4 フォーマットクリップの撮影条件に関する情報がフレームごとに表示されます。リストボックスで「Animation View（アニメーション表示）」と「Text View（テキスト表示）」を切り換えることができます。

- Model Name：Camera/Lens（モデル名：カメラ / レンズ）
- Video Format（ビデオフォーマット）
- Date and Time（撮影日時）
- Auto Mode：AE/AF/WB（自動モード：自動露出 / オートフォーカス / ホワイトバランス）
- Lens Setting：Macro/Opt.Extender（レンズ設定：マクロ / 光学エクステンダー）
- Lens Parameter：Iris/Focus/Zoom/AngleOfView/Focusing（レンズパラメーター：絞り / 焦点位置 / ズーム位置 / 画角 / 被写界深度）
- Filter Wheel：ND/CC（フィルターホイール：ND フィルター /CC フィルター）
- Capturing：Mode/Rate/Shutter（撮影条件：撮影モード / スロー＆クイックモーション撮影時のフレームレート / シャッタースピード）
- Processing：Gain/Elec.Extender/WhiteBalance/Black/Gamma（画像処理：ゲイン / デジタルエクステンダー / ホワイトバランス / ブラックレベル / ガンマ）

ご注意

- 対象となるクリップが DV-AVI または MXF フォーマットの場合、Acquisition タブは表示されません。
- インポート素材やライン入力信号を記録した素材などは、撮影情報が表示されません。

Flash Band（フラッシュバンド）タブ

フラッシュバンドが発生したフレームに関する情報が表示されます。このタブは、フラッシュバンドの検出および補正が可能な MP4/DV-AVI クリップに対してのみ表示されます。

- タイムコード：フラッシュバンドが検出された（またはユーザーによって追加された）フレームのタイムコード
- フィールド：インターレースビデオの場合、補正を開始するフィールド（1st/2nd）
- 検出：検出方法（自動 / 手動）
- ステータス：補正処理状況（空欄（未補正）/ 補正済み）

◆ 操作については、「フラッシュバンドを補正する」（35 ページ）をご覧ください。

クリッププロパティーを一括編集するには

同一のメディアまたはフォルダー内のクリップのプロパティー（ステータス、タイトル 1、タイトル 2、撮影者、および説明）は、一括して編集することができます。

ご注意

DV-AVI クリップのプロパティーは編集できません。

1 エクスプローラウィンドウのツリー表示部で、メディアまたはフォルダーを選択する。

2 リスト表示部でクリッププロパティーの編集対象のクリップを選択する。（すべてのクリップ、または表示フィルターによって表示されているフォーマットのクリップすべてが編集対象のときは、この操作は不要です。）

3 ［編集］メニューで［クリッププロパティの一括編集 ...］を選択する。

クリッププロパティの一括編集ダイアログが開きます。

4 編集範囲を選択する。

- すべて：選択したメディアまたはフォルダー内のすべてのクリップ
- 表示しているクリップ（MP4）：リスト表示部に表示されているクリップ
- 選択しているクリップ：リスト表示部で選択されているクリップ

5 対象となる一括編集項目のチェックボックスをオンにし、設定値をリストボックスから選択するか、または編集内容をエディットボックスに入力する。

- ステータス：OK/NG/KEEP/None から選択
- タイトル 1：ASCII 文字で 63 バイト以下
- タイトル 2：127 バイト以下
- 撮影者：127 バイト以下
- 説明：127 バイト以下

既存の内容を上書きするには

［編集済み項目を上書きする］チェックボックスをオンにします。
このチェックボックスをオフにして一括編集を実行すると、空欄の項目のみ編集内容が反映されます。

6 ［実行］ボタンをクリックする。

一括編集を実行するかどうかを確認するメッセージが表示されます。

7 一括編集を実行する場合は［はい］ボタンを、中止する場合は［いいえ］ボタンをクリックする。

一括編集の進捗状況がプログレスバーで表示され、処理が完了すると処理完了を示すダイアログが表示されます。

8 ［OK］ボタンをクリックして、ダイアログを閉じる。

クリップの操作

クリップ操作に関するご注意

- 処理の実行中は、必ず次の事項をお守りください。
  - コンピューターおよびメディアドライブの電源を切らないでください。
  - 対象となるフォルダーを Windows エクスプローラなどで削除しないでください。
  - 対象となるメディアを取り出したり、抜いたりしないでください。
- XDCAM EX機器で空き容量がないと表示されたメディアに対しても、本ソフトウェアを使用してクリップのコピー / 移動を実行できる場合があります。ただし、そのメディアを再度 XDCAM EX 機器に挿入すると、修復が必要なメディアとして表示され、XDCAM EX 機器では、そのクリップの再生や削除をすることができません。
- Windows エクスプローラなどを使用して、直接 XDCAM ドライブからハードディスクなどにコピーして作成したフォルダーに対しては、クリップの追加や削除などの編集操作を行うことはできません。
- XDCAM HD機器のメニュー項目NAMING FORMの設定が「C****（標準形式)」の XDCAM ドライブに任意名（C**** 以外の名称）のクリップを書き込む場合、ファイル名は自動的に標準形式「C****」に変更されます。
- フレーム周波数が50pまたは60pのクリップをXDCAMドライブに書き込むと、奇数フレームに設定されているエッセンスマークとアウト点は、直前または直後の偶数フレームに移動します。たとえば、15 フレーム目に設定されているエッセンスマークは 14 フレーム目に、19 フレーム目に設定されているアウト点は 20 フレーム目に移動します。ただし、アウト点の移動先にエッセンスマークが設定されているときは、アウト点は削除されます。

◆ XDCAM HD 機器のメニュー操作について詳しくは、XDCAM HD 機器の取扱説明書またはオペレーションマニュアルをご覧ください。

クリップをコピーする

メディア内またはコンピューター上でクリップを複製したり、メディアとコンピューター間でクリップをコピーすることができます。

ご注意

MXF フォーマットクリップを XDCAM ドライブや MXF 属性フォルダーにコピーする場合、コピー元クリップの記録フォーマットとコピー先に存在するクリップの記録フォーマットが異なると、コピーできません。

複数のメディアに分割して記録されたクリップを 1 か所に集めると

XDCAM EX 機器では、4GB を超える映像ファイルを自動的に複数のクリップとして保存します。これらの分割されたクリップを 1 つのメディア / フォルダーに集めると、自動的に連結されて 1 つのクリップとして扱うことができます。

◆ 詳しくは、「複数のメディアに分割されたクリップを連結する」（27 ページ）をご覧ください。

選択したクリップをコピーするには

1 エクスプローラウィンドウのリスト表示部で、コピーしたいクリップをクリックして選択する。

ご注意

- 異常クリップを選択してもコピーできません。
- 同一フォルダーをコピー先に指定することはできません。

新規のフォルダーにコピーしたいときは

コピー先となるメディアやフォルダー内に新規フォルダーを作成しておきます。

◆ 操作については、「フォルダーを作成する」（38 ページ）をご覧ください。

2 次のいずれかの操作を行う。

- 手順 **1** で選択したクリップをドラッグし、別ウィンドウのリスト表示部または同一 / 別ウィンドウのツリー表示部にある、コピー先のメディア / フォルダーにドロップする。
- コピーボタンをクリックし、別ウィンドウのリスト表示部または同一 / 別ウィンドウのツリー表示部にある、コピー先のメディア / フォルダーをクリックしてから、そのウィンドウの貼り付けボタンをクリックする。
- ［編集］メニューで［コピー］を選択し、別ウィンドウのリスト表示部または同一 / 別ウィンドウのツリー表示部にある、コピー先のメディア / フォルダーをクリックしてから、［編集］メニューで［貼り付け］を選択する。

コピーを実行するかどうかを確認するメッセージが表示されます。

3 コピーを実行する場合は［はい］ボタンを、中止する場合は［いいえ］ボタンをクリックする。

コピーを開始すると、コピーの進捗状況を示すダイアログが開きます。

ご注意

いったんコピーが完了したら操作を取り消す（アンドゥを実行する）ことはできません。

コピーを中断するには

ダイアログ上の［中断］ボタンをクリックします。

コピーが実行できないときは

以下に示す状況では、コピーが実行されず、メッセージが表示されます。

- コピー先の容量が不足している。
- コピー先に同じクリップがすでに存在する。クリップ名が異なっていても、画像に付けられたID（UMID）が同じであれば、同じクリップと認識されます。
- コピー先のメディア / フォルダーに対する削除や書き込みの権限がない。
- コピー先のメディア / フォルダーが書き込み禁止になっている。

EX フォーマットファイルを MXF 属性のコピー先にコピーすると

EX フォーマットファイル（MP4 ファイル）を XDCAM ドライブや MXF 属性フォルダーにコピーすると、自動的に XDCAM HD フォーマットファイル（MXF ファイル）に変換されます。エクスポート機能（29 ページ参照）よりも簡単な操作で、EX 素材が XDCAM HD 機器で利用できるようになります。
変換後のファイルの記録フォーマットは、コピー先に存在するファイルの記録フォーマットと同じになります。1) ただし、ビットレートは、ユーザー設定ダイアログの変換タブ（45 ページ参照）の［MP4 → MXF 変換コピー時の設定］の［ビットレート設定］の設定に従います。

1) コピー先にファイルが 1 つも存在しないときは、ユーザー設定ダイアログの変換タブの［MP4 → MXF 変換コピー時の設定］の［フォーマット設定 : クリップなしフォルダの場合］の設定に従います。

補足

ユーザー設定ダイアログの編集タブ（44 ページ参照）で［EX →ノーマルフォルダへのコピー時、MXF に変換してコピーする］チェックボックスをオンにしておくと、コピー先がノーマルフォルダーであっても MXF ファイルに変換されます。コピー先に XDCAM HD 機器用クリップの管理フォルダー（42 ページ参照）が自動的に作成されるため、本ソフトウェアで変換したファイルを参照できます。（エクスポート機能を使用してノーマルフォルダーに出力した場合は、本ソフトウェアで参照することはできません。）

ご注意

- EX フォーマットファイル（DV-AVI ファイル）を XDCAM HD フォーマットファイルに変換することはできません。
- XDCAM HD フォーマットファイルから EX フォーマットファイルに変換することはできません。
- 変換前ファイルの記録フォーマットと変換後ファイルの記録フォーマットの組み合わせによっては、変換できないことがあります。
- MainConcept 社が提供するプラグインソフトウェア（有償）がインストールされていないと、変換後の映像に MainConcept 社のロゴの透かしが入ります。また、音声は 30 秒間のみ保存され、それ以降は無音になります。
- 変換によって画質が劣化することがあります。
- フォーマット変換処理を伴うため、通常のコピーよりも時間がかかります。
- EX フォーマットファイル（MP4 ファイル）から XDCAM HD フォーマットファイルへの変換処理で作成される MXF ファイルは、MPEG HD ファイルのみです。プロキシファイルは作成されません。

メディアやフォルダー内のクリップを一括してコピーするには

メディアやフォルダー内のクリップすべてを簡単な操作でコピーすることができます。SxS メモリーカードの内容をコンピューターのハードディスクに取り込むときに便利な機能です。

1 エクスプローラウィンドウのツリー表示部で、クリップが保存されているメディアまたはフォルダーを選択する。

2 次のいずれかの操作を行う。

- すべてコピーボタンをクリックする。
- ［編集］メニューで［すべてコピー］を選択する。

コピーを実行するかどうかを確認するメッセージが表示されます。コピー先のフォルダーを確認してください。

◆ コピー先のフォルダーは変更することができます。詳しくは、「ユーザー設定」（43 ページ）をご覧ください。

3 コピーを実行する場合は［はい］ボタンを、中止する場合は［いいえ］ボタンをクリックする。

コピーを開始すると、コピーの進捗状況を示すダイアログが開きます。

コピーを中断するには

ダイアログ上の［中断］ボタンをクリックします。

コピーが実行できないときは

以下に示す状況では、コピーが実行されず、メッセージが表示されます。

- コピー先の容量が不足している。
- コピー先に同じクリップがすでに存在する。クリップ名が異なっていても、画像に付けられたID（UMID）が同じであれば、同じクリップと認識されます。
- コピー先のメディア/フォルダーに対する削除や書き込みの権限がない。
- コピー先のメディア / フォルダーが書き込み禁止になっている。

コピーのチェック機能について

コピーしたファイルに対してCRC（巡回冗長検査）方式による誤り検出を実行する機能を有効にすれば、コピーの信頼性を向上させることができます。ただし、コピーの実行速度は低下します。

◆ 設定について詳しくは、「ユーザー設定」（43 ページ）をご覧ください。

クリップを移動する

メディア内またはコンピューター上でクリップを移動したり、メディアとコンピューター間でクリップを移動することができます。

ご注意

- XDCAM EX フォーマット以外のクリップ（XDCAM HD クリップなど）は操作できません。XDCAM EX クリップのみが操作対象です。
- 本ソフトウェアでは、OK マーク付きクリップも移動することができます。

複数のメディアに分割して記録されたクリップを 1 か所に集めると

XDCAM EX 機器では、4GB を超える映像ファイルを自動的に複数のクリップとして保存します。これらの分割されたクリップを1つのメディア / フォルダーに集めると、自動的に連結されて1つのクリップとして扱うことができます。

◆ 詳しくは、「複数のメディアに分割されたクリップを連結する」（27 ページ）をご覧ください。

移動モードについて

クリップを移動するとき、処理速度とデータ保護のどちらを優先するかを指定することができます。

- 処理速度優先：クリップを複製しない、通常の移動方法
- データ保護優先：クリップを複製してから複製元のクリップを削除する移動方法

◆ 設定について詳しくは、「ユーザー設定」（43 ページ）をご覧ください。

1 エクスプローラウィンドウのリスト表示部で、移動したいクリップをクリックして選択する。

ご注意

- 異常クリップを選択しても移動できません。
- 同一フォルダーを移動先に指定することはできません。

新規のフォルダーに移動したいときは

移動先となるメディアや移動先のフォルダー内に新規フォルダーを作成しておきます。

◆ 操作については、「フォルダーを作成する」（38 ページ）をご覧ください。

2 次のいずれかの操作を行う。

- 手順 **1** で選択したクリップをドラッグし、別ウィンドウのリスト表示部または同一 / 別ウィンドウのツリー表示部にある、移動先のメディア / フォルダーに、Shift キーを押したままドロップする。
- 切り取りボタンをクリックし、別ウィンドウのリスト表示部または同一 / 別ウィンドウのツリー表示部にある、移動先のメディア / フォルダーをクリックしてから、そのウィンドウの貼り付けボタンをクリックする。

- ［編集］メニューで［切り取り］を選択し、別ウィンドウのリスト表示部または同一 / 別ウィンドウのツリー表示部にある、移動先のメディア / フォルダーをクリックしてから、［編集］メニューで［貼り付け］を選択する。

移動を実行するかどうかを確認するメッセージが表示されます。

3 移動を実行する場合は［はい］ボタンを、中止する場合は［いいえ］ボタンをクリックする。

移動を開始すると、移動の進捗状況を示すダイアログが開きます。

ご注意

- いったん移動が完了したら操作を取り消す（アンドゥを実行する）ことはできません。
- 移動中に本ソフトウェアを終了しないようにしてください。本ソフトウェアが終了すると、クリップと付加情報（メタデータ）との関連性が失われる可能性があります。また、分割クリップの連結情報が失われて、移動後のクリップが異常クリップになる可能性があります。重要なクリップの場合は、データ保護優先モード（26 ページ参照）で移動することをおすすめします。

移動を中断するには

ダイアログ上の［中断］ボタンをクリックします。

移動が実行できないときは

以下に示す状況では、移動が実行されず、メッセージが表示されます。
- 移動先の容量が不足している。
- 移動先に同じクリップがすでに存在する。クリップ名が異なっていても、画像に付けられた ID（UMID）が同じであれば、同じクリップと認識されます。
- 移動するクリップが保存されているメディア / フォルダーまたは移動先のメディア / フォルダーに対する削除や書き込みの権限がない。
- 移動するクリップが保存されているメディア / フォルダーまたは移動先のメディア / フォルダーが書き込み禁止になっている。

クリップを削除する

ご注意

- 本ソフトウェアでは、OK マーク付きクリップも削除することができます。
- 編集リストにリンクしているクリップを削除すると、そのクリップにリンクしているすべての編集リストが削除されます。

1 エクスプローラウィンドウのリスト表示部で、削除したいクリップをクリックして選択する。

2 次のいずれかの操作を行う。

- Delete キーを押す。
- 削除ボタンをクリックする。
- ［編集］メニューで［削除］を選択する。

削除を実行するかどうかを確認するメッセージが表示されます。

3 削除を実行する場合は［はい］ボタンを、中止する場合は［いいえ］ボタンをクリックする。

ご注意

いったん削除が完了したら操作を取り消す（アンドゥを実行する）ことはできません。

削除が実行できないときは

以下に示す状況では、削除が実行されず、メッセージが表示されます。
- 削除するクリップが保存されているメディア / フォルダーに対する削除や書き込みの権限がない。
- 削除するクリップが保存されているメディア / フォルダーが書き込み禁止になっている。

複数のメディアに分割されたクリップを連結する

長時間にわたる撮影 / 記録のために複数のメディアに分割して記録されたクリップを、コピー、移動、またはフォルダー結合によって仮想的に連結することができます。連結したクリップは、1 つのクリップとして利用できます。

◆ それぞれの操作について詳しくは、「クリップをコピーする」（24 ページ）、「クリップを移動する」（26 ページ）、「フォルダーを結合する」（40 ページ）をご覧ください。

ご注意

- XDCAM EX フォーマット以外のクリップ（XDCAM HD クリップなど）は操作できません。XDCAM EX クリップのみが操作対象です。
- 時間軸上で連続していない分割クリップは連結されません。
- 異常クリップは連結されません。
- UMID が書き変えられているクリップは連結されません。連結の関連付けはファイル名ではなく UMID を参照して行われます。

範囲を指定して新規クリップを作成する

クリップにイン点とアウト点を設定して、新しいクリップを作成します。この方法で作成したクリップは元のクリップと同様に扱うことができるため、オンライン編集における素材の準備を効率よく行うことができます。

ご注意

MP4 フォーマット以外のクリップ（DV-AVI クリップや XDCAM HD クリップなど）は操作できません。MP4 クリップのみが操作対象です。

1 プレビューウィンドウでクリップをプレビューし（32 ページ参照）、先頭フレームにしたい位置でマークインボタンを、最終フレームにしたい位置でマークアウトボタンをクリックする。

クリップにイン点とアウト点が設定されます。

補足

イン点とデュレーションから、アウト点を決めることもできます。
デュレーションを設定するには、デュレーションのタイムコード表示をクリックして数値を入力し、Enter キーを押します。

ご注意

イン点とアウト点を同一フレームに設定することはできません。イン点（またはアウト点）の位置にアウト点（またはイン点）を設定しようとすると、自動的にアウト点がイン点の 1 フレーム後ろに設定されます。

2 手順 **1** で指定した範囲を再生し、必要に応じてイン点とアウト点の位置を変更する。

3 イン点 / アウト点を設定したクリップを、エクスプローラウィンドウのリスト表示部でクリックして選択する。

バッチ処理を行うには

一度の操作で、複数のクリップを連続して作成することができます。
同じメディア / フォルダー内に保存されている別のクリップに対して手順 **1** と **2** を行い、ここでそれらのクリップを選択します。

4 ［クリップ］メニューで［イン / アウト点間での新規クリップ作成］を選択する。

クリップの作成を実行するかどうかを確認するメッセージが表示されます。

イン点とアウト点が設定されていないときは

次の確認メッセージが表示され、そのまま実行すると、コピー操作と同じ結果になります。

5 クリップの作成を実行する場合は［はい］ボタンを、中止する場合は［いいえ］ボタンをクリックする。

クリップの作成を開始すると、クリップ作成の進捗状況を示すダイアログが開きます。

クリップの作成を中断するには

ダイアログ上の［中断］ボタンをクリックします。

クリップの作成が実行できないときは

以下に示す状況では、クリップの作成が実行されず、メッセージが表示されます。
- クリップの保存先の容量が不足している。
- クリップの保存先のメディア / フォルダーに対する削除や書き込みの権限がない。

クリップをインポートする

XDCAM EX フォーマット互換の MP4 または DV-AVI ファイルをインポートして、XDCAM EX 機器で取り扱うことのできるクリップとして登録することができます。

ご注意

XDCAM EX フォーマット以外のクリップ（XDCAM HD クリップなど）は操作できません。XDCAM EX クリップのみが操作対象です。

1 エクスプローラウィンドウのツリー表示部で、インポートする MP4 または DV-AVI ファイルの保存先となるメディアまたはフォルダーを選択する。

2 次のいずれかの操作を行う。

- ［ファイル］メニューで［インポート ...］を選択する。
- メディアまたはフォルダーを右クリックして表示されるコンテキストメニューから［インポート ...］を選択する。

インポートダイアログが開きます。

3 ［ファイルの種類］リストでファイルフォーマットを選択し、ファイル一覧でインポートする MP4 または DV-AVI ファイルを指定する。

4 インポートを実行する場合は［インポート開始］ボタンを、中止する場合は［キャンセル］ボタンをクリックする。

インポートを開始すると、インポートの進捗状況を示すダイアログが開きます。

インポートを中断するには

ダイアログ上の［中断］ボタンをクリックします。

インポートが実行できないときは

以下に示す状況では、インポートが実行されず、メッセージが表示されます。

- インポート先のメディア / フォルダーに対する削除や書き込みの権限がない。
- インポート先のメディア / フォルダーが書き込み禁止になっている。

ご注意

- 本ソフトウェアがチェックして XDCAM EX フォーマットと互換性が取れないと判断したファイルは、インポートできません。
- インポートされたクリップのプロパティーは自動で設定されます。
- XDCAM EX フォーマットとの互換性が取れないため、XDCAM EX 機器や本ソフトウェアで再生できないこともあります。
- DV-AVI ファイルのインポートでは、ファイル名を XDCAM EX 機器が認識できる名前に変更する場合があります。

クリップをエクスポートする

XDCAM EX 機器で作成されたクリップをエクスポート（フォーマット変換して出力）することによって、さまざまな環境での素材の利用が可能になります。

◆ 今後、バージョンアップによって、対応するビデオフォーマットを増やす予定です。バージョンアップに関する情報は、XDCAM EX 機器の取扱説明書の「特長」および付属の CD-ROM の表紙ページに記載されている URL にアクセスしてご確認ください。

ご注意

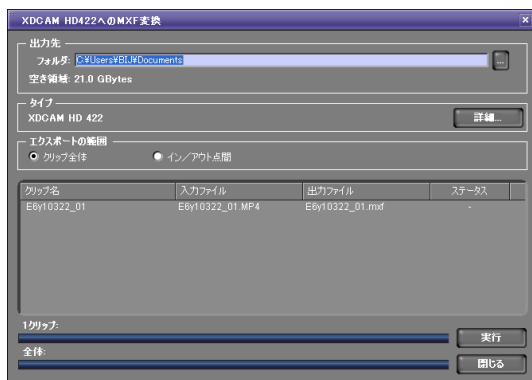
- XDCAM EX フォーマット以外のクリップ（XDCAM HD クリップなど）は操作できません。XDCAM EX クリップのみが操作対象です。
- DV-AVI ファイルは「NLE への MXF 変換」のみに対応しています。

1 エクスプローラウィンドウのリスト表示部で、エクスポートしたいクリップをクリックして選択する。

2 次のいずれかの操作を行う。

- ［ファイル］メニューで［エクスポート］、目的の変換方法を順に選択する。
- クリップを右クリックして表示されるコンテキストメニューから［エクスポート］、目的の変換方法を順に選択する。

◆ 各変換方法について詳しくは、「変換方法の詳細」（31ページ）をご覧ください。

変換方法に応じたエクスポートダイアログが開きます。（次図は［XDCAM HD422 への MXF 変換］を選択したときに開くダイアログです。）

3 必要に応じて次の設定を変更する。

出力先：エクスポート先のフォルダーを指定します。エディットボックスにドライブ名から始まるパス名を入力するか、［...］ボタンをクリックして開くフォルダの参照ダイアログでフォルダーを選択し、［OK］ボタンをクリックします。

ご注意

エクスポート先のメディアの空き容量が充分にあることを確認してからエクスポートを実行してください。空き容量が不足した時点でエラーになります。

タイプ：［詳細 ...］ボタンをクリックして開く詳細設定ダイアログで各種パラメーターを変更し、［OK］ボタンをクリックします。この項目は、変換方法によっては表示されません。

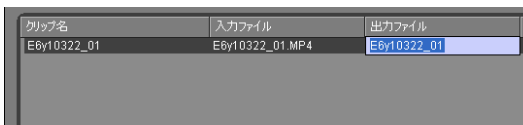
クリップのオーディオチャンネル数によって、［オーディオ］セクションの［チャンネル］リストの設定値とオーディオ出力は次表のように対応します。

クリップのオーディオチャンネル数	［チャンネル］リストの設定値	オーディオ出力
2	1CH	チャンネル 1 と 2 の信号のミックス
4	1CH	チャンネル 1 ～ 4 の信号のミックス
	2CH	**チャンネル 1：**チャンネル 1 と 3 の信号のミックス **チャンネル 2：**チャンネル 2 と 4 の信号のミックス

エクスポートの範囲：現在クリップに設定されているイン点 / アウト点間を変換出力したいときは、［イン / アウト点間］を選択します。この項目は、変換方法によっては表示されません。

出力ファイル名を変更するには

クリップ一覧でクリップを選択して次のいずれかの操作を行うと、ファイル名が編集可能な状態になります。

- ファイル名をクリックする。
- 反転表示部分を右クリックして表示されるコンテキストメニューから［出力ファイル名の変更］を選択する。

希望のファイル名を入力し、Enter キーを押すか名前以外の場所をクリックします。拡張子の入力は不要です。

4 ［実行］ボタンをクリックして、エクスポートを開始する。

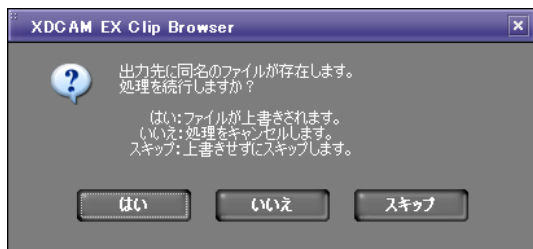
エクスポートの進捗状況がプログレスバーで表示され、処理状況がリスト表示部の［ステータス］カラムに表示されます。

エクスポートを中断するには

［停止］ボタンをクリックします。

出力先に同名のファイルが存在するときは

処理を選択するダイアログが開きます。
ダイアログの説明に従って、いずれかのボタンをクリックします。

ご注意

- 変換対象のフォーマットによっては、MainConcept 社が提供するプラグインソフトウェア（有償）がインストールされている必要があります（54 ページ参照）。インストールされていないと、エクスポート後の映像に MainConcept 社のロゴの透かしが入ります。また、音声は 30 秒間のみ保存され、それ以降は無音になります。
- 指定するパラメーターによっては、画像補正処理などの影響により、変換後の画質が劣化することがあります。
- 変換後のフォーマットは、ネイティブファイルのフォーマットと完全に同一にならないことがあります。
- 映像の付加情報が、変換時に引き継がれないことがあります。
- 再エンコードが必要な変換では、画質が劣化することがあります。
- ビットレート、解像度、またはフレームレートの変更を伴う変換では、画質が劣化したり、デュレーションが変わることがあります。
- エクスポート先のメディアまたはフォルダーは、ファイルの書き込みが可能な状態にしておいてください。

変換方法の詳細

ファイルの変換方法は、次表に示す項目から選択することができます。

［エクスポート］のサブコマンド	変換後の拡張子	内容
NLE への MXF 変換 a)	mxf	ビットレートや解像度などのパラメーターを変更することなく、MXF ファイルに変換します。MXF ファイルのみをサポートしている編集機向けです。
XDCAM HD への MXF 変換 b)、c)	mxf	XDCAM HD 機器で記録する MXF フォーマットと互換性のあるファイルに変換します。
XDCAM HD422 への MXF 変換 b)	mxf	XDCAM HD422 機器で記録する MXF フォーマットと互換性のあるファイルに変換します。
XDCAM MPEG IMX への MXF 変換 d)	mxf	XDCAM MPEG IMX 機器で記録する MXF フォーマットと互換性のあるファイルに変換します。
XDCAM DVCAM への MXF 変換 d)	mxf	XDCAM DVCAM 機器で記録する MXF フォーマットと互換性のあるファイルに変換します。
RAW DV 変換	dv	RAW DV フォーマットに変換します。DV フォーマットでの編集用途で使用します。編集環境に応じて［AVI DV 変換］と使い分けます。
AVI DV 変換	avi	AVI Type2 フォーマットに変換します。DV フォーマットでの編集用途で使用します。編集環境に応じて［RAW DV 変換］と使い分けます。
Avid AAF 変換 e)	AAF/mxf	次の 2 つのファイルに変換します。 **AAF ファイル：**Avid 社の編集機でクリップを読み込むときに使用します。拡張子は「AAF」、出力先はエクスポートダイアログで指定したメディアまたはフォルダーです（30 ページ参照）。変換後の AAF ファイルを Windows エクスプローラからドラッグして Avid 社の編集機のビン内にドロップすると、プロジェクトに登録されます。 **MXF OPAtom ファイル：**拡張子は「mxf」、出力先はユーザー設定ダイアログの変換タブで指定したメディアまたはフォルダーです（45 ページ参照）。通常は Avid 社の編集機で設定するメディアの保存フォルダーを指定しておきます。 ◆詳しくは、編集機の取扱説明書をご覧ください。
Windows Media File 変換	wmv	Windows Media Player 9 互換のフォーマットに変換します。
PSP 用変換 f)	mp4	ソニー・コンピュータエンタテインメントの携帯ゲーム機プレイステーション・ポータブル（PSP）でクリップをプレビューするときに使用します。
iPod 用変換 f)	mp4	Apple Inc. の携帯メディアプレーヤー iPod でクリップをプレビューするときに使用します。
動画配信サイト用変換	wmv	インターネットの動画配信サイト向けに最適化したファイルに変換します。

a) イン点 / アウト点間を指定してエクスポートする場合、変換後のデュレーションが指定した範囲よりも長くなることがあります。
b) 2 秒以下のクリップを MXF ファイルに変換しても、エクスポート先の機器に書き込むことはできません。
c) フレームレートが 23.98p のクリップは、23.98p のフレームレートにのみ変換できます。
d) 本ソフトウェアは、XDCAM MPEG IMX、XDCAM DVCAM フォーマットクリップのコピー、削除、およびプロパティー表示に対応しています。プレビューなどの操作には対応していません。サムネイル表示は×印付きの黒画になります。

e) すでにエクスポートされているクリップと同一のクリップをエクスポートしても、Avid 社の編集機に受け付けられないことがあります。
f) 指定した機器以外のビューアーで再生すると、正しく再生できないことがあります。

クリップの内容をプレビューする

プレビューウィンドウのスクリーンでクリップの内容をプレビューすることができます。

◆ プレビューウィンドウにはいくつかの制約事項があります。詳しくは、「プレビューウィンドウについてのご注意」（18 ページ）をご覧ください。

プレビューウィンドウにクリップをロードするには

エクスプローラウィンドウのリスト表示部にプレビューしたいクリップを表示し、次のいずれかを実行します。
- クリップをダブルクリックする。
- クリップをクリックして Enter キーを押す。
- クリップをドラッグし、プレビューウィンドウ内にドロップする（複数のクリップを選択した場合は実行できない）。
- クリップを右クリックして表示されるコンテキストメニューから［再生］を選択する。
- クリップをクリックしてスペースキーを押す。

プレビューウィンドウにクリップがロードされます（第 4 項または第 5 項を実行した場合は、クリップのロード後に再生が始まります）。スクリーンの上部に、クリップの現在位置のタイムコード（またはカウンター値）と、クリップに設定されているイン点 / アウト点間のデュレーション（DURATION）が表示されます。

再生を停止するには

再生ボタンをクリックします。

ご注意

DVD-R や CD-R に保存されているクリップをプレビューすると、滑らかに再生されません。

プレビューの操作をするには

次のいずれかの方法により、プレビューウィンドウ上に表示されたクリップに対して再生などの操作を行うことができます。
- プレビューウィンドウ上のコマンドボタン（19 ページ参照）をクリックする。
- ［再生］メニューで実行したい操作項目を選択する。
- プレイラインをドラッグする。
- J、K、L キーを押す。
  J：逆方向再生の再生速度を変更する。押すごとに－ 1、－ 2、－ 4、－ 8、－ 16 倍速に変わる。
  K：再生を停止する。
  L：順方向再生の再生速度を変更する。押すごとに 1、2、4、8、16 倍速に変わる。

ご注意

± 4 倍速以上の再生では、音声は出力されません。

スクリーンを全画面表示にするには

スクリーンをダブルクリックするか、または［表示］メニューで［全画面］を選択すると、フルスクリーン表示になります。
元の表示に戻すには、スクリーンをダブルクリックするか、または Esc キーを押します。

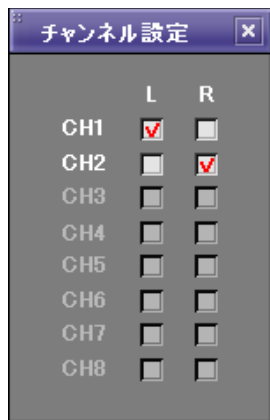
MXF フォーマットクリップの再生モードを変更するには

ユーザー設定ダイアログの再生タブ（45 ページ参照）で「MPEG HD（高解像度）」または「Proxy（低解像度）」を選択します。
「MPEG HD」に設定しておくと、スクリーンを拡大表示したときに高精細な画像でプレビューすることができます。

ご注意

- クリップの再生中に再生モードを変更することはできません。
- プロキシ AV データを持たないクリップは、この設定にかかわらず、高解像度で再生されます。
- XDCAM ドライブ上のクリップは、この設定にかかわらず、低解像度で再生されます。
- 高解像度データはファイルサイズが大きいため、滑らかに再生されないことがあります。

プレビュー時のオーディオチャンネルを選択するには

チャンネル設定ダイアログで、出力したいチャンネルの L（左チャンネル）または R（右チャンネル）のチェックボックスをオンにします。
チャンネル設定ダイアログを開くには、次のいずれかを実行します。
- ［再生］メニューで［オーディオチャンネルの設定 ...］を選択する。
- オーディオチャンネルの設定ボタンをクリックする。

クリップの代表画を変更する

クリップのプレビュー中に、クリップの代表画を変更することができます。

ご注意

DV-AVI クリップの代表画を変更することはできません。

1 クリップを再生して、代表画に設定したいフレームを表示する。

2 ［編集］メニューで［代表画の設定］を選択するか、代表画の設定ボタンをクリックする。

現在表示しているフレームが代表画になり、クリッププロパティー部の General タブの Index Picture に変更が反映されます。

ご注意

- メディアに保存されたクリップをプレビューしている場合は、本操作中にメディアを取り出さないでください。
- 本操作中電源が切れないよう注意してください。
- 代表画を変更したクリップをXDCAM EX機器で使用すると、指定した代表画の近傍フレームが代表画になることがあります。
- 再生中に本操作を行うと、再生が停止するまで変更が代表画のサムネイルに反映されないことがあります。

静止画を作成する

ご注意

XDCAM ディスク上のクリップから静止画を作成することはできません。

1 エクスプローラウィンドウでクリップを再生し、静止画にしたい位置で停止する。

2 次のいずれかの操作を行う。

- 静止画を作成ボタンをクリックする。
- ［ファイル］メニューで［静止画を作成 ...］を選択する。

静止画の保存ダイアログが開きます。

画像がぶれているときは

作成元クリップがインターレースビデオ（フレーム周波数が 59.94i、50i など）の場合、補間フィールドの設定を変更すると画像のぶれが軽減することがあります。

- 1st：第 1 フィールドで第 2 フィールドを補間
- 2nd：第 2 フィールドで第 1 フィールドを補間
- フレーム：第 1 フィールドと第 2 フィールドの合成

ご注意

作成元クリップがプログレッシブビデオ（フレーム周波数が 59.94p、50p など）の場合、補間フィールドは「フレーム」に固定されます。

3 ファイル名と保存先を指定して、［OK］ボタンをクリックする。

手順 **2** を実行した時点のフレームが、静止画としてビットマップ形式で作成されます。

クリップを検索する

検索するクリップの所在がわかっているかどうかによって、次のいずれかの方法でクリップを検索することができます。

フォルダー指定検索：クリップの所在がわかっているとき、特定のフォルダーの中から、クリップのプロパティー（属性）を検索条件としてクリップを絞り込みます。

フリーワード検索：クリップの所在がわからないとき、本ソフトウェアがインストールされているコンピューターの中から、キーワードに基づいてクリップを絞り込みます。

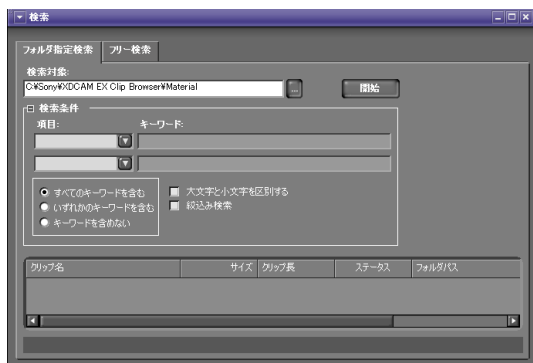
ご注意

検索実行中は、必ず次の事項をお守りください。

- 対象となるフォルダーを削除しないでください。
- 対象となるメディアを取り出したり、抜いたりしないでください。

1 エクスプローラウィンドウがアクティブな状態で、次のいずれかの操作を行う。

- 検索ボタンをクリックする。
- ［編集］メニューで［検索 ...］を選択する。

検索ダイアログが開きます。

2 検索条件を指定する。

フォルダ指定検索タブ

検索対象を変更するには：［...］ボタンをクリックして開くフォルダの参照ダイアログでフォルダーを選択し、［OK］ボタンをクリックします。

検索条件を指定するには：最低 1 つの項目を［項目］リストから選択し、項目に応じて表示されるエディットボックスに条件を入力するか、またはリストから条件を選択します。

検索の種類を指定するには：［すべてのキーワードを含める］（AND 検索）、［いずれかのキーワードを含める］（OR 検索）、［キーワードを含めない］（NOT 検索）のいずれかをクリックします。

検索オプションを設定するには：必要に応じて［大文字と小文字を区別する］、［絞込み検索］（検索結果を対象として、さらに条件を絞り込んで検索する）をオンにします。

ご注意

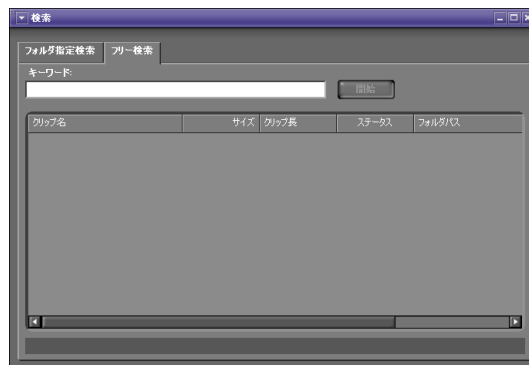
［項目］リストで［クリップ名］を選択すると、ユーザー設定ダイアログの表示タブの［クリップ名］に設定された条件で検索が行われます。

フリー検索タブ

ご注意

- Windows XP の場合、最新版の Windows デスクトップサーチがインストールされていないと、フリー検索タブを開くことができません。
- フリーワード検索は Windows デスクトップサーチを使用しているため、検索結果は Windows デスクトップサーチの機能に依存します。
- Windows デスクトップサーチはコンピューターが使用されていない間にインデックスを作成し、インデックスを利用して検索を実行します。したがって、インデックスが作成されていないクリップは、ハードディスク上に存在していても検索されません。
- フリーワード検索を行うには、あらかじめ Windows デスクトップサーチのオプション設定でクリップが存在するフォルダーを登録し、インデックスを作成しておいてください。

  ◆ Windows デスクトップサーチの操作方法について詳しくは、Windows のヘルプをご覧ください。

- XDCAM HD 機器のドライブ内は検索の対象外です。

検索条件を指定するには：［キーワード］ボックスに条件を入力します。複数の条件を入力することができ、AND 検索（部分一致検索）を実行します。大文字と小文字は区別されません。

3 ［開始］ボタンをクリックする。

手順 **2** で指定した条件に該当するクリップが、検索ダイアログ内に一覧表示されます。

検索条件を隠すには（フォルダー指定検索時）

［－］ボタンをクリックします。
非表示のときに［+］ボタンをクリックすると、再び表示されます。

検索結果を並べ替えるには

並べ替えのキーにしたい項目のヘッダーカラムをクリックします。
クリックするごとに昇順整列と降順整列が切り替わります。

検索結果をエクスプローラウィンドウで表示するには

検索結果を 1 つだけ選択して、次のいずれかを実行します。

- ［検索］メニューで［エクスプローラで表示］を選択する。
- 検索結果を右クリックして表示されるコンテキストメニューから［エクスプローラで表示］を選択する。

検索結果を再生するには

検索結果を 1 つだけ選択して、次のいずれかを実行します。

- ［検索］メニューで［再生］を選択する。
- 検索結果を右クリックして表示されるコンテキストメニューから［再生］を選択する。

フラッシュバンドを補正する

「フラッシュバンド」とは、フラッシュのような短時間光を浴びた被写体を CMOS センサー方式のカメラ / カムコーダーで撮影したときに、画面全体ではなく、画面の上下いずれかに発生する明るい部分のことです。または、画面の上下が明部と暗部に分割される現象を「フラッシュバンド」と呼びます。

本ソフトウェアでは、フラッシュバンドが発生したフレームを含むクリップの複製を作成し、複製したクリップに対して補正処理を行います。複数のクリップに対して操作が可能です。

ご注意

- MXF クリップは操作できません。
- 以下のクリップは、フラッシュバンドの検出および補正を行うことはできません。
  - インポート素材やライン入力信号を記録した素材など
  - 23.98p で撮影され、59.94i に 2-3 プルダウン変換されたクリップ
  - 書き込み禁止クリップ、または書き込み禁止メディア上のクリップ
  - XDCAM ディスクの UserData フォルダー内のクリップ

フラッシュバンドを自動検出するには

1 エクスプローラウィンドウのリスト表示部でフラッシュバンドを検出したいクリップを選択する。

2 ［クリップ］メニューまたはコンテキストメニューで［フラッシュバンド］、［検出］、［イン / アウト間］または［全範囲］を順に選択する。

フラッシュバンドの検出が始まり、プログレスバーで処理の進捗状況が表示されます。処理が完了すると、メッセージが表示されます。

ご注意

- DV-AVIクリップはイン点およびアウト点の編集に対応していないため、範囲の指定にかかわらず、全範囲が検出対象になります。
- 本機能は、すべてのフラッシュバンドの検出を保証するものではありません。たとえば、次のような場合、フラッシュバンドを検出することはできません。
  - 先頭フレーム近傍および最終フレーム近傍
  - フラッシュバンドが連続する区間
  - 電子シャッターを有効にして撮影されたシーン
  - 隣接するフレーム間でシーンが急激に変化する場合
  - フラッシュによる白飛びの面積が小さい場合
  - ソフトウェアの機能上、フラッシュバンドであるかどうかの判断が難しい場合

検出されたフラッシュバンドを確認・編集するには

1 フラッシュバンドを確認したいクリップをプレビューウィンドウにロードする（32 ページ参照）。

2 プレビューウィンドウのクリッププロパティー部にFlash Band タブが表示されることを確認し、Flash Band タブをクリックする。

3 ［読込み］ボタンをクリックする。

フラッシュバンドが検出されたフレームのタイムコードがリスト表示されます。

4 Flash Band タブのリストでタイムコードを選択し、スクリーンに表示される画面を確認する。

補正後の画像を確認するには

［プレビュー］チェックボックスをオンにして、確認したいフレームのタイムコードを選択します。

補正する必要がないと判断したときは

当該フレームが選択された状態で［削除］ボタンをクリックするか、または当該フレームのコンテキストメニューから［削除］を選択します。
リストおよびポジションバーから当該フレームの情報が削除されます。

自動検出されなかったフレームを補正対象にするには

補正対象にしたいフレームをスクリーンに表示させ、［追加］ボタンをクリックします。
リストおよびポジションバーに当該フレームの情報が追加されます。リストの検出欄には「手動」と表示されます。

ご注意

フラッシュバンドが生じていないフレームを補正すると、画質が劣化することがあります。

補正開始フィールドを変更するには

補正対象のクリップがインターレースビデオの場合、当該フレームのコンテキストメニューから［フィールド］、［1st］または［2nd］を順に選択します。
補正開始フィールドを変更すると、フレームの検出方法にかかわらず、リストの検出欄には「手動」と表示されます。

5 手順 **4** で何らかの変更を行った場合は、［保存］ボタンをクリックする。

ご注意

この操作を行わずにフラッシュバンド補正を実行すると、変更は反映されません。

フラッシュバンドを補正するには

前項の操作に引き続きフラッシュバンドを補正するには、次のように操作します。

1 エクスプローラウィンドウのリスト表示部で当該クリップを選択する。

2 ［クリップ］メニューまたはコンテキストメニューで［フラッシュバンド］、［補正］、［イン / アウト間］または［全範囲］を順に選択する。

選択されたクリップが複製され、複製されたクリップに対してフラッシュバンドの補正が始まります。プログレスバーで処理の進捗状況が表示され、すべての処理が完了するとメッセージが表示されます。

ご注意

- DV-AVI クリップはイン点およびアウト点の編集に対応していないため、範囲の指定にかかわらず、全範囲が補正対象になります。
- 複製元のクリップに対しては、補正処理は実行されません。
- 先頭フレームおよび最終フレームに対しては、フラッシュバンドを補正することはできません。
- フラッシュの発光特性によっては、補正後に白い帯が残ることがあります。

フラッシュバンドの自動検出と補正を連続して実行するには

「フラッシュバンドを自動検出するには」（35 ページ）の手順 **2** で、［検出］コマンドの代わりに［検出と補正］コマンドを選択します。
自動検出完了後、自動的に補正処理に移行します。

フラッシュバンド補正したクリップを確認するには

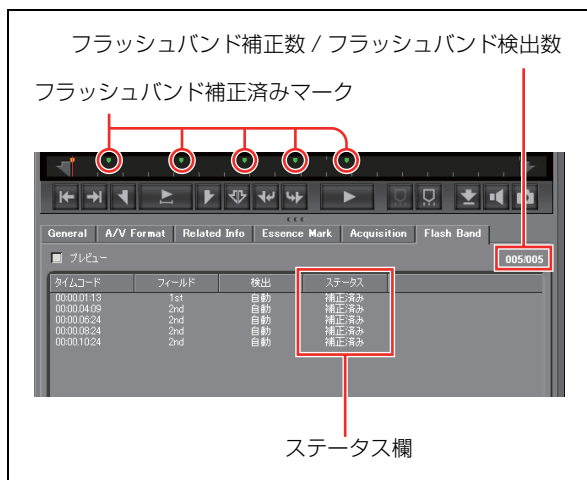
1 エクスプローラウィンドウのツリー表示部で、補正クリップの保存先となるメディアまたはフォルダーを選択する。

◆ 補正クリップの保存先は、ユーザー設定ダイアログのフラッシュバンドタブで指定することができます。詳しくは、46 ページをご覧ください。

2 フラッシュバンド補正したクリップをプレビューウィンドウにロードする（32 ページ参照）。

3 プレビューウィンドウで Flash Band タブをクリックする。

4 ［読み込み］ボタンをクリックする。

補正対象のフレームのタイムコードがリスト表示されます。
ポジションバー上のマークが濃い緑色（フラッシュバンド補正済み）に変わっていること、ステータス欄に「補正済み」と表示されていることを確認します。

5 タイムコードを選択し、スクリーンに表示される画面を確認する。

フォルダー / メディアの操作

フォルダー / メディア操作に関するご注意

処理の実行中は、必ず次の事項をお守りください。

- コンピューターおよびメディアドライブの電源を切らないでください。
- 対象となるメディアを取り出したり、抜いたりしないでください。

EX フォーマットクリップのフォルダーについて

EX フォーマットクリップが保存されているフォルダーには、BPAV フォルダー（41 ページ参照）が存在します。（エクスプローラウィンドウには表示されませんが、Windows エクスプローラで見ることができます。）
本ソフトウェアでは、クリップをコピーしたり、移動するときは、BPAV フォルダーも一緒にコピーまたは移動します。BPAV フォルダーと切り離してクリップだけを操作することはできません。

ご注意

ネットワーク機能を使用して、複数のコンピューターから同時に同じフォルダーを操作すると、ファイルがアクセス不能になることがあります。

MXF フォーマットクリップのフォルダーについて

MXF フォーマットクリップの管理フォルダーは、Clip、Edit、および Sub のサブフォルダーで構成されている必要があります（42 ページ参照）。さらに、Clip フォルダー内に保存できるクリップのフォーマットには次の制約があります。

- フレームレート（NTSC/PAL/24p）が同じであること
- コーデック（MPEG IMX/DVCAM/HD4:2:0/HD4:2:2）が同じであること
- 解像度の幅が同じであること（解像度の高さは問わない）
- MPEG IMX の場合、ビットレートが同じであること

これらの条件は、フォルダー内に最初に存在するクリップのフォーマットで決まります。また、MXF クリップをコピーする場合は、コピー元のクリップとコピー先に存在するクリップがこれらの条件を満たしている必要があります。

フォルダーを作成する

1 エクスプローラウィンドウのツリー表示部で、フォルダーを作成したいメディアまたはフォルダーを選択する。

2 次のいずれかの操作を行う。

- フォルダの新規作成ボタンをクリックする。
- ［ファイル］メニューで［フォルダ］、［新規作成］を順に選択する。
- メディアまたはフォルダーを右クリックして表示されるコンテキストメニューから［フォルダの新規作成］を選択する。

手順 **1** で選択したメディアまたはフォルダー内に、新規フォルダーが作成されます。

フォルダーが作成できないときは

以下に示す状況では、フォルダーは作成されず、メッセージが表示されます。
- 手順 **1** で選択したメディア / フォルダーに対する書き込みの権限がない。
- 手順 **1** で選択したメディア / フォルダーが書き込み禁止になっている。

ご注意

- コンピューターのファイルシステム上、書き込みができないファイルシステムでは、フォルダーを作成することはできません。
- フォルダーの作成直後は通常のフォルダーと同じですが、クリップのコピーや移動などを 1 度でも行うと、自動的に XDCAM EX 機器用または XDCAM HD 機器用のワークフォルダーにフォーマットされます。（必要なフォルダーやメタデータファイルが自動的に作成されます。）

フォルダー名を変更するには

1 作成したフォルダーを選択し、次のいずれかの操作を行う。

- ［ファイル］メニューで［フォルダ］、［名前の変更］を順に選択する。
- フォルダーを右クリックして表示されるコンテキストメニューから［名前の変更］を選択する。

フォルダー名が編集可能な状態になります。

2 希望のフォルダー名を入力し、Enter キーを押すか名前以外の場所をクリックする。

ご注意

- 「BPAV」という名前を指定することはできません。
- OS で使用が禁止されている文字は使用できません。
- フォルダー名がフルパスで 200 文字以上ある場合、クリップを認識できないことがあります。

フォルダーのバックアップを作成するには

1 エクスプローラウィンドウのツリー表示部で、バックアップを作成したいフォルダーを選択する。

2 次のいずれかの操作を行う。

- ［ファイル］メニューで［Windows エクスプローラで開く ...］を選択する。
- フォルダーを右クリックして表示されるコンテキストメニューから［Windows エクスプローラで開く ...］を選択する。

Windows エクスプローラが起動します。

3 Windows エクスプローラでバックアップ作成の操作を行う（任意のメディアまたはフォルダーにコピーする）。

フォルダーの容量が大きいため、1 つのメディア / フォルダーに保存できないときは

フォルダーを分割することにより、複数のディスクに分けてバックアップを作成することができます。分割されたフォルダーは再結合して元に戻すことができます。

◆ 詳しくは、「フォルダーを分割する」（39 ページ）および「フォルダーを結合する」（40 ページ）をご覧ください。

フォルダーを削除する

1 エクスプローラウィンドウのツリー表示部で、削除したいフォルダーを選択する。

2 次のいずれかの操作を行う。

- Delete キーを押す。
- 削除ボタンをクリックする。
- ［編集］メニューで［削除］を選択する。
- フォルダーを右クリックして表示されるコンテキストメニューから［削除］を選択する。

削除を実行するかどうかを確認するメッセージが表示されます。

3 削除を実行する場合は［はい］ボタンを、中止する場合は［いいえ］ボタンをクリックする。

フォルダーを削除できないときは

以下に示す状況では、削除が実行されず、メッセージが表示されます。

- 選択したフォルダーに対する削除や書き込みの権限がない。
- 選択したフォルダーが書き込み禁止になっている。
- 選択したフォルダーの直下に、クリップや他のフォルダーが存在する。[1)]

ご注意

- フォルダーを削除すると、フォルダー内の全データが削除されますので注意してください。
- いったん削除が完了したら操作を取り消す（アンドゥを実行する）ことはできません。

1) 対象フォルダー（Work1）を削除できない例を以下に示します。

XDCAM EX 機器が管理していないファイルなどがあるとき

他のワークフォルダー（Work2）などがあるとき

Work1 フォルダーを削除するには、あらかじめ XDCAM EX 機器が管理していないファイルや Work2 フォルダーを削除する必要があります。ただし、本ソフトウェアの起動中に、Windows エクスプローラなどを使用して Work1 フォルダー内にフォルダーやファイルを作成したときは、これらの操作を行わなくても削除される場合があります。

フォルダーを分割する

フォルダーを分割してクリップを分散させて保存することにより、各フォルダーの記録容量を小さくすることができます。フォルダー内の全データを、フォルダーよりも小さい容量のメディアにバックアップする場合に使用します。たとえば、8GB のフォルダーを 4GB の DVD-R メディアにバックアップする場合、4GB のフォルダー 2 つに分割します。フォルダーを分割しても個々のファイルは分割されません。

ご注意

XDCAM EX フォーマット以外のクリップ（XDCAM HD クリップなど）は操作できません。XDCAM EX クリップのみが操作対象です。

1 エクスプローラウィンドウのツリー表示部で、分割したいフォルダーを選択する。

2 次のいずれかの操作を行う。

- フォルダの分割ボタンをクリックする。
- ［クリップ］メニューで［フォルダの分割 ...］を選択する。
- フォルダーを右クリックして表示されるコンテキストメニューから［フォルダの分割 ...］を選択する。

フォルダの分割ダイアログが開きます。

ご注意

フォルダーを分割しても個々のファイルは分割されません。分割後のフォルダーが指定した容量になるように、クリップが振り分けられます。したがって、フォルダー内にある一番大きなファイルサイズ以下のフォルダーサイズを指定することはできません。また、4GB 未満のサイズも指定できません。

3 ［メディア］リストからメディアの種類を選択する。

選択したメディアに応じて、フォルダーの分割後のサイズが表示されます。
「任意のサイズ」を選択した場合は、エディットボックスに任意の数値（4 ～ 100 の整数）を入力します。

4 ［開始］ボタンをクリックする。

指定したフォルダーの容量に応じて、分割数が最小となるようにフォルダーが分割され、クリップが各フォルダーに振り分けられます。分割の結果生成されたフォルダーには、元のフォルダー名に通し番号が付加された名前が自動的に設定されます。

ご注意

- いったん分割を開始したら中断（キャンセル）することはできません。
- ファイル分割されているクリップは、それぞれ別のフォルダーに振り分けられることがあります。ファイル分割されているクリップの振り分け先を変更する場合は、フォルダー分割後に手動でクリップを移動してください。

フォルダーを結合する

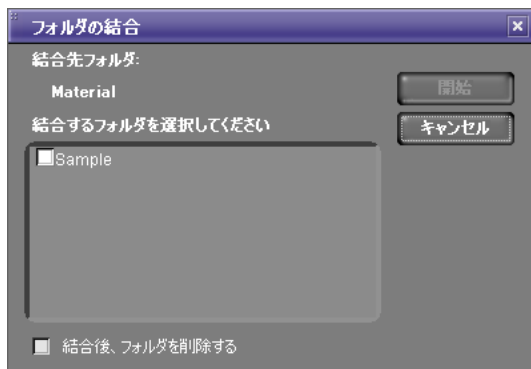
指定したフォルダーに他のフォルダーを結合することができます。分割したフォルダーを元に戻すための機能です。

ご注意

- XDCAM EX フォーマット以外のクリップ（XDCAM HD クリップなど）は操作できません。XDCAM EX クリップのみが操作対象です。
- 結合の対象となるフォルダーは、同一階層にあり、かつ本ソフトウェアが管理するフォルダー（41 ページ参照）に限られます。

1 エクスプローラウィンドウのツリー表示部で、結合したいフォルダーを選択する。

2 次のいずれかの操作を行う。

- ［クリップ］メニューで［フォルダの結合 ...］を選択する。
- フォルダーを右クリックして表示されるコンテキストメニューから［フォルダの結合 ...］を選択する。

フォルダの結合ダイアログが開きます。

3 手順**1**で指定したフォルダーに結合したいフォルダーのチェックボックスをオンにする。フォルダーの結合後、元のフォルダーを削除する場合は、［結合後、フォルダを削除する］チェックボックスをオンにする。

ご注意

次の場合、フォルダーは削除されません。
- 結合するフォルダー内に別のフォルダーがあるとき
- フォルダーに削除や書き込みの権限がないとき
- フォルダーが書き込み禁止になっているとき

4 ［開始］ボタンをクリックする。

手順 **1** で指定したフォルダーに手順 **3** で指定したフォルダーが結合され、フォルダー内のクリップが結合先に集められます。ファイル分割されていたクリップは自動的に連結し、1 つのクリップとして利用できます。

フォルダーが結合されないときは

以下に示す状況では、フォルダーは結合されず、メッセージが表示されます。
- 結合先フォルダーの容量が不足している。
- 結合元または結合先フォルダーに対する書き込みの権限がない。
- 結合元または結合先フォルダーが書き込み禁止になっている。
- 同じクリップが複数存在する。

ディスクメタデータの内容を確認 / 編集する

XDCAM ドライブまたは MXF 属性フォルダーに保存されているディスクメタデータ（DISCMETA.XML）（42 ページ参照）の内容を確認 / 編集することができます。

1 エクスプローラウィンドウのツリー表示部で、XDCAM ドライブまたは MXF 属性フォルダーを選択する。

2 次のいずれかの操作を行う。

- ［編集］メニューで［ディスクメタの編集 ...］を選択する。
- XDCAM ドライブまたは MXF 属性フォルダーを右クリックして表示されるコンテキストメニューから［ディスクメタの編集 ...］を選択する。

ディスクメタの編集ダイアログが開きます。

3 必要に応じて次の項目を編集する。

- ユーザーディスク ID（最大 127 バイト）
- タイトル 1（最大 63 バイト）
- タイトル 2（最大 127 バイト）
- 説明（最大 2047 バイト）

4 ［OK］ボタンをクリックする。

付録

EX フォーマットクリップのデータ管理構造について

記録フォーマット

本ソフトウェアでは、XDCAM EX 機器用に規定されたフォーマットを使用することができます。このフォーマットの仕様は次のとおりです。

- フォルダーの名前と構成は、次項の図のように決められている。
- ファイルには各ファイルやフォルダー間のリンクに関する情報が記録されている。

ご注意

- XDCAM EXフォーマットに対応していないツールなどを使用して、ファイルを編集したり、ファイルやフォルダーに対して削除、移動、名前の変更などの操作をしたりしないでください。このフォーマットの仕様に従わないファイルは、XDCAM EX 機器や本ソフトウェアで認識できなくなります。
- 本ソフトウェアを使用して SxS PRO メモリーカード以外のメディアに作成、コピー、または移動したクリップはXDCAM EX 機器で再生できないことがあります。

記録フォルダー

映像や付加情報を記録するフォルダーは、次図のような階層構造になっています。
XDCAM EX フォーマットでは、BPAV フォルダー以下を1つのまとまりとして扱います。

- ワークフォルダーを Windows エクスプローラで開くと、BPAV フォルダーが 1 つだけ存在します。
- コピーやバックアップを行うときは、BPAV フォルダー以下を選択してください。
- エクスプローラウィンドウのツリー表示部でワークフォルダーを選択すると、BPAV フォルダーに登録されたクリップの一覧がリスト表示部に表示されます。AV データは CLPR フォルダーの下のフォルダー内に存在します。
- XDCAM EX 機器で使用するメディアは、メディアのルートフォルダーの下に BPAV フォルダーを作成します。
- ワークフォルダーに MP4 ファイルをインポートすると、CLPR フォルダーの下に新たにフォルダーが作成され、そこにインポートされたクリップがコピーされます。フォルダー名は自動的に付けられます。
- CLPR フォルダー内に MP4 ファイルがあるとき、そのフォルダーが属するワークフォルダーをエクスプローラウィンドウで参照すると、CLPR フォルダーの下に新たにフォルダーが作成され、そのフォルダー内に MP4 ファイルを移動します（インポートと同等の処理）。[1)]
- CLPR フォルダー内に未登録の AVI ファイルがあるとき、当該フォルダーをエクスプローラウィンドウで参照すると、その AVI ファイルは管理対象として登録されます（インポートと同等の処理）。ただし、ファイル名が XDCAM EX クリップの命名規則に従わない場合には、インポートは行えません。
- XDCAM EX 機器がサポートするメディアの場合、1 つの記録フォルダー内には最大で 600 個のクリップが登録できます。

1) XDCAM ドライブの UserData フォルダー内では機能しません。

ご注意

フォルダー名やファイル名はメタデータファイルと連携しているため、変更しないでください。

MXF フォーマットクリップのデータ管理構造について

記録フォーマット

本ソフトウェアでは、XDCAM HD 機器用に規定されたフォーマットを使用することができます。このフォーマットの仕様は次のとおりです。
- フォルダーの名前と構成は、次項の図のように決められている。
- ファイルには各ファイルやフォルダー間のリンクに関する情報が記録されている。

ご注意

- XDCAM HD フォーマットに対応していないツールなどを使用して、ファイルを編集したり、ファイルやフォルダーに対して削除、移動、名前の変更などの操作をしたりしないでください。このフォーマットの仕様に従わないファイルは、XDCAM HD 機器や本ソフトウェアで認識できなくなります。
- 本ソフトウェアを使用してプロフェッショナルディスク（XDCAM ドライブ）以外のメディアに作成、コピー、または移動したクリップは XDCAM HD 機器で再生できないことがあります。

記録フォルダー

映像や付加情報を記録するフォルダーは、次図のような階層構造になっています。

- 本ソフトウェアは、Clip、Edit、および Sub をサブフォルダーとして持つフォルダーを MXF 属性フォルダーと認識し、Clip フォルダー内を参照します。
- ユーザー設定ダイアログの全般タブで XDCAM ドライブモードを「UserData」に設定すると、本ソフトウェアの参照先は Clip フォルダーから UserData フォルダーに変わります（43 ページ参照）。
- ノーマルフォルダーに対してコピー操作によるファイルのフォーマット変換（25 ページ参照）を実行すると、DISCMETA.XML、MEDIAPRO.XML、Clip フォルダー、Edit フォルダー、Sub フォルダー、および General フォルダーが自動的に作成され、Clip フォルダー内にフォーマット変換されたファイルがコピーされます。（たとえば、ABC0000.MP4 ファイルをワークフォルダーにコピーすると、MXF ファイルに変換された ABC0000.MXF と、自動生成された ABC0000M01.XML が Clip フォルダー内に保存されます。）

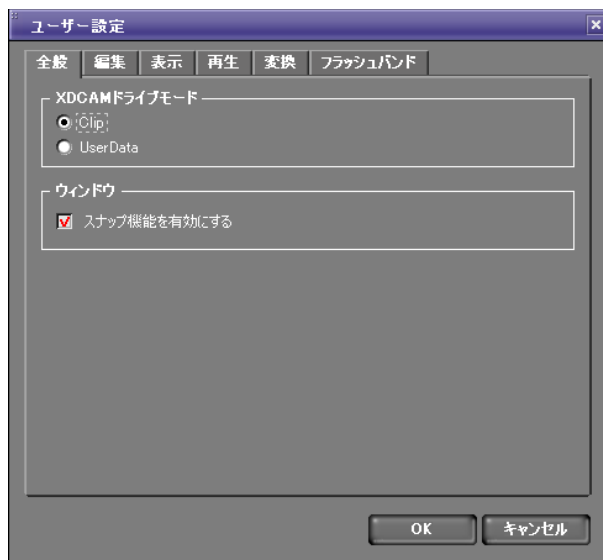
ご注意

- フォルダー名やファイル名はメタデータファイルと連携しているため、変更しないでください。
- Windows エクスプローラなどを使用して EX 属性フォルダー内に MXF フォーマットクリップの管理構造を作成しても、本ソフトウェアでは EX フォーマットが優先されるため、MXF フォーマットクリップを操作できません。

◆ MXF フォーマットクリップのデータ管理構造について詳しくは、XDCAM HD 機器の取扱説明書またはオペレーションマニュアルをご覧ください。

ユーザー設定

ユーザー設定ダイアログで、本ソフトウェアの各種設定を行います。
ユーザー設定ダイアログを開くには、［ツール］メニューで［ユーザー設定 ...］を選択します。

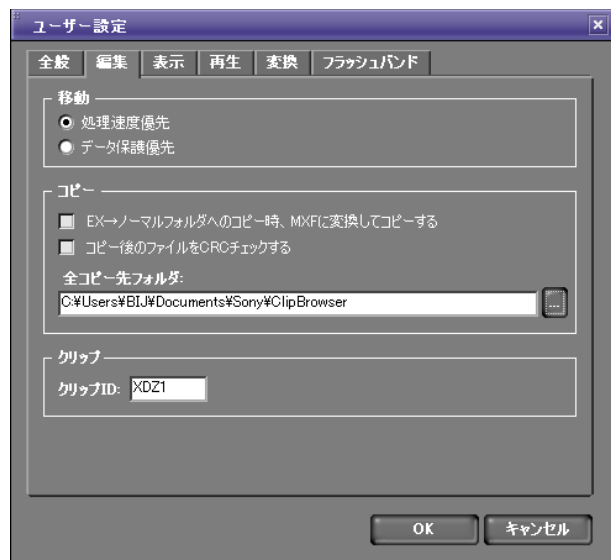
全般タブ

XDCAM ドライブモード：本ソフトウェアが使用する XDCAM ドライブ内のフォルダーを指定します。

- Clip：Clip フォルダーを使用する。このモードでは、XDCAM ドライブに対して MXF クリップのみ操作することができる（EX クリップは不可）。
  ツリー表示部に表示されるアイコンは、「XDCAM ドライブ（通常）」アイコンになる（14 ページ参照）。
- UserData：UserData フォルダーを使用する。このモードでは、XDCAM ドライブに対して EX クリップのみ操作することができる（MXF クリップは不可）。EX クリップのバックアップ用途向けモード。
  ツリー表示部に表示されるアイコンは、「XDCAM ドライブ（UserData）」アイコンになる（14 ページ参照）。

◆ 本ソフトウェアが扱う XDCAM ドライブのデータ管理構造については、42 ページをご覧ください。

スナップ機能を有効にする：チェックボックスをオンにすると、ウィンドウのスナップ機能が有効になります。
スナップ機能には、次の働きがあります。

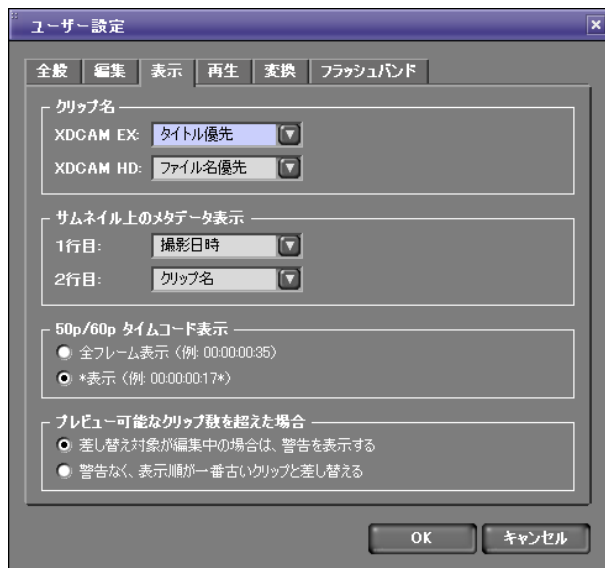
- ウィンドウをドラッグして別のウィンドウに近づけると、それぞれの端と端がぴったりとくっつく。
- ウィンドウの境界をドラッグしてサイズ変更すると、隣接するウィンドウとの並びを保ったまま、隣接するウィンドウのサイズも連動して変わる。

編集タブ

移動：クリップの移動（26 ページ参照）を実行するときの動作モードを選択します。
- 処理速度優先：クリップを複製しない、通常の移動方法
- データ保護優先：クリップを複製してから複製元のクリップを削除する移動方法

EX →ノーマルフォルダへのコピー時、MXF に変換してコピーする：チェックボックスをオンにすると、EX フォーマットファイルをノーマルフォルダー（EX 属性や MXF 属性以外のフォルダー）にコピーしたとき、コピー先のファイルを自動的に MXF フォーマットファイルに変換します。

コピー後のファイルを CRC チェックする：チェックボックスをオンにすると、コピーしたファイルに対して CRC（巡回冗長検査）方式による誤り検出を実行する機能が有効になり、コピーが正常に行われなかったときにメッセージを表示します。

全コピー先フォルダ：メディアまたはフォルダー内にある、すべてのクリップのコピー（25 ページ参照）を実行するときのコピー先のフォルダーを指定します。エディットボックスにドライブ名から始まるパス名を入力するか、[...] ボタンをクリックして開くフォルダの参照ダイアログでフォルダーを選択し、[OK] ボタンをクリックします。

クリップ ID：クリップのインポート（29 ページ参照）を実行するとき、インポートされるクリップの名前、およびそのクリップが保存されるフォルダーの名前の接頭語（4 文字まで）を指定します。

表示タブ

クリップ名：クリップ名として何を表示するかを、クリップの種類ごとに次のいずれかから選択します。
- タイトル優先：タイトルをクリップ名として表示する。
- ファイル名優先：ファイル名をクリップ名として表示する。

ご注意

「タイトル優先」に設定されていても、タイトルがないクリップはファイル名が表示されます。

サムネイル上のメタデータ表示：エクスプローラウィンドウのリスト表示部がサムネイル表示のとき、サムネイルの下の 1 行目と 2 行目に表示するクリップ属性を次の中から選択します。
- フォーマット
- クリップ名
- ファイル名
- 撮影日時
- ビットレート
- フレーム / 秒
- 解像度
- クリップ長

50p/60p タイムコード表示：フレーム周波数が 50p または 60p のクリップを再生するときのタイムコード表示モードを選択します。
- 全フレーム表示：1 フレームごとにカウントアップする形式で表示する。（60p クリップの表示例：00→01→02→・・・→58→59→00→・・・）
- * 表示：2 フレームごとにカウントアップし、2 番目のフレームに「*」を付加する形式で表示する（ソニー

製 VTR の表示形式）。（60p クリップの表示例：
00→00*→01→ ･･･ →29→29*→00→ ･･･）

プレビュー可能なクリップ数を超えた場合： プレビューウィンドウについて、同時にプレビューするクリップ数（同時に開くウィンドウ数、または追加するタブ数）が上限を超えるときの動作を選択します。
- 差し替え対象が編集中の場合は、警告を表示する
- 警告なく、表示順が一番古いクリップと差し替える

再生タブ

解像度： 再生時の映像の解像度を、次の中から選択します。
- 自動：プレビュー画面のサイズに合わせて解像度を自動的に変えてデコードする。
- 通常：プレビュー画面のサイズに関係なく、元の画像の解像度でデコードする。
- 1/2、1/4：解像度を落としてデコードする。プレビュー画質は低下するが、再生時のデコーダーの負荷が低減するため、再生レスポンスは向上する。

MXF 再生モード： MXF フォーマットクリップの再生モードを、次のいずれかから選択します。
- MPEG HD：高解像度で再生する（MXF フォーマットクリップそのものの映像を再生する）。
- Proxy：低解像度で再生する（プロキシ AV データを再生する）。

◆ MXF 再生モードに関する注意事項については、32 ページをご覧ください。

アスペクト比： SD クリップ（DV-AVI フォーマットクリップ）の代表画とプレビュー画のアスペクト比を次の中から選択します。
- 自動：当該クリップのアスペクト比に合わせて 16:9 または 4:3 を自動選択する。
- 16:9
- 4:3

変換タブ

使用地域の設定： 本ソフトウェアを使用する地域で採用されているビデオ方式を選択します。
- NTSC（24p を含む）
- PAL

MP4 → MXF 変換コピー時の設定： MP4 から MXF へのフォーマット変換コピー時に使用する記録フォーマットを指定します。
- ビットレート設定
  カラーフォーマットが 4:2:0 のクリップについて、コピー操作によってファイルのフォーマット変換を行うとき、変換後のファイルのビットレートを次の中から選択します。（4:2:2 クリップは、50Mbps に固定されます。）
  - 18Mbps
  - 25Mbps
  - 35Mbps
- フォーマット設定：クリップなしフォルダの場合
  コピー操作によってファイルのフォーマット変換を行うとき、コピー先にクリップが 1 つも存在しない場合の記録フォーマット（フレームレートとフォーマット）を指定します。選択可能な設定値の組み合わせは次のとおりです。

使用地域の設定	フレームレート	フォーマット
NTSC（24p を含む）	60i/60p/30p	4:2:0 18Mbps（x1080）
		4:2:0 25Mbps（x720）
		4:2:0 25Mbps（x1080）
		4:2:0 35Mbps（x720）
		4:2:0 35Mbps（x1080）
		4:2:2 50Mbps
	24p	4:2:0 18Mbps（x1080）
		4:2:0 25Mbps（x1080）
		4:2:0 35Mbps（x1080）

使用地域の設定	フレームレート	フォーマット
PAL	50i/50p/25p	4:2:0 18Mbps（x1080）
		4:2:0 25Mbps（x720）
		4:2:0 25Mbps（x1080）
		4:2:0 35Mbps（x720）
		4:2:0 35Mbps（x1080）
		4:2:2 50Mbps

◆ コピー操作によるファイルのフォーマット変換については、25 ページをご覧ください。

OPAtom 出力先フォルダ：クリップのエクスポートで［Avid AAF 変換］を選択したときの OPAtom ファイルの出力先フォルダーを指定します（次項の「Avid 社の編集機でメディアの保存フォルダーを設定するには」を参照)。エディットボックスにドライブ名から始まるパス名を入力するか、[...］ボタンをクリックして開くフォルダの参照ダイアログでフォルダーを選択し、［OK］ボタンをクリックします。

Avid 社の編集機でメディアの保存フォルダーを設定するには

Avid Media Composer（V2.5.3 以降）の場合は、次のように操作します。

1 ［Settings］メニューで［Media Creation］を選択する。

Media Creation ダイアログが開きます。

2 Import タブで Video Drive/Audio Drive（メディアの保存ドライブ）を指定する。

- Windows XP の場合：HDD
- Windows Vista の場合：Windows Vista がインストールされていない HDD

3 Avid Media Composer に任意の MXF ファイルをインポートする。

手順 **2** で指定したドライブ内に「Avid Media Files¥MXF¥1」というフォルダーが作成されます。［OPAtom 出力先フォルダ］で、このフォルダーを指定します。

フラッシュバンドタブ

補正クリップの保存先：フラッシュバンド補正（35 ページ参照）によって複製されたクリップの保存先フォルダーを指定します。
- 元素材と同じ場所
- 保存先を指定：エディットボックスにドライブ名から始まるパス名を入力するか、[...］ボタンをクリックして開くフォルダの参照ダイアログでフォルダーを選択し、［OK］ボタンをクリックします。

メニュー一覧

本ソフトウェアのメニュー一覧を、アクティブになっているウィンドウ別に示します。

「キーボード操作」欄で、あるキーを押したまま別のキーを押すときは、「Ctrl + N」のようにキーの名前を「＋」記号でつないで示します。

メインウィンドウのみ開いているとき

メニュー	コマンド	サブコマンド	キーボード操作	機能	参照先
ファイル	アプリケーションの終了	—	Alt + F4	本ソフトウェアを終了する。	10 ページ
表示	メッセージのオプション	初期状態に戻す	—	［次回からこのメッセージを表示しない］チェックボックスをオンにして非表示にしたメッセージボックスを次回から表示させる。	—
ツール	ユーザー設定 ...	—	—	ユーザー設定ダイアログを開く。	43 ページ
ウィンドウ	新しいエクスプローラを開く	—	—	新しいエクスプローラウィンドウを開く。	12 ページ
	新しいプレビューを開く	—	—	新しいプレビューウィンドウを開く。	

メニュー	コマンド	サブコマンド	キーボード操作	機能	参照先
ヘルプ	バージョン情報 ...	—	—	バージョン情報を表示する。	—
	MainConcept バージョン ...	—	—	MainConcept 社製プラグインソフトウェアのバージョン情報を表示する。	—

エクスプローラウィンドウがアクティブのとき

メニュー	コマンド	サブコマンド	キーボード操作	機能	参照先
ファイル	フォルダ	新規作成	Ctrl + N	選択したメディアまたはフォルダー内に新しいフォルダーを作成する。	38 ページ
		名前の変更	Ctrl + R	選択したフォルダーの名前を変更する。	38 ページ
	Windows エクスプローラで開く ...	—	—	フォルダーのバックアップを作成するとき、選択したフォルダーを Windows エクスプローラで開く。	38 ページ
	インポート ...	—	—	選択したフォルダーに MP4 ファイルをインポートする。	29 ページ
	エクスポート	NLE への MXF 変換 ...	—	選択したクリップのフォーマットをノンリニア編集システム用 MXF フォーマットに変換する。	29 ページ
		XDCAM HD への MXF 変換 ...	—	選択したクリップのフォーマットを XDCAM HD フォーマットに変換する。	
		XDCAM HD422 への MXF 変換 ...	—	選択したクリップのフォーマットを XDCAM HD422 フォーマットに変換する。	
		XDCAM MPEG IMX への MXF 変換 ...	—	選択したクリップのフォーマットを XDCAM MPEG IMX フォーマットに変換する。	
		XDCAM DVCAM への MXF 変換 ...	—	選択したクリップのフォーマットを XDCAM DVCAM フォーマットに変換する。	
		RAW DV 変換 ...	—	選択したクリップのフォーマットを RAW DV フォーマットに変換する。	
		AVI DV 変換 ...	—	選択したクリップのフォーマットを AVI DV フォーマットに変換する。	
		Avid AAF 変換 ...	—	選択したクリップのフォーマットを Avid AAF フォーマットに変換する。	
		Windows Media File 変換 ...	—	選択したクリップのフォーマットを Windows Media ファイルフォーマットに変換する。	
		PSP 用変換 ...	—	選択したクリップのフォーマットを PSP 用ファイルフォーマットに変換する。	
		iPod 用変換 ...	—	選択したクリップのフォーマットを iPod 用ファイルフォーマットに変換する。	
		動画配信サイト用変換 ...	—	選択したクリップのフォーマットを動画配信サイト用ファイルフォーマットに変換する。	
	クリップ一覧の出力 ...	—	—	クリップ一覧の出力ダイアログを開く。	17 ページ
	メディアの取り出し	—	—	メディアの取り出し、またはメディアを安全に取りはずせる状態にする。	—
	アプリケーションの終了	—	Alt + F4	本ソフトウェアを終了する。	10 ページ

メニュー	コマンド	サブコマンド	キーボード操作	機能	参照先
編集	切り取り	—	Ctrl + X	選択したクリップを切り取る。	26 ページ
	コピー	—	Ctrl + C	選択したクリップをコピーする。	24 ページ
	貼り付け	—	Ctrl + V	コピーまたは切り取られたクリップを貼り付ける。	24 ページ 26 ページ
	削除	—	Delete	選択したクリップまたはフォルダーを削除する。	27 ページ 38 ページ
	すべてコピー	—	Ctrl + Shift + C	選択したメディアまたはフォルダー内のクリップをすべてコピーする。	25 ページ
	クリッププロパティの一括編集 ...	—	—	クリッププロパティの一括編集ダイアログを開く。	23 ページ
	ディスクメタの編集 ...	—	—	ディスクメタの編集ダイアログを開く。	40 ページ
	すべて選択	—	Ctrl + A	選択したメディアまたはフォルダー内のクリップをすべて選択する。	—
	検索 ...	—	Ctrl + F	検索ダイアログを開く。	34 ページ
表示	コマンドバー	—	—	ツールボタンの表示 / 非表示を切り換える。	13 ページ
	フォルダツリー	—	—	ツリー表示部の表示 / 非表示を切り換える。	14 ページ
	ディスク容量	—	—	容量表示の表示 / 非表示を切り換える。	14 ページ
	ステータスバー	—	—	選択クリップ情報の表示 / 非表示を切り換える。	15 ページ
	コンポーネントビュー	—	—	コンポーネントビューの表示 / 非表示を切り換える。	15 ページ
	サムネイル	—	—	リスト表示部をサムネイル表示にする。	15 ページ
	一覧	—	—	リスト表示部を一覧表示にする。	
	詳細	—	—	リスト表示部を詳細表示にする。	
	整列	クリップ名	—	選択した項目をキーにして、クリップの昇順整列と降順整列を切り換える。	
		サイズ	—		
		クリップ長	—		
		ステータス	—		
		撮影日時	—		
		最終更新日時	—		
		記録モード	—		
		メディア跨ぎ	—		
		整列順を記憶する	—	現在の整列順をフォルダーごとのメタデータに反映する。	—
	表示フィルター	すべて表示	—	XDCAM EX クリップのファイルフォーマットによる表示条件を切り換える。	—
		MP4 を表示	—		
		DV-AVI を表示	—		
	詳細表示の設定 ...	—	—	詳細表示の設定ダイアログを開く。	16 ページ
	ツールチップの表示設定 ...	—	—	ツールチップの表示設定ダイアログを開く。	16 ページ
	メッセージのオプション	初期状態に戻す	—	[次回からこのメッセージを表示しない] チェックボックスをオンにして非表示にしたメッセージボックスを次回から表示させる。	—
	1 つ上の階層へ	—	Backspace	選択されているフォルダーの 1 つ上の階層に移動する。	—
	最新の情報に更新	—	F5	エクスプローラウィンドウでアクティブになっているタブの表示を最新の情報に更新する。	—

メニュー	コマンド	サブコマンド		キーボード操作	機能	参照先
クリップ	イン / アウト間での新規クリップ作成	—		—	クリップにイン点とアウト点を設定して、新しいクリップを作成する。	28 ページ
	フラッシュバンド	検出	イン / アウト間	—	選択したクリップのイン点からアウト点までの範囲でフラッシュバンドが発生したフレームを自動検出する。	35 ページ
			全範囲	—	選択したクリップの全範囲でフラッシュバンドが発生したフレームを自動検出する。	
		補正	イン / アウト間	—	選択したクリップのイン点からアウト点までの範囲でフラッシュバンドが発生したフレームを補正する。	
			全範囲	—	選択したクリップの全範囲でフラッシュバンドが発生したフレームを補正する。	
		検出と補正	イン / アウト間	—	選択したクリップのイン点からアウト点までの範囲でフラッシュバンドが発生したフレームを自動検出し、補正する。	
			全範囲	—	選択したクリップの全範囲でフラッシュバンドが発生したフレームを自動検出し、補正する。	
	フォルダの分割 ...	—		Ctrl + W	選択したフォルダーを、指定したサイズで分割する。	39 ページ
	フォルダの結合 ...	—		Ctrl + J	選択したフォルダーに、指定した別のフォルダーを結合する。	40 ページ
	再生	—		スペース	選択したクリップを再生する。	32 ページ
ツール	ユーザー設定 ...	—		—	ユーザー設定ダイアログを開く。	43 ページ
ウィンドウ	新しいエクスプローラを開く	—		—	新しいエクスプローラウィンドウを開く。	12 ページ
	新しいプレビューを開く	—		—	新しいプレビューウィンドウを開く。	
	ウィンドウを閉じる	—		Ctrl + F4	アクティブなウィンドウを閉じる。	—
	新しいタブを開く	—		—	アクティブなウィンドウにタブを追加する。	—
	タブを閉じる	—		—	アクティブなタブを閉じる。	—
	前のタブを選択	—		Ctrl + PageUp	前のタブを選択する。	13 ページ
	次のタブを選択	—		Ctrl + PageDown	次のタブを選択する。	
	ウィンドウの配置を最適化する	—		—	メインウィンドウ内でエクスプローラウィンドウとプレビューウィンドウの配置を最適化する。	13 ページ
	重ねて表示	—		—	開いているウィンドウを、左上から重ねて表示する。	—
	上下に並べて表示	—		—	開いているウィンドウを、上下に並べて表示する。	—
	左右に並べて表示	—		—	開いているウィンドウを、左右に並べて表示する。	—
ヘルプ	バージョン情報 ...	—		—	バージョン情報を表示する。	—
	MainConcept バージョン ...	—		—	MainConcept 社製プラグインソフトウェアのバージョン情報を表示する。	—

プレビューウィンドウがアクティブのとき

メニュー	コマンド	サブコマンド	キーボード操作	機能	参照先
ファイル	静止画を作成 ...	—	—	現在位置のフレームをビットマップ形式の静止画として保存する。	33 ページ
	アプリケーションの終了	—	Alt + F4	本ソフトウェアを終了する。	10 ページ

メニュー	コマンド	サブコマンド	キーボード操作	機能	参照先
編集	切り取り	—	Ctrl + X	クリッププロパティー部の General タブで、選択したテキストを切り取る。	20 ページ
	コピー	—	Ctrl + C	クリッププロパティー部の General タブで、選択したテキストをコピーする。	
	貼り付け	—	Ctrl + V	クリッププロパティー部の General タブで、コピーまたは切り取られたテキストを貼り付ける。	
	削除	—	Delete	クリッププロパティー部の General タブで、選択したテキストを削除する。	
	代表画の設定	—	P	現在位置のフレームを代表画に設定する。	33 ページ
	マークイン	—	I	現在位置をイン点に設定する。	28 ページ
	マークアウト	—	O	現在位置をアウト点に設定する。	
	マークインのクリア	—	Shift + I	イン点の設定を解除する。	
	マークアウトのクリア	—	Shift + O	アウト点の設定を解除する。	
	マークイン / アウトのクリア	—	Shift + X	イン点およびアウト点の設定を解除する。	
	エッセンスマークの追加	—	E	現在位置にエッセンスマークを設定する（126 個まで）。	—
	エッセンスマークの削除	—	Shift + E	現在位置に設定されているエッセンスマークを削除する。	—
表示	全画面	—	Alt + Enter	ビューアー部のスクリーンをフルスクリーン表示にする。	19 ページ
	メッセージのオプション	初期状態に戻す	—	［次回からこのメッセージを表示しない］チェックボックスをオンにして非表示にしたメッセージボックスを次回から表示させる。	—
再生	再生	—	L またはスペース	選択したクリップを再生する。	32 ページ
	停止	—	K またはスペース	クリップの再生を停止する。	
	逆再生	—	J	選択したクリップを逆方向に再生する。	
	イン / アウト間再生	—	Shift + スペース	選択したクリップのイン点からアウト点までの範囲を再生する。	
	1 フレーム戻す	—	←	前のフレームに移動する。	
	1 フレーム進める	—	→	次のフレームに移動する。	
	スタートへ	—	Home	クリップのスタート点（先頭フレーム）に移動する。	
	エンドへ	—	End	クリップのエンド点（最終フレーム）に移動する。	
	イン点へ	—	↑	イン点に移動する。	
	アウト点へ	—	↓	アウト点に移動する。	
	前のエッセンスマークへ	—	Shift + ←	前のエッセンスマークに移動する。	
	次のエッセンスマークへ	—	Shift + →	次のエッセンスマークに移動する。	
	オーディオチャンネルの設定 ...	—	—	チャンネル設定ダイアログを開く。	32 ページ
ツール	ユーザー設定 ...	—	—	ユーザー設定ダイアログを開く。	43 ページ

メニュー	コマンド	サブコマンド	キーボード操作	機能	参照先
ウィンドウ	新しいエクスプローラを開く	—	—	新しいエクスプローラウィンドウを開く。	12 ページ
	新しいプレビューを開く	—	—	新しいプレビューウィンドウを開く。	
	ウィンドウを閉じる	—	Ctrl + F4	アクティブなウィンドウを閉じる。	—
	タブを閉じる	—	—	アクティブなタブを閉じる。	—
	前のタブを選択	—	Ctrl + PageUp	前のタブを選択する。	13 ページ
	次のタブを選択	—	Ctrl + PageDown	次のタブを選択する。	
	ウィンドウの配置を最適化する	—	—	メインウィンドウ内でエクスプローラウィンドウとプレビューウィンドウの配置を最適化する。	13 ページ
	重ねて表示	—	—	開いているウィンドウを、左上から重ねて表示する。	—
	上下に並べて表示	—	—	開いているウィンドウを、上下に並べて表示する。	—
	左右に並べて表示	—	—	開いているウィンドウを、左右に並べて表示する。	—
ヘルプ	バージョン情報 ...	—	—	バージョン情報を表示する。	—
	MainConcept バージョン ...	—	—	MainConcept 社製プラグインソフトウェアのバージョン情報を表示する。	—

検索ウィンドウがアクティブのとき

メニュー	コマンド	サブコマンド	キーボード操作	機能	参照先
ファイル	アプリケーションの終了	—	Alt + F4	本ソフトウェアを終了する。	10 ページ
表示	検索条件	—	—	検索条件の表示 / 非表示を切り換える。	34 ページ
	整列	クリップ名	—	選択した項目をキーにして、検索結果の昇順整列と降順整列を切り換える。	
		サイズ	—		
		クリップ長	—		
		ステータス	—		
		撮影日時	—		
		最終更新日時	—		
		記録モード	—		
		メディア跨ぎ	—		
		フォルダパス	—		
	メッセージのオプション	初期状態に戻す	—	[次回からこのメッセージを表示しない] チェックボックスをオンにして非表示にしたメッセージボックスを次回から表示させる。	—
検索	開始	—	—	検索を開始する。	34 ページ
	停止	—	—	検索を停止する。	
	エクスプローラで表示	—	—	選択したクリップをエクスプローラウィンドウで表示する。	
	再生	—	—	選択したクリップを再生する。	
ツール	ユーザー設定 ...	—	—	ユーザー設定ダイアログを開く。	43 ページ

メニュー	コマンド	サブコマンド	キーボード操作	機能	参照先
ウィンドウ	新しいエクスプローラを開く	—	—	新しいエクスプローラウィンドウを開く。	12 ページ
	新しいプレビューを開く	—	—	新しいプレビューウィンドウを開く。	
	ウィンドウを閉じる	—	Ctrl + F4	アクティブなウィンドウを閉じる。	—
	重ねて表示	—	—	開いているウィンドウを、左上から重ねて表示する。	—
	上下に並べて表示	—	—	開いているウィンドウを、上下に並べて表示する。	—
	左右に並べて表示	—	—	開いているウィンドウを、左右に並べて表示する。	—
ヘルプ	バージョン情報 ...	—	—	バージョン情報を表示する。	—
	MainConcept バージョン ...	—	—	MainConcept 社製プラグインソフトウェアのバージョン情報を表示する。	—

エラー / 警告メッセージ一覧

メッセージ	対処方法
OLE の初期化に失敗しました。OLE ライブラリのバージョンが正しいことを確認してください。	本ソフトウェアのインストールに問題が発生した可能性があります。再インストールを実施してください。
Export 用のライブラリーの読み込みに失敗しました。	
不完全なクリップが存在します。選択フォルダ直下の［BPAV］フォルダ以下すべてを SxS カードにコピーし、記録を行った装置でサルベージを実行してください。	記録中に XDCAM EX 機器の電源を切ったり、記録メディアを抜いたことにより、メディアのデータが不完全な状態になっています。メディアを XDCAM EX 機器に戻して直ちにデータを復旧させてください。データを復旧させないまま操作を続けると、データが復旧できなくなります。
不完全なクリップが存在します。記録を行った装置でサルベージを実行してください。	
理由：クリップデータベースが不正です。	XDCAM EX フォーマットが異常になっている可能性があります。別のフォルダーに MP4 ファイルをインポートするなどの作業を行い、素材の復旧を試みてください。
理由：他のアプリケーションで作成されたクリップデータベースです。	選択したクリップデータベース（記録フォルダー）は、本アプリケーションで作成したものではありません。クリップの操作および編集は、作成したアプリケーションで行ってください。
理由：不正なメディアか、メディアが破損している可能性があります。	選択されたクリップがサポート外のフォーマットか、素材データに異常があります。クリップのプロパティーを確認してください。
エクスプローラで表示できるクリップではありません。	選択したクリップが XDCAM EX 互換フォーマットではないため、インポートやリスト表示ができません。クリップのプロパティーを確認してください。
整列順の記憶に失敗しました。	本ソフトウェアまたはコンピューターを再起動してください。症状が変わらない場合は、本ソフトウェアを再インストールしてください。
コピー先に指定されているドライブは、存在しないか準備ができていない可能性があります。利用可能なドライブを指定してください。	指定したドライブが無効か、またはドライブにメディアが挿入されていません。利用可能なドライブを指定するか、またはドライブにメディアを挿入してください。
移動先に指定されているドライブは、存在しないか準備ができていない可能性があります。利用可能なドライブを指定してください。	
インポート先に指定されているドライブは、存在しないか準備ができていない可能性があります。利用可能なドライブを指定してください。	
クリップ一覧の出力に失敗しました。理由：ドライブが存在しないか準備が出来ていない可能性があります。	
クリップデータベースが不正なため、コピーすることは出来ません。	XDCAM EX フォーマットが異常になっている可能性があります。別のフォルダーに MP4 ファイルをインポートするなどの作業を行い、素材の復旧を試みてください。
クリップデータベースが不正なため、移動することは出来ません。	
プロパティの更新に失敗しました。	

メッセージ	対処方法
4GB を超えるファイルは分割が必要なため、コピーすることは出来ません。	XDCAM EX 機器で使用する SxS メモリーカードなどのメディアでは、4GB を超えるファイルは管理できません。あらかじめ編集ソフトウェアなどで 4GB 以下になるようにファイル分割してから、もう一度操作してください。
4GB を超えるファイルは分割が必要なため、移動することは出来ません。	
AVI クリップが含まれているため、クリップを作成することは出来ません。	サポート外の DV-AVI クリップが含まれています。DV-AVI クリップを除いてから、もう一度操作してください。
AVI クリップが含まれているため、MXF に変換してコピーすることは出来ません。	
クリップの作成に失敗しました。	次のいずれかの理由によって処理が中止されました。 • 選択したメディア / フォルダーに対する削除や書き込みの権限がない、またはこれらの操作が禁止されている。 • データに互換性がない、または異常がある。 メディア / フォルダーのプロパティーを確認してください。
理由：フレームレートが一致していません。	コピー元クリップのフレームレートとコピー先に存在するクリップのフレームレートが異なるため、コピーできません。コピー元およびコピー先クリップのフレームレート（NTSC/24p/PAL）を確認し、フレームレートが一致するコピー先にコピーしてください。
理由：ビデオフォーマットが異なります。	コピー元クリップの解像度とコピー先に存在するクリップの解像度が異なるため、コピーできません。コピー元およびコピー先クリップの解像度を確認し、解像度が一致するコピー先にコピーしてください。
理由：デフォルトフォーマットが設定されていません。[ユーザー設定] の変換情報を確認してください。	ユーザー設定ダイアログの変換タブで［記録フォーマット不定時の設定値］のフレームレートとビットレートを設定してください。
理由：ビットレートが設定されていません。[ユーザー設定] の変換情報を確認してください。	ユーザー設定ダイアログの変換タブで［MP4 → MXF 変換ビットレート設定］を設定してください。
MainConcept Conversion Pack が試用版のため、ロゴが入る場合があります。変換時にロゴが入らないようにするには MainConcept Conversion Pack を購入してください。	MainConcept 社のウェブサイトでプラグインソフトウェア（MainConcept Conversion Pack #1 または #2）を購入し、インストールしてください。MainConcept 社のサイトにアクセスするには、［ヘルプ］メニューの［MainConcept バージョン ...］を選択して開くダイアログで URL をクリックします。
理由：変換に失敗しました。	コピー元およびコピー先クリップの記録フォーマットを確認してください。変換前ファイルの記録フォーマットと変換後ファイルの記録フォーマットの組み合わせによっては、変換できないことがあります。
理由：2 秒未満のクリップは書込みできません。	XDCAM 機器では、2 秒未満のクリップの書き込みに対応していません。
2 秒未満のクリップが含まれているため、コピーすることは出来ません。	
MXF ファイルのコピー先に UserData フォルダを指定することは出来ません。[ユーザー設定] の全コピー先フォルダを変更してください。	ユーザー設定ダイアログの全般タブで［全コピー先フォルダー］の設定を変更してください。
インポートに失敗しました。	このクリップへのアクセス権がない、または XDCAM EX フォーマットと互換性のない MP4 ファイルの可能性があります。クリップのプロパティーを確認してください。
出力先に UserData フォルダを指定することは出来ません。	出力先を変更してください。
OPAtom ファイルの出力先に UserData フォルダを指定する事はできません。[ユーザー設定] の OPAtom 出力先フォルダを変更して下さい。	ユーザー設定ダイアログの変換タブで［OPAtom 出力先フォルダ］の設定を変更してください。
指定された名前は既に使用されています。別の名前を指定してください。	別の名前を指定するか、出力先を変更してください。
xxxx と同名のデータが出力先に存在します。別の名前を指定し直してください。	
上記のパスは無効かまたは長すぎます。	保存先のフルパスが長すぎると、保存先を認識できないことがあります。パス名が短くなる保存先に変更してください。
エッセンスマークが 127 個以上のクリップが含まれているため、クリップ一覧の出力は出来ません。	出力対象に 127 個以上のエッセンスマークが設定されているクリップが含まれています（本ソフトウェアが扱うことのできる 1 クリップ内のエッセンスマークは最大 126 個）。出力対象からこれらのクリップをはずしてください。これらのクリップを出力対象に含めるには、不要なエッセンスマークを削除し、126 個以下になるようにしてください。

メッセージ	対処方法
エクスポート中にエラーが発生しました。詳細は各クリップのコンテキストから参照してください。	エクスポートダイアログで、エラーが発生したクリップのコンテキストメニューから［エラーの詳細］を選択して表示されるレポートを確認してください。
理由：変換中エラー	次のいずれかの理由によって変換できませんでした。 • 出力フォルダーに対する書き込みの権限がない、またはこの操作が禁止されている。 • 選択したクリップがサポート外のフォーマット、または素材データに異常がある。 フォルダーまたはクリップのプロパティーを確認してください。
理由：サポートしていない XDCAM です。	選択した XDCAM ドライブがサポート外です。
理由：サポートしていないコーデックです。	選択した XDCAM ドライブ内のクリップのコーデックがサポート外です。
フォルダの作成に失敗しました。	選択したメディア / フォルダーに対する削除や書き込みの権限がない、またはこれらの操作が禁止されている可能性があります。メディア / フォルダーのプロパティーを確認してください。
フォルダ名として利用出来ません。別の名前を指定してください。	「BPAV」以外の名前を指定してください。
システムが予約している文字列が含まれているため設定する事が出来ません。	OS で使用が禁止されている文字が含まれない名前を指定してください。
理由：予約されたクリップファイル名です。	ファイル名またはコピー先を変更してください。
フォルダ名の変更に失敗しました。	選択したフォルダーに対する削除や書き込みの権限がない、またはこれらの操作が禁止されている可能性があります。フォルダーのプロパティーを確認してください。
フォルダの削除に失敗しました。	
フォルダの分割に失敗しました。	
フォルダの結合に失敗しました。	結合元または結合先のフォルダーに対する削除や書き込みの権限がない、またはこれらの操作が禁止されている可能性があります。フォルダーのプロパティーを確認してください。
フォルダ［XXX］内に作業フォルダが存在するため消去することは出来ません。	選択したメディア / フォルダー内に本ソフトウェアが管理しないフォルダーがあります。これらのフォルダーを移動または削除してから、もう一度操作してください。
サブフォルダが存在します。	
フォルダを分割することは出来ません。理由：指定したサイズを超えるクリップが存在します。	表示されたクリップには、指定された分割サイズよりも大きなファイルが存在するため、フォルダーを指定サイズに分割することができません。最大ファイルサイズよりも大きい分割サイズを指定してください。
ディスクメタの保存に失敗しました。	選択した XDCAM ドライブに対する削除や書き込みの権限がない、またはこれらの操作が禁止されている可能性があります。XDCAM ドライブのプロパティー、およびディスクの記録禁止タブの状態を確認してください。
管理情報の更新を行います。ライトプロテクトを掛けている場合は一旦解除してください。	選択したメディアまたはフォルダーにアクセス拒否または書き込み禁止を設定している場合は、解除してください。
理由：オーディオサンプル数が不足しています。	オーディオサンプル数が規定値に達していないため、変換すると音声にノイズが混じる可能性があります。変換元クリップのオーディオサンプル数を確認してください。
xxxx のメディア取り出しに失敗しました。メディアは使用中の可能性があります。ファイルにアクセスしていないことを確認してください。	メディア内のクリップにアクセスしているときは、アクセスを中止してください。

プラグインソフトウェア（有償）の入手方法

以下の URL へアクセスして当該ソフトウェアをダウンロードしてください。このウェブサイトは、［ヘルプ］メニューの［MainConcept バージョン ...］を選択して開くダイアログの URL をクリックすることによって表示することができます。

http://www.mainconcept.com/plugin4clipbrowser

ライセンス

MPEG-4 Visual Patent Portfolio License について

本製品は、MPEG LA, LLC. がライセンス活動を行っている MPEG-4 Visual Patent Portfolio License の下、次の用途に限りライセンスされており、その他の用途に関してはライセンスされていません。

(i) 消費者が個人的、非営利の使用目的で、MPEG-4 Visual 規格に合致したビデオ信号（以下、MPEG-4 Video といいます）にエンコードすること。
(ii) MPEG-4 Video（消費者が個人的に非営利目的でエンコードしたもの、もしくは MPEG LA よりライセンスを取得したプロバイダーがエンコードしたものに限られます）をデコードすること。

プロモーション、営利目的に利用することに関する詳細な情報につきましては、MPEG LA, LLC. のホームページ <http://www.mpegla.com> を参照してください。

MPEG LA は、(i) MPEG-4 Visual ビデオ情報を記録した媒体（PACKAGED MEDIA）を製造し、販売する行為、(ii) MPEG-4 Visual ビデオ情報を何らかの方法 (オンラインビデオ配信サービス、インターネット放送、TV 放送など) で配信・放送する行為について、ライセンスを提供しています。その他の使用方法につきましても、MPEG LA からのライセンス取得が必要な場合があります。
詳しくは、MPEG LA にお問い合わせください。
MPEG LA. L.L.C., 250 STEELE STREET, SUITE 300, DENVER, COLORADO 80206
ホームページ：http://www.mpegla.com

MPEG-2 Video Patent Portfolio License について

個人的使用以外の目的で、MPEG-2 規格に合致した本製品をパッケージメディア向けビデオ情報をエンコードするために使用する場合、MPEG-2 PATENT PORTFOLIO の特許に関するライセンスを取得する必要があります。尚、当該ライセンスは、MPEG LA. L.L.C.,（住所：250 STEELE STREET, SUITE 300, DENVER, COLORADO 80206）より取得可能です。

AVC Patent Portfolio License について

本製品は、MPEG LA, LLC. がライセンス活動を行っている AVC PATENT PORTFOLIO LICENSE の下、次の用途に限りライセンスされています：
(i) 消費者が個人的、非営利の使用目的で、MPEG-4 AVC 規格に合致したビデオ信号（以下、AVC VIDEO といいます）にエンコードすること。
(ii) AVC Video（消費者が個人的に非営利目的でエンコードしたもの、若しくは MPEG LA よりライセンスを取得したプロバイダーがエンコードしたものに限られます）をデコードすること。
なお、その他の用途に関してはライセンスされていません。
プロモーション、商業的に利用することに関する詳細な情報につきましては、MPEG LA, LLC. のホームページ（HTTP://WWW.MPEGLA.COM）をご参照下さい。

VC-1 Patent Portfolio License について

本製品は、MPEG LA, LLC. がライセンス活動を行っている VC-1 PATENT PORTFOLIO LICENSE の下、次の用途に限りライセンスされています：
(i) 消費者が個人的、非営利の使用目的で、VC- 1 規格に合致したビデオ信号（以下、VC-1 VIDEO といいます）にエンコードすること。
(ii) VC-1 VIDEO（消費者が個人的に非営利目的でエンコードしたもの、若しくは MPEG LA よりライセンスを取得したプロバイダーがエンコードしたものに限られます）をデコードすること。
なお、その他の用途に関してはライセンスされていません。
プロモーション、商業的に利用することに関する詳細な情報につきましては、MPEG LA, LLC. のホームページ（HTTP://WWW.MPEGLA.COM）をご参照下さい。

Mac OS 編

Mac OS での使いかたを説明します

はじめに

本書の対象読者

本書では、Mac OS 上で動作する XDCAM EX Clip Browsing Software（XDCAM EX クリップブラウジングソフトウェア）について説明しています。本書は、このソフトウェアを使ってファイルやフォルダーを操作するユーザーを対象としており、読者に Mac OS の操作に関する基本的な知識があることを前提としています。

特殊キーの表記について

本書では、キーボードの特殊キーを次のように表記します。

シンボル	本書での表記
⌘	コマンド
⇧	shift
⌥	option
^	control
↩	return

XDCAM HD 機器を使用する場合の注意事項

- 他の XDCAM 系アプリケーション（XDCAM Transfer）から XDCAM HD 機器にアクセスしているときは、本ソフトウェアからその機器にアクセスすることはできません。
- 本ソフトウェアの使用中に i.LINK ケーブルの抜き差しや、XDCAM HD 機器のオン / オフを行う場合は、必ず本ソフトウェアを終了させてから行ってください。

概要

XDCAM EX Clip Browsing Software は、XDCAM EX/XDCAM HD 機器で使用されるクリップを操作するためのソフトウェアです。
本ソフトウェアをコンピューターにインストールすると、クリップのコピー、移動、削除によってクリップを整理したり、クリップのフォーマットを変換するなどの操作を、GUI（グラフィカルユーザーインターフェース）を使って簡単に行うことができます。また、クリップをプレビューしたり、クリップに付属するメタデータを参照することもできます。
本ソフトウェアで操作できるクリップは次表のとおりです。

クリップ	ファイルフォーマット	拡張子
XDCAM EX フォーマット互換クリップ	MP4	mp4
	DV-AVI Type2 a)、b)	avi
XDCAM HD 機器用フォーマットクリップ	MXF b)	mxf

a) 本書では「DV-AVI クリップ」または「DV-AVI ファイル」と記載します。
b) 操作できる機能に制限があります。

ご注意

HQ 1440 クリップまたは DV-AVI クリップが記録された SxS メモリーカードなどのメディアは、PMW-EX1/EX3/EX30 では使用できないメディアとして認識されます。

Version 2.6 でサポートされた機能

Version 2.6 でサポートされた主な機能を次表に示します。

項目	機能	参照先
DV-AVI クリップの操作	DV-AVI クリップについて、プレビューなどの操作ができる。ただし、操作できる機能に制限がある。	—
クリップ一覧情報のエクスポート	メディアまたはフォルダー内のクリップの一覧情報を XML とスタイルシートの 2 つの形式で出力し、Safari で閲覧および印刷ができる。	66 ページ
Acquisition（撮影情報）の表示	MP4 クリップの撮影情報を、フレームごとにアニメーションまたはテキスト形式で表示できる。	71 ページ
クリッププロパティーの一括編集	MP4/MXF クリップのプロパティー（ステータス、タイトル 1、タイトル 2、撮影者、および説明）を一括編集できる。	71 ページ

項目	機能	参照先
フラッシュバンド補正	MP4/DV-AVI クリップのフラッシュバンドが発生したフレームを補正できる。	83 ページ

ソフトウェアの動作環境

本ソフトウェアを動作させるには、次の条件を備えたコンピューターを用意してください。

項目	条件
OS	Mac OS X 10.4.11 以降 /10.5.1 以降 /10.6 以降 [a]
CPU	Intel Core 2 Duo Processor 2.0GHz 以上（Intel Core 2 Duo Processor 2.4GHz 以上を推奨）[b]
メモリー	1GB 以上（2GB 以上を推奨）
その他	Safari 4.0.2 以上 [c]

a) Mac OS は、米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。
b) Intel は、アメリカ合衆国および他の国における Intel Corporation の登録商標です。Core は、アメリカ合衆国および他の国における Intel Corporation の商標です。
c) エクスポートしたクリップの一覧情報を閲覧、印刷するとき

その他、本書に記載されている商品名、会社名等は、その会社の登録商標または商標です。

本ソフトウェアが対応している XDCAM 機器

本ソフトウェアは、次の XDCAM 機器に対応しています。

シリーズ名	機種名
XDCAM HD422（Version 1.2 以上）	PDW-F800
	PDW-700
	PDW-740
	PDW-F1600
	PDW-HD1500
	PDW-HR1
XDCAM HD（Version 1.92 以上）	PDW-F355L
	PDW-F335L
	PDW-F335K
	PDW-F75
XDCAM HD ドライブ	PDW-U1

ご注意

XDCAM HD422 シリーズのフォーマット混在記録モードには対応していません。XDCAM 機器が混在記録モードのとき、この機器をクリップのコピー先、または移動先として指定できないことがあります。

ソフトウェアのインストール

MainConcept 社製プラグインソフトウェアをインストールしている場合は

当該のプラグインソフトウェアを購入済みの場合は、以下の URL へアクセスし、最新版にバージョンアップしてください。このウェブサイトは、［XDCAM EX Clip Browser］メニューの［MainConcept 変換パックについて］を選択して開くダイアログの URL をクリックすることによって表示することができます。
http://www.mainconcept.com/plugin4clipbrowser

Version 1.0x がインストールされている場合は

あらかじめ Version 1.0x（1.00 または 1.01）をアンインストールしておいてください（59 ページ参照）。

CD-ROM からインストールする場合

1 付属の CD-ROM を CD-ROM ドライブに入れる。

ディスクアイコンが表示されます。

2 ディスクアイコンをダブルクリックする。

CD-ROM の内容が表示されます。

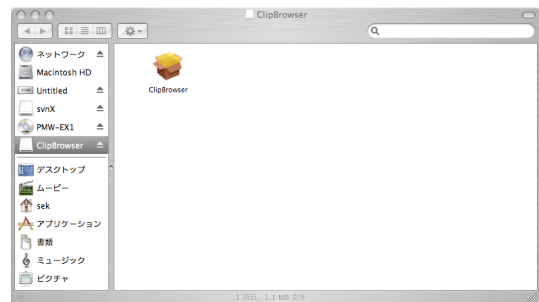
3 index.htm をダブルクリックする。

表紙ページがブラウザに表示されます。

4 XDCAM EX Clip Browsing Software Installer から［MAC OS X］を選択してクリックする。

Finder が起動し、ClipBrowser.dmg が表示されます。

5 ClipBrowser.dmg をダブルクリックする。

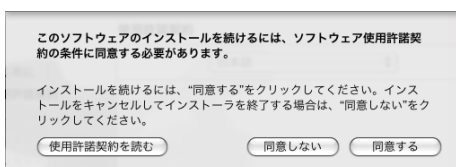
Finder が起動し、ClipBrowser.pkg が表示されます。

6 ClipBrowser.pkg をダブルクリックする。

インストール画面が表示されます。

7 ［続ける］をクリックする。

使用許諾契約画面が表示されます。

8 ［続ける］をクリックする。

次のメッセージが表示されます。

9 ［同意する］をクリックする。

インストール先の選択画面が表示されます。

10 インストール先のボリュームをクリックする。

11 ［続ける］をクリックする。

次の画面が表示されます。

12 ［インストール］をクリックする。

認証画面が表示されます。

13 名前とパスワードを入力し、「OK」をクリックする。

インストールが完了すると、次の画面が表示されます。

14 ［閉じる］をクリックしてダイアログを閉じる。

アンインストールするには

インストール先のフォルダー（デフォルト：/ アプリケーション /XDCAM EX Clip Browser）をゴミ箱に移動します。

ご注意

本ソフトウェアをアンインストールすると、MainConcept 社製プラグインソフトウェアもアンインストールされます。

起動と終了

◆ ソフトウェアをインストールする方法については、「ソフトウェアのインストール」（58 ページ）をご覧ください。

ソフトウェアを起動する

Finder でアプリケーションフォルダー内の XDCAM EX Clip Browser フォルダーを開き、XDCAM EX Clip Browser をダブルクリックします。
ソフトウェアが起動すると操作ウィンドウ（61 ページ参照）が表示されます。

ご注意

本ソフトウェアを同時に複数起動することはできません。

ソフトウェアを終了する

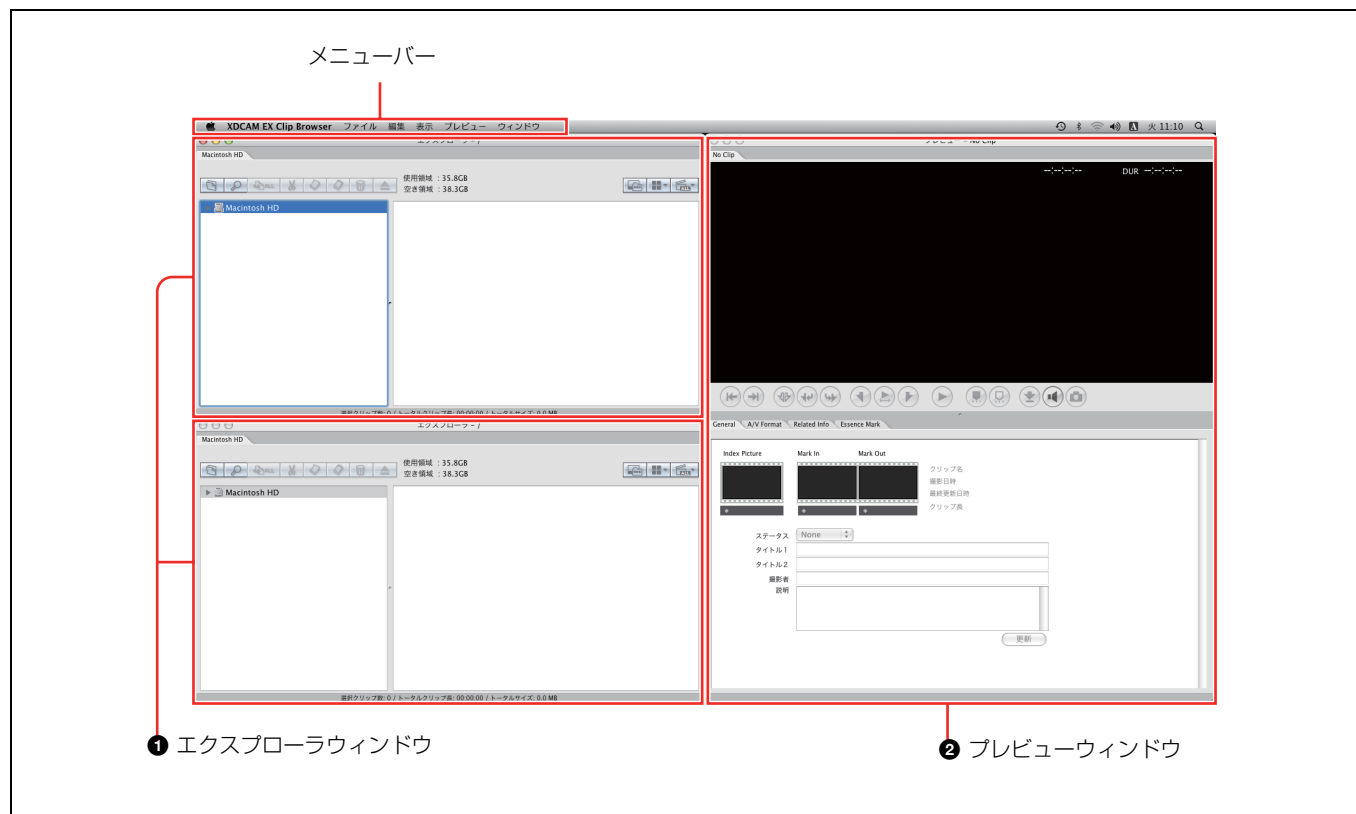
XDCAM EX Clip Browser メニューで［XDCAM EX Clip Browser を終了］を選択します。

ご注意

ファイル操作が行われているときに、コンピューターの電源を切らないでください。ファイルが壊れる可能性があります。操作の終了を待つか、操作をキャンセルしてから電源を切ってください。

各部の名称と働き

操作ウィンドウの構成

初期状態では、次図に示すように構成されています。

❶ エクスプローラウィンドウ

エクスプローラウィンドウは、10 個まで同時に開くことができます。また、開いている複数のウィンドウは、タブ化して 1 つのウィンドウにまとめることができます。

◆ 詳しくは、「エクスプローラウィンドウ」（63 ページ）をご覧ください。

❷ プレビューウィンドウ

プレビューウィンドウは、5 個まで同時に開くことができます。また、開いている複数のウィンドウは、タブ化して 1 つのウィンドウにまとめることができます。

◆ 詳しくは、「プレビューウィンドウ」（67 ページ）をご覧ください。

ウィンドウ構成をカスタマイズするには

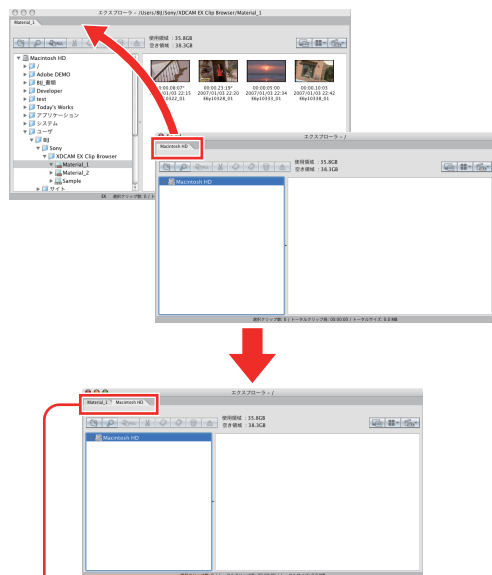
複数のウィンドウを開くには

［ファイル］メニューで［新しいエクスプローラを開く］または［新しいプレビューを開く］を選択します。
選択したコマンドに応じて、エクスプローラウィンドウまたはプレビューウィンドウが開きます。

ウィンドウ同士を結合するには

一方のウィンドウをドラッグして他方のウィンドウに近づけると、それぞれの境界でウィンドウ同士が結合します（スナップ機能）。

複数のウィンドウをまとめるには

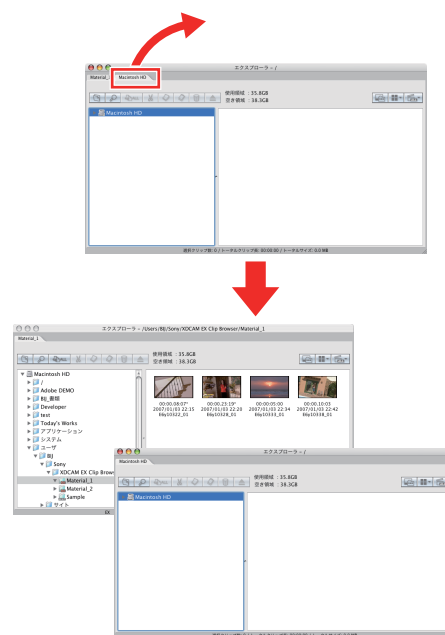
同種のウィンドウ（エクスプローラウィンドウ同士、またはプレビューウィンドウ同士）は、タブ化してまとめることができます。
一方のウィンドウのタブをドラッグして、他方のウィンドウ内にドロップします。

タブ化されたウィンドウ

プレビューウィンドウの場合、すでにウィンドウが 1 つ開いているときにエクスプローラウィンドウで次のいずれかの操作を行うと、該当するメディアファイルのウィンドウがタブとして追加されます。

- リスト表示部でメディアファイルをダブルクリックする。
- リスト表示部でメディアファイルを選択し、［プレビュー］メニューで［再生］を選択する。

該当するメディアファイルのウィンドウ、またはタブがすでに開いている場合は、そのウィンドウまたはタブがアクティブになります。

タブ化を解除してウィンドウを分離するには

分離したいウィンドウのタブをドラッグして、ウィンドウの外にドロップします。

そのほかのカスタマイズ操作

- ウィンドウのタイトルバーをドラッグして、ウィンドウを移動する。
- ウィンドウの任意の境界をドラッグして、ウィンドウを任意の大きさに変える。
- ウィンドウの左上隅にある＋（拡大 / 縮小）ボタンをクリックして、ウィンドウの大きさを拡大 / 縮小する。
- ウィンドウの左上隅にある×（閉じる）ボタンをクリックして、使用しないウィンドウを閉じる。

カスタマイズしたウィンドウ構成は記憶されるため、次回ソフトウェアを起動したときに構成が再現されます。

スナップ機能が有効なときは

ウィンドウの境界をドラッグしてサイズ変更すると、隣接するウィンドウとの並びを保ったまま、隣接するウィンドウのサイズも連動して変わります。

◆ スナップ機能を無効にすることもできます。詳しくは、「環境設定」（91 ページ）をご覧ください。

補足

shift キーを押したまま操作すると、設定と逆の動作になります。

スナップ機能有効時：スナップ機能が働かない。

スナップ機能無効時：スナップ機能が働く。

タブ選択のショートカット操作

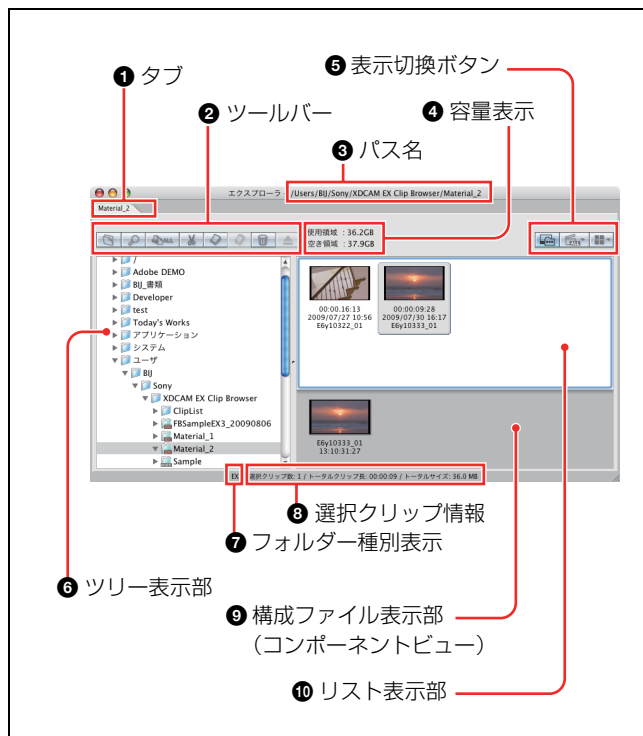
ウィンドウをタブ化しているとき、タブの選択をキーボードで操作することができます。

タブの選択をキーボードで操作するには

shift ＋コマンド＋ { キー、または shift ＋コマンド＋ } キーを押します。

エクスプローラウィンドウ

このウィンドウ上で、クリップ（ファイル）とフォルダーの各種操作を行い、クリップに付属するメタデータを参照します。操作対象となるフォルダーとファイルは、XDCAM EX/XDCAM HD フォーマットのフォルダーおよびメディアです。

❶ タブ

ツリー表示部で選択されているメディアまたはフォルダーの名前が表示されます。

複数のエクスプローラウィンドウを開いているとき、ここをドラッグして別のウィンドウ内にドロップすると、ウィンドウを 1 つにまとめることができます（61 ページ参照）。

❷ ツールバー

クリップやフォルダーの操作に使用するツールボタンが配置されています。

ツールボタン		機能	参照先
アイコン	名称		
	フォルダの新規作成	選択されているメディアまたはフォルダー内に新しいフォルダーを作成する。	86 ページ
	検索	検索ダイアログを開く。	82 ページ
	すべてコピー	選択されているメディアまたはフォルダー内のすべてのクリップを、本ソフトウェアが自動的に作成するフォルダー内にコピーする。	74 ページ
	切り取り	選択されているクリップを切り取る。	74 ページ
	コピー	選択されているクリップをコピーする。	72 ページ
	貼り付け	「切り取り」または「コピー」が実行されたクリップを、別のメディアまたはフォルダー内に貼り付ける。	72 ページ 74 ページ
	削除	選択されているクリップまたはフォルダーを削除する。	76 ページ 87 ページ
	メディアの取り出し	ツリー表示部で XDCAM ドライブまたは SxS メモリーカードドライブが選択されているとき、メディアの取り出し、またはメディアを安全に取りはずせる状態にする（下記の「メディアの取り出しについて」を参照）。	—

メディアの取り出しについて

操作対象のドライブにかかわらず、OS の「取り出す」と同じ動作をします。

❸ パス名

ツリー表示部で選択されているメディアまたはフォルダーのパス名（フルパス）が表示されます。

❹ 容量表示

ツリー表示部で選択されているメディアの使用容量と空き容量を表示します。

❺ 表示切換ボタン

リスト表示部の表示を切り換えます。

ボタン		機能
アイコン	名称	
	コンポーネントビューの表示 / 非表示	コンポーネントビューの表示 / 非表示を切り換える。
	表示フィルター	XDCAM EX クリップのファイルフォーマットによる表示条件（すべて /MP4/DV-AVI）を切り換える。
	リスト表示	クリップの表示形式（サムネイル / 詳細）を切り換える。

Mac OS編

❻ ツリー表示部

ドライブ以下の階層にあるメディアおよびフォルダーがツリー表示されます。
メディアまたはフォルダーの種類を表すアイコンは次表のとおりです。

アイコン	メディアまたはフォルダーの種類
	ハードディスクドライブ
	CD/DVD ドライブ、および Blu-ray Disc ドライブ
	XDCAM ドライブ（通常）
	XDCAM ドライブ（UserData）
	SxS メモリーカードドライブ
	USB 接続された大容量記憶装置（リムーバブルドライブ）
	マウントされたネットワーク上のドライブ
	本ソフトウェア管理外の一般的なフォルダー
	EX 属性のフォルダー
	MXF 属性のフォルダー

ここでは、Finder のツリー表示部と同様な操作が可能です。

ご注意

メディアを選択したときに、「サルベージが必要です」や「記録を行った装置にて復旧処理を行ってください」のメッセージが表示されることがあります。この場合、記録中に XDCAM EX 機器の電源を切ったり、記録メディアを抜いたことにより、メディアのデータが不完全な状態になっています。メディアを XDCAM EX 機器に戻して直ちにデータを復旧させてください。データを復旧させないまま操作を続けると、データが復旧できなくなります。

❼ フォルダー種別表示

ツリー表示部で次のいずれかのフォルダーが選択されているときに表示されます。
EX：EX 属性のフォルダー
MXF：MXF 属性のフォルダー

❽ 選択クリップ情報

リスト表示部におけるクリップの選択情報（選択クリップ数 / トータルクリップ長 / トータルサイズ）が表示されます。

ご注意

トータルクリップ長は概略値のため、目安としてご利用ください。

❾ 構成ファイル表示部（コンポーネントビュー）

クリップを構成しているファイルを時系列に表示します。
表示するには、［表示］メニューで［コンポーネントビューを表示］を選択するか、ツールバーでコンポーネントビューの表示 / 非表示ボタンをクリックします。
リスト表示部で DV-AVI クリップを 1 つだけ選択すると、そのクリップを構成しているファイルがサムネイル形式で表示されます。

ご注意

- DV-AVI クリップの構成ファイルのみが表示対象です。
- 構成ファイル表示部では、コピーや削除などの操作はできません。

❿ リスト表示部

ツリー表示部で選択されているメディアやフォルダーに保存されているクリップを、次のいずれかの形式で表示します。

サムネイル表示：クリップの代表画（設定されていない場合は先頭フレーム）と 3 つのクリップ属性（デフォルトはデュレーション、撮影日時、およびクリップ名）が表示される。

◆ クリップ属性の表示項目は変更することができます。詳しくは、「環境設定」（91 ページ）をご覧ください。

詳細表示：クリップの種類と状態を示すアイコン、クリップ名、および各種の属性が表示される。

クリップの表示形式を切り換えるには

次のいずれかを実行します。
- ［表示］メニューで［サムネイル］または［詳細］を選択する。
- リスト表示ボタンをクリックし、［サムネイル］、［詳細］のいずれかを選択する。

いずれの表示形式の場合も、クリップの状態を示すマークが、サムネイルまたはアイコン上に表示されます。

表示形式	アイコン	説明
詳細表示		通常の MP4 ファイル
		OK マーク付きの MP4 ファイル a)
		一部の画像が表示できない場合があるが、それ以外の画像は通常 MP4 ファイルと同様に、クリップ操作が可能な MP4 ファイル
		不正な MP4 ファイル（実体がない、デコードできないなど）
		通常の DV-AVI ファイル
		一部の画像が表示できない場合があるが、それ以外の画像は通常 DV-AVI ファイルと同様に、クリップ操作が可能な DV-AVI ファイル
		不正な DV-AVI ファイル（実体がない、デコードできないなど）
		通常の MXF ファイル
		OK マーク付きの MXF ファイル（XDCAM 機器で OK マークを設定した）a)
		一部の画像が表示できない場合があるが、それ以外の画像は通常 MXF ファイルと同様に、クリップ操作が可能な MXF ファイル
		不正な MXF ファイル（実体がない、デコードできないなど）

表示形式	表示例	説明
サムネイル表示		通常のクリップ
		OK マーク付きクリップ a)
		複数のメディアにまたがって記録されたクリップの先頭部分 b)
		複数のメディアにまたがって記録されたクリップの中間部分 b)
		複数のメディアにまたがって記録されたクリップの末尾部分 b)
		一部の画像が表示できない場合があるが、それ以外の画像は通常クリップと同様に、クリップ操作が可能なクリップ
		読み込めないため、プレビューやプロパティー編集ができないクリップ c)、d)

a) 本ソフトウェアでは、OK マーク付きクリップも移動または削除することができます。
b) 複数のメディアに分割して記録されたクリップは、不足している画像部分は再生されません。
c) ファイルが壊れている、サムネイルが作成できないなどの原因により、本ソフトウェアで再生 / 表示できないクリップです。
d) 他のアプリケーションがクリップのファイルを使用しているため、本ソフトウェアで再生 / 表示できないクリップです。

表示項目を並べ替えるには

［表示］メニューの［整列］から、並べ替えのキーにしたい次のいずれかの項目を選択します。

- クリップ名
- サイズ
- クリップ長
- ステータス
- 撮影日時
- 最終更新日時

- 記録モード
- メディア跨ぎ

詳細表示にしているときの表示項目を変更するには

［表示］メニューの［詳細表示の設定 ...］を選択して開くダイアログで、次のように操作します。

表示する項目を決めるには：チェックボックスをオンにします。［すべて表示］ボタンをクリックすると、すべての項目のチェックボックスがオンになります。

表示しない項目を決めるには：チェックボックスをオフにします。［すべて非表示］ボタンをクリックすると、「クリップ名」を除き、すべての項目のチェックボックスがオフになります。

表示する順番を変更するには：項目名をクリックしてハイライト表示させ、［上へ］ボタンまたは［下へ］ボタンをクリックします。

初期設定に戻すには：［規定値に戻す］ボタンをクリックします。

変更を確定するには：［OK］ボタンをクリックします。

変更を中止するには：［キャンセル］ボタンをクリックします。

ツールチップの表示項目を変更するには

リスト表示部でクリップをポイントしたときに表示されるツールチップの表示項目は、［表示］メニューの［ツールチップの表示設定 ...］を選択して開くダイアログで変更することができます。

◆ 操作については、前項の「詳細表示にしているときの表示項目を変更するには」をご覧ください。

クリップの一覧情報をエクスポートするには

メディアまたはフォルダー内のクリップの一覧情報を XML とスタイルシートの 2 つの形式で出力し、Safari [1] で閲覧および印刷することができます。

1) 本機能は、Safari 4.0.2 で動作確認済みです。

1 エクスプローラウィンドウのツリー表示部で、クリップの一覧情報を出力したいメディアまたはフォルダーを選択する。

2 リスト表示部で出力対象のクリップを選択する。（すべてのクリップ、または表示フィルターによって表示されているフォーマットのクリップすべてが出力対象のときは、この操作は不要です。）

3 ［ファイル］メニューで［クリップ一覧の出力 ...］を選択する。

クリップ一覧の出力ダイアログが開きます。

4 次の項目を設定する。

出力先

- フォルダ：出力先のフォルダーを指定します。エディットボックスにドライブ名から始まるパス名を入力するか、［...］ボタンをクリックして開くフォルダの参照ダイアログでフォルダーを選択し、［OK］ボタンをクリックします。
- データ名：ここで指定した名前のファイル（XML ファイルとスタイルシート）が、出力先のフォルダーに生成される同名のフォルダー内に出力されます。

ご注意

ウェブブラウザーの制約により、データ名として使用すると、クリップの一覧情報が正しく表示されない文

字があります。データ名には、英数字を使用することをおすすめします。

出力オプション

- サムネイル：テキスト情報とともにクリップのサムネイル（JPEG ファイル）を出力します。
- エッセンスマークの詳細：クリップに設定されているエッセンスマークの詳細情報を出力します。

出力範囲

- すべて：選択したメディアまたはフォルダー内のすべてのクリップ
- 表示しているクリップ（MP4/DV-AVI）：リスト表示部に表示されているクリップ
- 選択しているクリップ：リスト表示部で選択されているクリップ

5 ［実行］ボタンをクリックして、エクスポートを開始する。

エクスポートの進捗状況がプログレスバーで表示され、処理が完了すると次のダイアログが表示されます。

操作終了時に XML ファイルを表示するには

［出力ファイルを表示する。］チェックボックスをオンにします。

6 ［OK］ボタンをクリックして、ダイアログを閉じる。

出力したファイルを開くには

出力先フォルダーに生成された「データ名」フォルダー内の「データ名」.xml ファイル、または「データ名」.xsl ファイルをダブルクリックします。
表示されたクリップの一覧情報は、Safari のプリントコマンドを使って印刷することができます。

プレビューウィンドウ

このウィンドウ上で、クリップのプレビューを行ったり、クリップの各種情報を確認します。

プレビューウィンドウについてのご注意

このウィンドウで行う再生はプレビュー再生です。以下の点にご注意ください。

- コンピューターの性能や使用状況によっては、コマ落ちしたり、タイムコードが実際の値とずれることがあります。また、クリップが滑らかに再生されなかったり、画面の一部の更新が遅れることがあります。
- クリップが不完全な状態の場合、再生時に画像が乱れたり、フリーズすることがあります。
- 分割されたクリップの場合は、不足している画像部分は再生されません。
- XDCAM EX 機器以外で作成したクリップについては、再生できない場合があります。
- 再生中にコンピューターの画面の設定（環境設定）を変更すると、画像が正しく再生できなくなることがあります。その場合は、ソフトウェアを再起動してください。

❶ タブ

クリップ名が表示されます。
複数のプレビューウィンドウを開いているとき、ここをドラッグして別のウィンドウ内にドロップすると、ウィンドウを 1 つにまとめることができます（61 ページ参照）。

❷ ビューアー部

クリップのプレビューを行います（次項参照）。

❸ クリップ名

選択されているタブのクリップ名が表示されます。

❹ **スプリッター**

上下にドラッグすることによって、ビューアー部とクリッププロパティー部の表示比率を変えることができます。

❺ **クリッププロパティー部**

クリップの各種情報を確認することができます（69 ページ参照）。

ビューアー部

❶ **スクリーン**

再生画を表示します。

ここをダブルクリックするか、または［表示］メニューで［全画面］を選択すると、フルスクリーン表示になります。元の表示に戻すには、スクリーンをダブルクリックするか、または Esc キーを押します。

❷ **クリップ種別表示**

記録フォーマットの違いによるクリップの種別が表示されます。

XDCAM EX (MP4)：XDCAM EX クリップ（MP4 ファイル）

XDCAM EX (DV-AVI)：XDCAM EX クリップ（DV-AVI ファイル）

XDCAM HD/HD422：XDCAM HD または XDCAM HD422 クリップの MPEG HD ファイル（MXF ファイル）

XDCAM HD/HD422 Proxy：XDCAM HD または XDCAM HD422 クリップのプロキシファイル（MXF ファイル）

❸ **エッセンスマーク個数表示**

エッセンスマークの設定個数（現在の設定個数 / 最大設定個数）が表示されます。

❹ **タイムコード表示**

現在位置（プレイライン位置）のタイムコードとクリップに設定されているイン点 / アウト点間のデュレーション（長さ）が表示されます。タイムコードが記録されていない場合は、カウンター値が表示されます。

NTSC 方式で記録されたクリップの場合は、現在位置タイムコードの分と秒の区切り記号で、ドロップフレーム（.）とノンドロップフレーム（:）を識別することができます。

現在位置のタイムコードをクリックして数値を入力し、return キーを押すと、指定したタイムコードの位置に移動します。ただし、不正なタイムコードを入力した場合、この操作は無効になります。

◆ タイムコードの表示形式は変更することができます。詳しくは、「環境設定」（91 ページ）をご覧ください。

❺ **ポジションバー**

クリップのタイムスケールを表します。

ポジションバー上には、クリップの各種情報が次表に示すマークで表示されます。

マーク	意味
	イン点
	アウト点
	エッセンスマーク a)
	タイムコードブレーク点（タイムコードの不連続点）
	構成ファイルの分割点（DV-AVI クリップが複数のファイルで構成されている場合のみ表示される。）
	フラッシュバンド未補正マーク a)
	フラッシュバンド補正済みマーク a)

a) エッセンスマークとフラッシュバンド未補正 / 補正済みマークが重なるときは、フラッシュバンド未補正 / 補正済みマークが優先表示されます。

❻ **プレイライン**

タイムスケール上の現在位置を示します。

任意の位置にドラッグするか、またはポジションバー上の任意の場所をクリックして、その位置に移動することができます。スクラブ操作（左右に繰り返しドラッグする操作）にも対応しています。

❼ **コマンドボタン**

クリップのプレビュー操作を行うためのボタン群です。これらのボタンが持つ機能は、キーボードで操作することもできます。

アイコン	名称	キーボード操作	機能
	スタートへ	home	クリップのスタート点（先頭フレーム）に移動する。
	エンドへ	end	クリップのエンド点（最終フレーム）に移動する。
	マークイン / アウトのクリア a)	shift + X	イン点およびアウト点の設定を解除する。再生中も操作可能（再生を継続する）。
	イン点へ	↑	イン点に移動する。
	アウト点へ	↓	アウト点に移動する。
	マークイン a)	I	現在位置をイン点に設定する。再生中も操作可能（再生を継続する）。
	イン / アウト間再生	shift + スペース	イン点からアウト点までの範囲を再生する（再生中はボタンのアイコンが緑色に点灯する）。再生中にクリックすると停止する。
	マークアウト a)	O	現在位置をアウト点に設定する。再生中も操作可能（再生を継続する）。
	再生	スペース	再生する（再生中はボタンのアイコンが緑色に点灯する）。再生中にクリックすると停止する。
	エッセンスマークの追加 a)	E	現在位置にエッセンスマークを設定する。b) 再生中も操作可能（再生を継続する）。ただし、設定済みの位置では操作できない。
	エッセンスマークの削除 a)	shift + E	現在位置に設定されているエッセンスマークを削除する。再生中も操作可能（再生を継続する）。
	代表画の設定 c)	P	現在位置のフレームを代表画に設定する。再生中も操作可能（再生を停止する）。
	オーディオチャンネルの設定	—	チャンネル設定ダイアログを開く。
	静止画を作成	—	ファイル名と保存先を指定するダイアログが開き、現在位置のフレームをビットマップ形式の静止画として保存することができる。ただし、XDCAM ディスク上のクリップから静止画を作成することはできない。

a) 以下のクリップの場合、編集点（イン点 / アウト点）およびエッセンスマークの編集は不可
- XDCAM ドライブ上のクリップ
- DV-AVI クリップ

b) 設定可能なエッセンスマークの最大個数は以下のとおり
- XDCAM EX クリップ（MP4 ファイル）：126 個
- XDCAM HD クリップ（クリップ長が 126 秒未満）：秒数＋ 1 個（例：45 秒のクリップの場合、46 個）
- XDCAM HD クリップ（クリップ長が 126 秒以上）：126 個

c) DV-AVI クリップの代表画の設定は不可

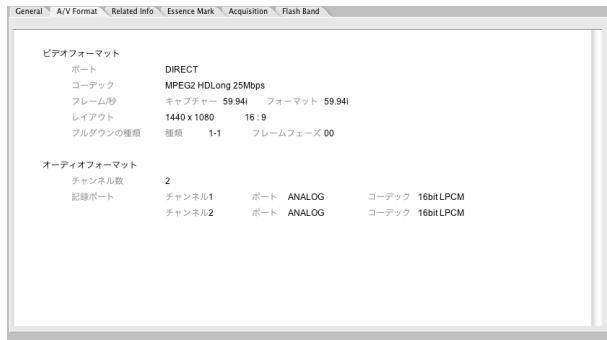
クリッププロパティー部

General（一般情報）タブ

クリップに関する一般的な情報が表示されます。
- Index Picture（代表画）：設定されていないときは、クリップの先頭フレームが代表画として表示される。
- Mark In（イン点）：設定されていないときは、クリップの先頭フレームがイン点として表示される。
- Mark Out（アウト点）：設定されていないときは、クリップの最終フレームがアウト点として表示される。
- クリップ名
- 撮影日時
- 最終更新日時
- クリップ長
- ステータス：OK、NG、KEEP、None から選択できる。
- タイトル 1：ASCII 文字で 63 バイト以下のタイトルを付けることができる。
- タイトル 2：127 バイト以下のサブタイトルを付けることができる。
- 撮影者：撮影者の名前を 127 バイトまで記入することができる。

• 説明：撮影状況などの説明を 2047 バイトまで記入することができる。

ステータス、タイトル 1、タイトル 2、撮影者、および説明を編集した場合、編集結果をクリップに反映するには、［更新］ボタンを押します。［更新］ボタンを押さずにウィンドウまたはタブを閉じると、編集結果は破棄されます。

◆ これらの属性を同一のメディアまたはフォルダー内のクリップ間で共通にしたいときは、一括して編集することができます。詳しくは、「クリッププロパティーを一括編集するには」（71 ページ）をご覧ください。

ご注意

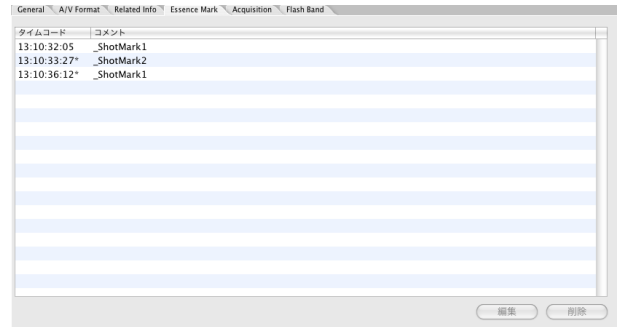
DV-AVI クリップのプロパティーは編集できません。

A/V Format（オーディオ / ビデオフォーマット）タブ

クリップの記録フォーマットに関する情報が表示されます。
• ビデオフォーマット
• オーディオフォーマット

Related Info（クリップ関連情報）タブ

クリップの記録条件に関する情報が表示されます。
• モデルタイプ
• レンズ名
• 記録モード
• メディア跨ぎ
• ファイル名
• 構成ファイル数
• UMID
• キーフレーム
• ユーザービット
• プロキシ AV データ
• 編集リスト
• ハード＆ソフトウェア

Essence Mark（エッセンスマーク）タブ

クリップに設定されているエッセンスマークのタイムコードとコメントがリスト表示されます。
このリストでエッセンスマークを選択すると、再生画はそのエッセンスマークが設定されているフレームに移動します。

コメントを編集するには：リスト上でエッセンスマークを 1 つだけ選択し、［編集］ボタンをクリックして開くコメントの編集ダイアログで編集します。コメントは 32 バイトまで入力できます。編集後に［OK］ボタンをクリックすると、コメント欄に変更が反映されます。

エッセンスマークを削除するには：リスト上でエッセンスマークを選択し（shift キーを押したままクリックすることによって複数選択可能）、［削除］ボタンをクリックして表示される確認のダイアログで［はい］をクリックします。

ご注意

• 以下のクリップのエッセンスマークのコメントは編集できません。
  - XDCAM ドライブ上のクリップ
  - DV-AVI クリップ
• XDCAM EX 機器で表示できるエッセンスマークは、「_ShotMark1」と「_ShotMark2」だけです。
• 本ソフトウェアでエッセンスマークを設定したクリップを XDCAM EX 機器で再生すると、指定したフレームの近傍フレームにエッセンスマークが表示されます。

Acquisition（アクイジション）タブ：Animation View（アニメーション表示）選択時

Acquisition（アクイジション）タブ：Text View（テキスト表示）選択時

MP4 フォーマットクリップの撮影条件に関する情報がフレームごとに表示されます。リストボックスで「Animation View（アニメーション表示）」と「Text View（テキスト表示）」を切り換えることができます。

- Model Name：Camera/Lens（モデル名：カメラ / レンズ）
- Video Format（ビデオフォーマット）
- Date and Time（撮影日時）
- Auto Mode：AE/AF/WB（自動モード：自動露出 / オートフォーカス / ホワイトバランス）
- Lens Setting：Macro/Opt.Extender（レンズ設定：マクロ / 光学エクステンダー）
- Lens Parameter：Iris/Focus/Zoom/AngleOfView/Focusing（レンズパラメーター：絞り / 焦点位置 / ズーム位置 / 画角 / 被写界深度）
- Filter Wheel：ND/CC（フィルターホイール：ND フィルター /CC フィルター）
- Capturing：Mode/Rate/Shutter（撮影条件：撮影モード / スロー&クイックモーション撮影時のフレームレート / シャッタースピード）
- Processing：Gain/Elec.Extender/WhiteBalance/Black/Gamma（画像処理：ゲイン / デジタルエクステンダー / ホワイトバランス / ブラックレベル / ガンマ）

ご注意

- 対象となるクリップがDV-AVIまたはMXFフォーマットの場合、Acquisition タブは表示されません。
- インポート素材やライン入力信号を記録した素材などは、撮影情報が表示されません。

Flash Band（フラッシュバンド）タブ

フラッシュバンドが発生したフレームに関する情報が表示されます。このタブは、フラッシュバンドの検出および補正が可能な MP4/DV-AVI クリップに対してのみ表示されます。

- タイムコード：フラッシュバンドが検出された（またはユーザーによって追加された）フレームのタイムコード
- フィールド：インターレースビデオの場合、補正を開始するフィールド（1st/2nd）
- 検出：検出方法（自動 / 手動）
- ステータス：補正処理状況（空欄（未補正）/ 補正済み）

◆ 操作については、「フラッシュバンドを補正する」（83 ページ）をご覧ください。

クリッププロパティーを一括編集するには

同一のメディアまたはフォルダー内のクリップのプロパティー（ステータス、タイトル 1、タイトル 2、撮影者、および説明）は、一括して編集することができます。

ご注意

DV-AVI クリップのプロパティーは編集できません。

1. エクスプローラウィンドウのツリー表示部で、メディアまたはフォルダーを選択する。
2. リスト表示部でクリッププロパティーの編集対象のクリップを選択する。（すべてのクリップ、または表示フィルターによって表示されているフォーマットのクリップすべてが編集対象のときは、この操作は不要です。）
3. ［編集］メニューで［クリッププロパティの一括編集 ...］を選択する。

クリッププロパティの一括編集ダイアログが開きます。

4 編集範囲を選択する。

- すべて：選択したメディアまたはフォルダー内のすべてのクリップ
- 表示しているクリップ（MP4）：リスト表示部に表示されているクリップ
- 選択しているクリップ：リスト表示部で選択されているクリップ

5 対象となる一括編集項目のチェックボックスをオンにし、設定値をリストボックスから選択するか、または編集内容をエディットボックスに入力する。

- ステータス：OK/NG/KEEP/None から選択
- タイトル 1：ASCII 文字で 63 バイト以下
- タイトル 2：127 バイト以下
- 撮影者：127 バイト以下
- 説明：127 バイト以下

既存の内容を上書きするには

［編集済み項目を上書きする］チェックボックスをオンにします。
このチェックボックスをオフにして一括編集を実行すると、空欄の項目のみ編集内容が反映されます。

6 ［実行］ボタンをクリックする。

一括編集を実行するかどうかを確認するメッセージが表示されます。

7 一括編集を実行する場合は［はい］ボタンを、中止する場合は［いいえ］ボタンをクリックする。

一括編集の進捗状況がプログレスバーで表示され、処理が完了すると処理完了を示すダイアログが表示されます。

8 ［OK］ボタンをクリックして、ダイアログを閉じる。

クリップの操作

クリップ操作に関するご注意

- 処理の実行中は、必ず次の事項をお守りください。
  - コンピューターおよびメディアドライブの電源を切らないでください。
  - 対象となるフォルダーを Finder などで削除しないでください。
  - 対象となるメディアを取り出したり、抜いたりしないでください。
- XDCAM EX機器で空き容量がないと表示されたメディアに対しても、本ソフトウェアを使用してクリップのコピー / 移動を実行できる場合があります。ただし、そのメディアを再度 XDCAM EX 機器に挿入すると、修復が必要なメディアとして表示され、XDCAM EX 機器では、そのクリップの再生や削除をすることができません。
- Finder などを使用して、直接 XDCAM ドライブからハードディスクなどにコピーして作成したフォルダーに対しては、クリップの追加や削除などの編集操作を行うことはできません。
- XDCAM HD機器のメニュー項目NAMING FORMの設定が「C****（標準形式）」の XDCAM ドライブに任意名（C**** 以外の名称）のクリップを書き込む場合、ファイル名は自動的に標準形式「C****」に変更されます。
- フレーム周波数が50pまたは60pのクリップをXDCAMドライブに書き込むと、奇数フレームに設定されているエッセンスマークとアウト点は、直前または直後の偶数フレームに移動します。たとえば、15 フレーム目に設定されているエッセンスマークは 14 フレーム目に、19 フレーム目に設定されているアウト点は 20 フレーム目に移動します。ただし、アウト点の移動先にエッセンスマークが設定されているときは、アウト点は削除されます。

◆ XDCAM HD 機器のメニュー操作について詳しくは、XDCAM HD 機器の取扱説明書またはオペレーションマニュアルをご覧ください。

クリップをコピーする

メディア内またはコンピューター上でクリップを複製したり、メディアとコンピューター間でクリップをコピーすることができます。

ご注意

MXF フォーマットクリップを XDCAM ドライブや MXF 属性フォルダーにコピーする場合、コピー元クリップの記録フォーマットとコピー先に存在するクリップの記録フォーマットが異なると、コピーできません。

複数のメディアに分割して記録されたクリップを 1 か所に集めると

XDCAM EX 機器では、4GB を超える映像ファイルを自動的に複数のクリップとして保存します。これらの分割されたクリップを 1 つのメディア / フォルダーに集めると、自動的に連結されて 1 つのクリップとして扱うことができます。

◆ 詳しくは、「複数のメディアに分割されたクリップを連結する」（76 ページ）をご覧ください。

選択したクリップをコピーするには

1 エクスプローラウィンドウのリスト表示部で、コピーしたいクリップをクリックして選択する。

ご注意

- 異常クリップを選択してもコピーできません。
- 同一フォルダーをコピー先に指定することはできません。

新規のフォルダーにコピーしたいときは

コピー先となるメディアやフォルダー内に新規フォルダーを作成しておきます。

◆ 操作については、「フォルダーを作成する」（86 ページ）をご覧ください。

2 次のいずれかの操作を行う。

- 手順 **1** で選択したクリップをドラッグし、別ウィンドウのリスト表示部または同一 / 別ウィンドウのツリー表示部にある、コピー先のメディア / フォルダーにドロップする。
- コピーボタンをクリックし、別ウィンドウのリスト表示部または同一 / 別ウィンドウのツリー表示部にある、コピー先のメディア / フォルダーをクリックしてから、そのウィンドウの貼り付けボタンをクリックする。
- ［編集］メニューで［コピー］を選択し、別ウィンドウのリスト表示部または同一 / 別ウィンドウのツリー表示部にある、コピー先のメディア / フォルダーをクリックしてから、［編集］メニューで［貼り付け］を選択する。

コピーを実行するかどうかを確認するメッセージが表示されます。

3 コピーを実行する場合は［はい］ボタンを、中止する場合は［いいえ］ボタンをクリックする。

コピーを開始すると、コピーの進捗状況を示すダイアログが開きます。

ご注意

いったんコピーが完了したら操作を取り消す（アンドゥを実行する）ことはできません。

コピーを中断するには

ダイアログ上の［中断］ボタンをクリックします。

コピーが実行できないときは

以下に示す状況では、コピーが実行されず、メッセージが表示されます。

- コピー先の容量が不足している。
- コピー先に同じクリップがすでに存在する。クリップ名が異なっていても、画像に付けられた ID（UMID）が同じであれば、同じクリップと認識されます。
- コピー先のメディア / フォルダーに対する削除や書き込みの権限がない。
- コピー先のメディア / フォルダーが書き込み禁止になっている。

EX フォーマットファイルを MXF 属性のコピー先にコピーすると

EX フォーマットファイル（MP4 ファイル）を XDCAM ドライブや MXF 属性フォルダーにコピーすると、自動的に XDCAM HD フォーマットファイル（MXF ファイル）に変換されます。エクスポート機能（78 ページ参照）よりも簡単な操作で、EX 素材が XDCAM HD 機器で利用できるようになります。
変換後のファイルの記録フォーマットは、コピー先に存在するファイルの記録フォーマットと同じになります。[1] ただし、ビットレートは、環境設定ダイアログの変換タブ（93 ページ参照）の［MP4 → MXF 変換コピー時の設定］の［ビットレート設定］の設定に従います。

1) コピー先にファイルが 1 つも存在しないときは、環境設定ダイアログの変換タブの［MP4 → MXF 変換コピー時の設定］の［フォーマット設定 : クリップなしフォルダの場合］の設定に従います。

補足

環境設定ダイアログの編集タブ（92 ページ参照）で［EX →ノーマルフォルダへのコピー時、MXF に変換してコピーする］チェックボックスをオンにしておくと、コピー先がノーマルフォルダーであっても MXF ファイルに変換されます。コピー先に XDCAM HD 機器用クリップの管理

フォルダー（91 ページ参照）が自動的に作成されるため、本ソフトウェアで変換したファイルを参照できます。（エクスポート機能を使用してノーマルフォルダーに出力した場合は、本ソフトウェアで参照することはできません。）

ご注意

- EX フォーマットファイル（DV-AVI ファイル）を XDCAM HD フォーマットファイルに変換することはできません。
- XDCAM HD フォーマットファイルから EX フォーマットファイルに変換することはできません。
- 変換前ファイルの記録フォーマットと変換後ファイルの記録フォーマットの組み合わせによっては、変換できないことがあります。
- MainConcept 社が提供するプラグインソフトウェア（有償）がインストールされていないと、変換後の映像に MainConcept 社のロゴの透かしが入ります。また、音声は 30 秒間のみ保存され、それ以降は無音になります。
- 変換によって画質が劣化することがあります。
- フォーマット変換処理を伴うため、通常のコピーよりも時間がかかります。
- EX フォーマットファイル（MP4 ファイル）から XDCAM HD フォーマットファイルへの変換処理で作成される MXF ファイルは、MPEG HD ファイルのみです。プロキシファイルは作成されません。

メディアやフォルダー内のクリップを一括してコピーするには

メディアやフォルダー内のクリップすべてを簡単な操作でコピーすることができます。SxS メモリーカードの内容をコンピューターのハードディスクに取り込むときに便利な機能です。

1 エクスプローラウィンドウのツリー表示部で、クリップが保存されているメディアまたはフォルダーを選択する。

2 次のいずれかの操作を行う。

- すべてコピーボタンをクリックする。
- ［編集］メニューで［すべてコピー］を選択する。

コピーを実行するかどうかを確認するメッセージが表示されます。コピー先のフォルダーを確認してください。

◆ コピー先のフォルダーは変更することができます。詳しくは、「環境設定」（91 ページ）をご覧ください。

3 コピーを実行する場合は［はい］ボタンを、中止する場合は［いいえ］ボタンをクリックする。

コピーを開始すると、コピーの進捗状況を示すダイアログが開きます。

コピーを中断するには

ダイアログ上の［中断］ボタンをクリックします。

コピーが実行できないときは

以下に示す状況では、コピーが実行されず、メッセージが表示されます。

- コピー先の容量が不足している。
- コピー先に同じクリップがすでに存在する。クリップ名が異なっていても、画像に付けられた ID（UMID）が同じであれば、同じクリップと認識されます。
- コピー先のメディア / フォルダーに対する削除や書き込みの権限がない。
- コピー先のメディア / フォルダーが書き込み禁止になっている。

コピーのチェック機能について

コピーしたファイルに対して CRC（巡回冗長検査）方式による誤り検出を実行する機能を有効にすれば、コピーの信頼性を向上させることができます。ただし、コピーの実行速度は低下します。

◆ 設定について詳しくは、「環境設定」（91 ページ）をご覧ください。

クリップを移動する

メディア内またはコンピューター上でクリップを移動したり、メディアとコンピューター間でクリップを移動することができます。

ご注意

- XDCAM EX フォーマット以外のクリップ（XDCAM HD クリップなど）は操作できません。XDCAM EX クリップのみが操作対象です。
- 本ソフトウェアでは、OK マーク付きクリップも移動することができます。

複数のメディアに分割して記録されたクリップを 1 か所に集めると

XDCAM EX 機器では、4GB を超える映像ファイルを自動的に複数のクリップとして保存します。これらの分割されたクリップを 1 つのメディア / フォルダーに集めると、自動的に連結されて 1 つのクリップとして扱うことができます。

◆ 詳しくは、「複数のメディアに分割されたクリップを連結する」（76 ページ）をご覧ください。

移動モードについて

クリップを移動するとき、処理速度とデータ保護のどちらを優先するかを指定することができます。

- 処理速度優先：クリップを複製しない、通常の移動方法
- データ保護優先：クリップを複製してから複製元のクリップを削除する移動方法

◆ 設定について詳しくは、「環境設定」（91 ページ）をご覧ください。

1 エクスプローラウィンドウのリスト表示部で、移動したいクリップをクリックして選択する。

ご注意

- 異常クリップを選択しても移動できません。
- 同一フォルダーを移動先に指定することはできません。

新規のフォルダーに移動したいときは

移動先となるメディアや移動先のフォルダー内に新規フォルダーを作成しておきます。

◆ 操作については、「フォルダーを作成する」（86 ページ）をご覧ください。

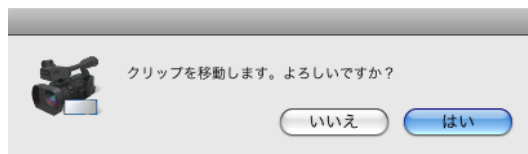
2 次のいずれかの操作を行う。

- 手順 **1** で選択したクリップをドラッグし、別ウィンドウのリスト表示部または同一 / 別ウィンドウのツリー表示部にある、移動先のメディア / フォルダーに、コマンドキーを押したままドロップする。
- 切り取りボタンをクリックし、別ウィンドウのリスト表示部または同一 / 別ウィンドウのツリー表示部にある、移動先のメディア / フォルダーをクリックしてから、そのウィンドウの貼り付けボタンをクリックする。
- ［編集］メニューで［切り取り］を選択し、別ウィンドウのリスト表示部または同一 / 別ウィンドウのツリー表示部にある、移動先のメディア / フォルダーをクリックしてから、［編集］メニューで［貼り付け］を選択する。

移動を実行するかどうかを確認するメッセージが表示されます。

3 移動を実行する場合は［はい］ボタンを、中止する場合は［いいえ］ボタンをクリックする。

移動を開始すると、移動の進捗状況を示すダイアログが開きます。

ご注意

- いったん移動が完了したら操作を取り消す（アンドゥを実行する）ことはできません。
- 移動中に本ソフトウェアを終了しないようにしてください。本ソフトウェアが終了すると、クリップと付加情報（メタデータ）との関連性が失われる可能性があります。また、分割クリップの連結情報が失われて、移動後のクリップが異常クリップになる可能性があります。重要なクリップの場合は、データ保護優先モード（75 ページ参照）で移動することをおすすめします。

移動を中断するには

ダイアログ上の［中断］ボタンをクリックします。

移動が実行できないときは

以下に示す状況では、移動が実行されず、メッセージが表示されます。

- 移動先の容量が不足している。
- 移動先に同じクリップがすでに存在する。クリップ名が異なっていても、画像に付けられた ID（UMID）が同じであれば、同じクリップと認識されます。
- 移動するクリップが保存されているメディア / フォルダーまたは移動先のメディア / フォルダーに対する削除や書き込みの権限がない。
- 移動するクリップが保存されているメディア / フォルダーまたは移動先のメディア / フォルダーが書き込み禁止になっている。

クリップを削除する

ご注意

- 本ソフトウェアでは、OK マーク付きクリップも削除することができます。
- 編集リストにリンクしているクリップを削除すると、そのクリップにリンクしているすべての編集リストが削除されます。

1 エクスプローラウィンドウのリスト表示部で、削除したいクリップをクリックして選択する。

2 次のいずれかの操作を行う。

- コマンド + delete キーを押す。
- 削除ボタンをクリックする。
- ［編集］メニューで［削除］を選択する。

削除を実行するかどうかを確認するメッセージが表示されます。

3 削除を実行する場合は［はい］ボタンを、中止する場合は［いいえ］ボタンをクリックする。

ご注意

いったん削除が完了したら操作を取り消す（アンドゥを実行する）ことはできません。

削除が実行できないときは

以下に示す状況では、削除が実行されず、メッセージが表示されます。

- 削除するクリップが保存されているメディア / フォルダーに対する削除や書き込みの権限がない。
- 削除するクリップが保存されているメディア / フォルダーが書き込み禁止になっている。

複数のメディアに分割されたクリップを連結する

長時間にわたる撮影 / 記録のために複数のメディアに分割して記録されたクリップを、コピー、移動、またはフォルダー結合によって仮想的に連結することができます。連結したクリップは、1 つのクリップとして利用できます。

◆ それぞれの操作について詳しくは、「クリップをコピーする」（72 ページ）、「クリップを移動する」（74 ページ）、「フォルダーを結合する」（88 ページ）をご覧ください。

ご注意

- XDCAM EX フォーマット以外のクリップ（XDCAM HD クリップなど）は操作できません。XDCAM EX クリップのみが操作対象です。
- 時間軸上で連続していない分割クリップは連結されません。
- 異常クリップは連結されません。
- UMID が書き変えられているクリップは連結されません。連結の関連付けはファイル名ではなく UMID を参照して行われます。

範囲を指定して新規クリップを作成する

クリップにイン点とアウト点を設定して、新しいクリップを作成します。この方法で作成したクリップは元のクリップと同様に扱うことができるため、オンライン編集における素材の準備を効率よく行うことができます。

ご注意

MP4 フォーマット以外のクリップ（DV-AVI クリップや XDCAM HD クリップなど）は操作できません。MP4 クリップのみが操作対象です。

1 プレビューウィンドウでクリップをプレビューし（80 ページ参照）、先頭フレームにしたい位置でマークインボタンを、最終フレームにしたい位置でマークアウトボタンをクリックする。

クリップにイン点とアウト点が設定されます。

補足

イン点とデュレーションから、アウト点を決めることもできます。
デュレーションを設定するには、デュレーションのタイムコード表示をクリックして数値を入力し、return キーを押します。

ご注意

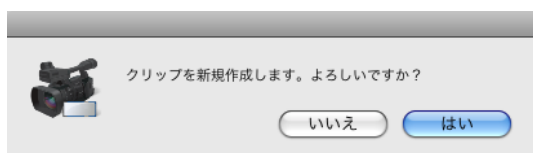
イン点とアウト点を同一フレームに設定することはできません。イン点（またはアウト点）の位置にアウト点（またはイン点）を設定しようとすると、自動的にアウト点がイン点の 1 フレーム後ろに設定されます。

2 手順 **1** で指定した範囲を再生し、必要に応じてイン点とアウト点の位置を変更する。

3 イン点 / アウト点を設定したクリップを、エクスプローラウィンドウのリスト表示部でクリックして選択する。

バッチ処理を行うには

一度の操作で、複数のクリップを連続して作成することができます。
同じメディア / フォルダー内に保存されている別のクリップに対して手順 **1** と **2** を行い、ここでそれらのクリップを選択します。

4 ［ファイル］メニューで［イン / アウト点間での新規クリップ作成］を選択する。

クリップの作成を実行するかどうかを確認するメッセージが表示されます。

イン点とアウト点が設定されていないときは

次の確認メッセージが表示され、そのまま実行すると、コピー操作と同じ結果になります。

5 クリップの作成を実行する場合は［はい］ボタンを、中止する場合は［いいえ］ボタンをクリックする。

クリップの作成を開始すると、クリップ作成の進捗状況を示すダイアログが開きます。

クリップの作成を中断するには

ダイアログ上の［中断］ボタンをクリックします。

クリップの作成が実行できないときは

以下に示す状況では、クリップの作成が実行されず、メッセージが表示されます。
- クリップの保存先の容量が不足している。
- クリップの保存先のメディア / フォルダーに対する削除や書き込みの権限がない。

クリップをインポートする

XDCAM EX フォーマット互換の MP4 または DV-AVI ファイルをインポートして、XDCAM EX 機器で取り扱うことのできるクリップとして登録することができます。

ご注意

XDCAM EX フォーマット以外のクリップ（XDCAM HD クリップなど）は操作できません。XDCAM EX クリップのみが操作対象です。

1 エクスプローラウィンドウのツリー表示部で、インポートする MP4 または DV-AVI ファイルの保存先となるメディアまたはフォルダーを選択する。

2 次のいずれかの操作を行う。

- ［ファイル］メニューで［インポート ...］を選択する。
- control キーを押したままメディアまたはフォルダーをクリックして表示されるコンテキストメニューから［インポート ...］を選択する。

インポートダイアログが開きます。

3 ［ファイルの種類］リストでファイルフォーマットを選択し、ファイル一覧でインポートする MP4 または DV-AVI ファイルを指定する。

4 インポートを実行する場合は［インポート開始］ボタンを、中止する場合は［キャンセル］ボタンをクリックする。

インポートを開始すると、インポートの進捗状況を示すダイアログが開きます。

インポートを中断するには

ダイアログ上の［中断］ボタンをクリックします。

インポートが実行できないときは

以下に示す状況では、インポートが実行されず、メッセージが表示されます。

- インポート先のメディア/フォルダーに対する削除や書き込みの権限がない。
- インポート先のメディア/フォルダーが書き込み禁止になっている。

ご注意

- 本ソフトウェアがチェックして XDCAM EX フォーマットと互換性が取れないと判断したファイルは、インポートできません。
- インポートされたクリップのプロパティーは自動で設定されます。
- XDCAM EX フォーマットとの互換性が取れないため、XDCAM EX 機器や本ソフトウェアで再生できないこともあります。
- DV-AVI ファイルのインポートでは、ファイル名を XDCAM EX 機器が認識できる名前に変更する場合があります。

クリップをエクスポートする

XDCAM EX 機器で作成されたクリップをエクスポート（フォーマット変換して出力）することによって、さまざまな環境での素材の利用が可能になります。

◆ 今後、バージョンアップによって、対応するビデオフォーマットを増やす予定です。バージョンアップに関する情報は、XDCAM EX 機器の取扱説明書の「特長」および付属の CD-ROM の表紙ページに記載されている URL にアクセスしてご確認ください。

ご注意

- XDCAM EX フォーマット以外のクリップ（XDCAM HD クリップなど）は操作できません。XDCAM EX クリップのみが操作対象です。
- DV-AVI ファイルは「NLE への MXF 変換」のみに対応しています。

1 エクスプローラウィンドウのリスト表示部で、エクスポートしたいクリップをクリックして選択する。

2 次のいずれかの操作を行う。

- ［ファイル］メニューで［エクスポート］、目的の変換方法を順に選択する。
- control キーを押したままクリップをクリックして表示されるコンテキストメニューから［エクスポート］、目的の変換方法を順に選択する。

◆ 各変換方法について詳しくは、「変換方法の詳細」（79 ページ）をご覧ください。

変換方法に応じたエクスポートダイアログが開きます。（次図は［XDCAM HD422 への MXF 変換］を選択したときに開くダイアログです。）

3 必要に応じて次の設定を変更する。

出力先：エクスポート先のフォルダーを指定します。エディットボックスにドライブ名から始まるパス名を入力するか、［...］ボタンをクリックして開くダイアログでフォルダーを選択し、［OK］ボタンをクリックします。

ご注意

エクスポート先のメディアの空き容量が充分にあることを確認してからエクスポートを実行してください。空き容量が不足した時点でエラーになります。

タイプ：［詳細設定 ...］ボタンをクリックして開く詳細設定ダイアログで各種パラメーターを変更し、［OK］ボタンをクリックします。この項目は、変換方法によっては表示されません。

クリップのオーディオチャンネル数によって、［オーディオ］セクションの［チャンネル］リストの設定値とオーディオ出力は次表のように対応します。

クリップのオーディオチャンネル数	［チャンネル］リストの設定値	オーディオ出力
2	1CH	チャンネル 1 と 2 の信号のミックス
4	1CH	チャンネル 1 ～ 4 の信号のミックス
	2CH	**チャンネル 1：**チャンネル 1 と 3 の信号のミックス **チャンネル 2：**チャンネル 2 と 4 の信号のミックス

エクスポートの範囲：現在クリップに設定されているイン点 / アウト点間を変換出力したいときは、［イン / アウト点間］を選択します。この項目は、変換方法によっては表示されません。

出力ファイル名を変更するには

クリップ一覧でクリップを選択して次のいずれかの操作を行うと、ファイル名が編集可能な状態になります。

- ファイル名をクリックする。
- control キーを押したまま反転表示部分をクリックして表示されるコンテキストメニューから［出力ファイル名の変更］を選択する。

希望のファイル名を入力し、return キーを押すか名前以外の場所をクリックします。拡張子の入力は不要です。

4 ［実行］ボタンをクリックして、エクスポートを開始する。

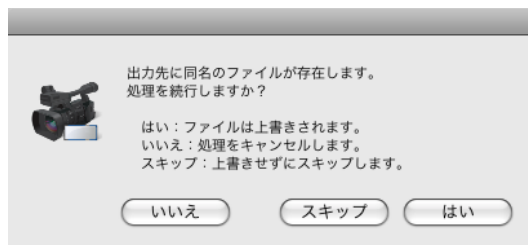
エクスポートの進捗状況がプログレスバーで表示され、処理状況がリスト表示部の［ステータス］カラムに表示されます。

エクスポートを中断するには

［停止］ボタンをクリックします。

出力先に同名のファイルが存在するときは

処理を選択するダイアログが開きます。
ダイアログの説明に従って、いずれかのボタンをクリックします。

ご注意

- 変換対象のフォーマットによっては、MainConcept 社が提供するプラグインソフトウェア（有償）がインストールされている必要があります（102 ページ参照）。インストールされていないと、エクスポート後の映像に MainConcept 社のロゴの透かしが入ります。また、音声は 30 秒間のみ保存され、それ以降は無音になります。
- 指定するパラメーターによっては、画像補正処理などの影響により、変換後の画質が劣化することがあります。
- 変換後のフォーマットは、ネイティブファイルのフォーマットと完全に同一にならないことがあります。
- 映像の付加情報が、変換時に引き継がれないことがあります。
- 再エンコードが必要な変換では、画質が劣化することがあります。
- ビットレート、解像度、またはフレームレートの変更を伴う変換では、画質が劣化したり、デュレーションが変わることがあります。
- エクスポート先のメディアまたはフォルダーは、ファイルの書き込みが可能な状態にしておいてください。

変換方法の詳細

ファイルの変換方法は、次表に示す項目から選択することができます。

［エクスポート］のサブコマンド	変換後の拡張子	内容
NLE への MXF 変換 a)	mxf	ビットレートや解像度などのパラメーターを変更することなく、MXF ファイルに変換します。MXF ファイルのみをサポートしている編集機向けです。
XDCAM HD への MXF 変換 b)、c)	mxf	XDCAM HD 機器で記録する MXF フォーマットと互換性のあるファイルに変換します。
XDCAM HD422 への MXF 変換 b)	mxf	XDCAM HD422 機器で記録する MXF フォーマットと互換性のあるファイルに変換します。
XDCAM MPEG IMX への MXF 変換 d)	mxf	XDCAM MPEG IMX 機器で記録する MXF フォーマットと互換性のあるファイルに変換します。
XDCAM DVCAM への MXF 変換 d)	mxf	XDCAM DVCAM 機器で記録する MXF フォーマットと互換性のあるファイルに変換します。

［エクスポート］のサブコマンド	変換後の拡張子	内容
RAW DV 変換	dv	RAW DV フォーマットに変換します。DV フォーマットでの編集用途で使用します。編集環境に応じて［AVI DV 変換］と使い分けます。
AVI DV 変換	avi	AVI Type2 フォーマットに変換します。DV フォーマットでの編集用途で使用します。編集環境に応じて［RAW DV 変換］と使い分けます。
Avid AAF 変換 [e)]	AAF/mxf	次の 2 つのファイルに変換します。 **AAF ファイル：**Avid 社の編集機でクリップを読み込むときに使用します。拡張子は「AAF」、出力先はエクスポートダイアログで指定したメディアまたはフォルダーです（78 ページ参照）。変換後の AAF ファイルを Finder からドラッグして Avid 社の編集機のビン内にドロップすると、プロジェクトに登録されます。 **MXF OPAtom ファイル：**拡張子は「mxf」、出力先は環境設定ダイアログの変換タブで指定したメディアまたはフォルダーです（93 ページ参照）。通常は Avid 社の編集機で設定するメディアの保存フォルダーを指定しておきます。 ◆詳しくは、編集機の取扱説明書をご覧ください。
Windows Media File 変換	wmv	Windows Media Player 9 互換のフォーマットに変換します。
PSP 用変換 [f)]	mp4	ソニー・コンピュータエンタテインメントの携帯ゲーム機プレイステーション・ポータブル（PSP）でクリップをプレビューするときに使用します。
iPod 用変換 [f)]	mp4	Apple Inc. の携帯メディアプレーヤー iPod でクリップをプレビューするときに使用します。
動画配信サイト用変換	wmv	インターネットの動画配信サイト向けに最適化したファイルに変換します。

a) イン点 / アウト点間を指定してエクスポートする場合、変換後のデュレーションが指定した範囲よりも長くなることがあります。
b) 2 秒以下のクリップを MXF ファイルに変換しても、エクスポート先の機器に書き込むことはできません。
c) フレームレートが 23.98p のクリップは、23.98p のフレームレートにのみ変換できます。
d) 本ソフトウェアは、XDCAM MPEG IMX、XDCAM DVCAM フォーマットクリップのコピー、削除、およびプロパティー表示に対応しています。プレビューなどの操作には対応していません。サムネイル表示は×印付きの黒画になります。
e) すでにエクスポートされているクリップと同一のクリップをエクスポートしても、Avid 社の編集機に受け付けられないことがあります。
f) 指定した機器以外のビューアーで再生すると、正しく再生できないことがあります。

クリップの内容をプレビューする

プレビューウィンドウのスクリーンでクリップの内容をプレビューすることができます。

◆ プレビューウィンドウにはいくつかの制約事項があります。詳しくは、「プレビューウィンドウについてのご注意」（67 ページ）をご覧ください。

プレビューウィンドウにクリップをロードするには

エクスプローラウィンドウのリスト表示部にプレビューしたいクリップを表示し、次のいずれかを実行します。

- クリップをダブルクリックする。
- クリップをクリックして return キーを押す。
- クリップをドラッグし、プレビューウィンドウ内にドロップする（複数のクリップを選択した場合は実行できない）。
- control キーを押したままクリップをクリックして表示されるコンテキストメニューから［再生］を選択する。
- クリップをクリックしてスペースキーを押す。

プレビューウィンドウにクリップがロードされます（第 4 項または第 5 項を実行した場合は、クリップのロード後に再生が始まります）。スクリーンの上部に、クリップの現在位置のタイムコード（またはカウンター値）と、クリップに設定されているイン点 / アウト点間のデュレーション（DURATION）が表示されます。

再生を停止するには

再生ボタンをクリックします。

ご注意

DVD-R や CD-R に保存されているクリップをプレビューすると、滑らかに再生されません。

プレビューの操作をするには

次のいずれかの方法により、プレビューウィンドウ上に表示されたクリップに対して再生などの操作を行うことができます。

- プレビューウィンドウ上のコマンドボタン（69 ページ参照）をクリックする。
- ［プレビュー］メニューで実行したい操作項目を選択する。
- プレイラインをドラッグする。

- J、K、L キーを押す。
  J：逆方向再生の再生速度を変更する。押すごとに－1、－2、－4、－8、－16 倍速に変わる。
  K：再生を停止する。
  L：順方向再生の再生速度を変更する。押すごとに 1、2、4、8、16 倍速に変わる。

ご注意

± 4 倍速以上の再生では、音声は出力されません。

スクリーンを全画面表示にするには

スクリーンをダブルクリックするか、または［表示］メニューで［全画面］を選択すると、フルスクリーン表示になります。
元の表示に戻すには、スクリーンをダブルクリックするか、または Esc キーを押します。

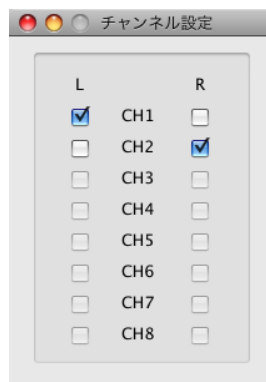
MXF フォーマットクリップの再生モードを変更するには

環境設定ダイアログの再生タブ（93 ページ参照）で「MPEG HD（高解像度）」または「Proxy（低解像度）」を選択します。
「MPEG HD」に設定しておくと、スクリーンを拡大表示したときに高精細な画像でプレビューすることができます。

ご注意

- クリップの再生中に再生モードを変更することはできません。
- プロキシ AV データを持たないクリップは、この設定にかかわらず、高解像度で再生されます。
- XDCAM ドライブ上のクリップは、この設定にかかわらず、低解像度で再生されます。
- 高解像度データはファイルサイズが大きいため、滑らかに再生されないことがあります。

プレビュー時のオーディオチャンネルを選択するには

チャンネル設定ダイアログで、出力したいチャンネルの L（左チャンネル）または R（右チャンネル）のチェックボックスをオンにします。
チャンネル設定ダイアログを開くには、次のいずれかを実行します。
- ［プレビュー］メニューで［オーディオチャンネルの設定...］を選択する。
- オーディオチャンネルの設定ボタンをクリックする。

クリップの代表画を変更する

クリップのプレビュー中に、クリップの代表画を変更することができます。

ご注意

DV-AVI クリップの代表画を変更することはできません。

1 クリップを再生して、代表画に設定したいフレームを表示する。

2 ［プレビュー］メニューで［編集］、［代表画の設定］を順に選択するか、代表画の設定ボタンをクリックする。

現在表示しているフレームが代表画になり、クリッププロパティー部の General タブの Index Picture に変更が反映されます。

ご注意

- メディアに保存されたクリップをプレビューしている場合は、操作中にメディアを取り出さないでください。
- 操作中に電源が切れないよう注意してください。
- 代表画を変更したクリップを XDCAM EX 機器で使用すると、指定した代表画の近傍フレームが代表画になることがあります。

静止画を作成する

ご注意

XDCAM ディスク上のクリップから静止画を作成することはできません。

1 プレビューウィンドウでクリップを再生し、静止画にしたい位置で停止する。

2 次のいずれかの操作を行う。

- 静止画を作成ボタンをクリックする。
- ［ファイル］メニューで［静止画を作成 ...］を選択する。

静止画の保存ダイアログが開きます。

画像がぶれているときは

作成元クリップがインターレースビデオ（フレーム周波数が 59.94i、50i など）の場合、補間フィールドの設定を変更すると画像のぶれが軽減することがあります。

- 1st：第 1 フィールドで第 2 フィールドを補間
- 2nd：第 2 フィールドで第 1 フィールドを補間
- フレーム：第 1 フィールドと第 2 フィールドの合成

ご注意

作成元クリップがプログレッシブビデオ（フレーム周波数が 59.94p、50p など）の場合、補間フィールドは「フレーム」に固定されます。

3 ファイル名と保存先を指定して、［OK］ボタンをクリックする。

手順 **2** を実行した時点のフレームが、静止画としてビットマップ形式で作成されます。

クリップを検索する

検索するクリップの所在がわかっているかどうかによって、次のいずれかの方法でクリップを検索することができます。

フォルダー指定検索：クリップの所在がわかっているとき、特定のフォルダーの中から、クリップのプロパティー（属性）を検索条件としてクリップを絞り込みます。

フリーワード検索：クリップの所在がわからないとき、本ソフトウェアがインストールされているコンピューターの中から、キーワードに基づいてクリップを絞り込みます。

ご注意

検索実行中は、必ず次の事項をお守りください。

- 対象となるフォルダーを削除しないでください。
- 対象となるメディアを取り出したり、抜いたりしないでください。

1 エクスプローラウィンドウがアクティブな状態で、次のいずれかの操作を行う。

- 検索ボタンをクリックする。
- ［編集］メニューで［検索］、［検索 ...］を順に選択する。

検索ダイアログが開きます。

2 検索条件を指定する。

フォルダ指定検索タブ

検索対象を変更するには：［...］ボタンをクリックして開くフォルダの参照ダイアログでフォルダーを選択し、［OK］ボタンをクリックします。

検索条件を指定するには：最低 1 つの項目を［項目］リストから選択し、項目に応じて表示されるエディットボックスに条件を入力するか、またはリストから条件を選択します。

検索の種類を指定するには：［すべてのキーワードを含める］（AND 検索）、［いずれかのキーワードを含める］（OR 検索）、［キーワードを含めない］（NOT 検索）のいずれかをクリックします。

検索オプションを設定するには：必要に応じて［大文字と小文字を区別する］、［絞込み検索］（検索結果を対象として、さらに条件を絞り込んで検索する）をオンにします。

ご注意

［項目］リストで［クリップ名］を選択すると、環境設定ダイアログの表示タブの［クリップ名］に設定された条件で検索が行われます。

フリー検索タブ

ご注意

- フリーワード検索は Mac OS 標準の Spotlight（スポットライト）を使用しています。Spotlight はコンピューターが使用されていない間にインデックスを作成し、インデックスを利用して検索を実行します。したがって、インデックスが作成されていないクリップは、ハードディスク上に存在していても検索されません。
- XDCAM HD 機器のドライブ内は検索の対象外です。

検索条件を指定するには：［キーワード］ボックスに条件を入力します。複数の条件を入力することができ、AND 検索（部分一致検索）を実行します。大文字と小文字は区別されません。

3 ［開始］ボタンをクリックする。

手順 **2** で指定した条件に該当するクリップが、検索ダイアログ内に一覧表示されます。

検索条件を隠すには（フォルダー指定検索時）

［－］ボタンをクリックします。
非表示のときに［+］ボタンをクリックすると、再び表示されます。

検索結果を並べ替えるには

並べ替えのキーにしたい項目のヘッダーカラムをクリックします。
クリックするごとに昇順整列と降順整列が切り替わります。

検索結果をエクスプローラウィンドウで表示するには

検索結果を 1 つだけ選択して、次のいずれかを実行します。

- ［編集］メニューで［検索］、［エクスプローラで表示］を順に選択する。
- control キーを押したまま検索結果をクリックして表示されるコンテキストメニューから［エクスプローラで表示］を選択する。

検索結果を再生するには

検索結果を 1 つだけ選択して、次のいずれかを実行します。

- ［プレビュー］メニューで［再生］を選択する。
- control キーを押したまま検索結果をクリックして表示されるコンテキストメニューから［再生］を選択する。

フラッシュバンドを補正する

「フラッシュバンド」とは、フラッシュのような短時間光を浴びた被写体を CMOS センサー方式のカメラ / カムコーダーで撮影したときに、画面全体ではなく、画面の上下いずれかに発生する明るい部分のことです。または、画面の上下が明部と暗部に分割される現象を「フラッシュバンド」と呼びます。

本ソフトウェアでは、フラッシュバンドが発生したフレームを含むクリップの複製を作成し、複製したクリップに対して補正処理を行います。複数のクリップに対して操作が可能です。

ご注意

- MXF クリップは操作できません。
- 以下のクリップは、フラッシュバンドの検出および補正を行うことはできません。
  - インポート素材やライン入力信号を記録した素材など
  - 23.98p で撮影され、59.94i に 2-3 プルダウン変換されたクリップ
  - 書き込み禁止クリップ、または書き込み禁止メディア上のクリップ
  - XDCAM ディスクの UserData フォルダー内のクリップ

フラッシュバンドを自動検出するには

1 エクスプローラウィンドウのリスト表示部でフラッシュバンドを検出したいクリップを選択する。

2 ［クリップ］メニューまたはコンテキストメニューで［フラッシュバンド］、［検出］、［イン / アウト間］または［全範囲］を順に選択する。

フラッシュバンドの検出が始まり、プログレスバーで処理の進捗状況が表示されます。処理が完了すると、メッセージが表示されます。

ご注意

- DV-AVIクリップはイン点およびアウト点の編集に対応していないため、範囲の指定にかかわらず、全範囲が検出対象になります。
- 本機能は、すべてのフラッシュバンドの検出を保証するものではありません。たとえば、次のような場合、フラッシュバンドを検出することはできません。
  - 先頭フレーム近傍および最終フレーム近傍
  - フラッシュバンドが連続する区間
  - 電子シャッターを有効にして撮影されたシーン
  - 隣接するフレーム間でシーンが急激に変化する場合
  - フラッシュによる白飛びの面積が小さい場合
  - ソフトウェアの機能上、フラッシュバンドであるかどうかの判断が難しい場合

検出されたフラッシュバンドを確認・編集するには

1 フラッシュバンドを確認したいクリップをプレビューウィンドウにロードする（80 ページ参照）。

2 プレビューウィンドウのクリッププロパティー部にFlash Band タブが表示されることを確認し、Flash Band タブをクリックする。

3 ［読込み］ボタンをクリックする。

フラッシュバンドが検出されたフレームのタイムコードがリスト表示されます。

4 Flash Band タブのリストでタイムコードを選択し、スクリーンに表示される画面を確認する。

補正後の画像を確認するには

［プレビュー］チェックボックスをオンにして、確認したいフレームのタイムコードを選択します。

補正する必要がないと判断したときは

当該フレームが選択された状態で［削除］ボタンをクリックするか、または当該フレームのコンテキストメニューから［削除］を選択します。
リストおよびポジションバーから当該フレームの情報が削除されます。

自動検出されなかったフレームを補正対象にするには

補正対象にしたいフレームをスクリーンに表示させ、［追加］ボタンをクリックします。
リストおよびポジションバーに当該フレームの情報が追加されます。リストの検出欄には「手動」と表示されます。

ご注意

フラッシュバンドが生じていないフレームを補正すると、画質が劣化することがあります。

補正開始フィールドを変更するには

補正対象のクリップがインターレースビデオの場合、当該フレームのコンテキストメニューから［フィールド］、［1st］または［2nd］を順に選択します。
補正開始フィールドを変更すると、フレームの検出方法にかかわらず、リストの検出欄には「手動」と表示されます。

5 手順 **4** で何らかの変更を行った場合は、［保存］ボタンをクリックする。

ご注意

この操作を行わずにフラッシュバンド補正を実行すると、変更は反映されません。

フラッシュバンドを補正するには

前項の操作に引き続きフラッシュバンドを補正するには、次のように操作します。

1 エクスプローラウィンドウのリスト表示部で当該クリップを選択する。

2 ［クリップ］メニューまたはコンテキストメニューで［フラッシュバンド］、［補正］、［イン / アウト間］または［全範囲］を順に選択する。

選択されたクリップが複製され、複製されたクリップに対してフラッシュバンドの補正が始まります。プログレスバーで処理の進捗状況が表示され、すべての処理が完了するとメッセージが表示されます。

ご注意

- DV-AVI クリップはイン点およびアウト点の編集に対応していないため、範囲の指定にかかわらず、全範囲が補正対象になります。
- 複製元のクリップに対しては、補正処理は実行されません。
- 先頭フレームおよび最終フレームに対しては、フラッシュバンドを補正することはできません。
- フラッシュの発光特性によっては、補正後に白い帯が残ることがあります。

フラッシュバンドの自動検出と補正を連続して実行するには

「フラッシュバンドを自動検出するには」（84 ページ）の手順 **2** で、［検出］コマンドの代わりに［検出と補正］コマンドを選択します。
自動検出完了後、自動的に補正処理に移行します。

フラッシュバンド補正したクリップを確認するには

1 エクスプローラウィンドウのツリー表示部で、補正クリップの保存先となるメディアまたはフォルダーを選択する。

◆ 補正クリップの保存先は、環境設定ダイアログのフラッシュバンドタブで指定することができます。詳しくは、94 ページをご覧ください。

2 フラッシュバンド補正したクリップをプレビューウィンドウにロードする（80 ページ参照）。

3 プレビューウィンドウで Flash Band タブをクリックする。

4 ［読み込み］ボタンをクリックする。

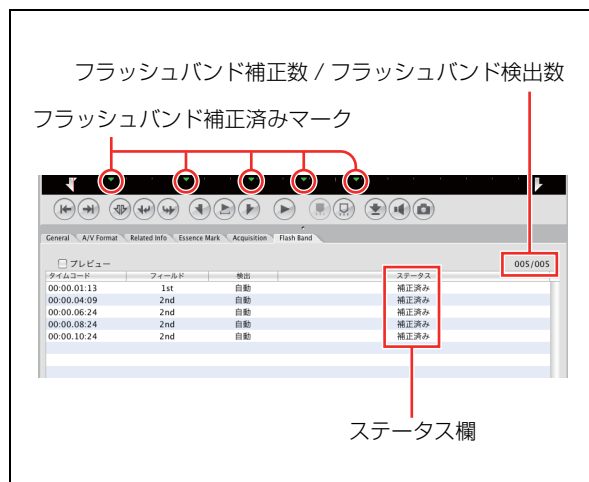
補正対象のフレームのタイムコードがリスト表示されます。
ポジションバー上のマークが濃い緑色（フラッシュバンド補正済み）に変わっていること、ステータス欄に「補正済み」と表示されていることを確認します。

5 タイムコードを選択し、スクリーンに表示される画面を確認する。

フォルダー / メディアの操作

フォルダー / メディア操作に関するご注意

処理の実行中は、必ず次の事項をお守りください。
- コンピューターおよびメディアドライブの電源を切らないでください。
- 対象となるメディアを取り出したり、抜いたりしないでください。

Mac OS 編

EX フォーマットクリップのフォルダーについて

EX フォーマットクリップが保存されているフォルダーには、BPAV フォルダー（90 ページ参照）が存在します。
（エクスプローラウィンドウには表示されませんが、Finder で見ることができます。）
本ソフトウェアでは、クリップをコピーしたり、移動するときは、BPAV フォルダーも一緒にコピーまたは移動します。BPAV フォルダーと切り離してクリップだけを操作することはできません。

ご注意

ネットワーク機能を使用して、複数のコンピューターから同時に同じフォルダーを操作すると、ファイルがアクセス不能になることがあります。

MXF フォーマットクリップのフォルダーについて

MXF フォーマットクリップの管理フォルダーは、Clip、Edit、および Sub のサブフォルダーで構成されている必要があります（90 ページ参照）。さらに、Clip フォルダー内に保存できるクリップのフォーマットには次の制約があります。
- フレームレート（NTSC/PAL/24p）が同じであること
- コーデック（MPEG IMX/DVCAM/HD4:2:0/HD4:2:2）が同じであること
- 解像度の幅が同じであること（解像度の高さは問わない）
- MPEG IMX の場合、ビットレートが同じであること

これらの条件は、フォルダー内に最初に存在するクリップのフォーマットで決まります。また、MXF クリップをコピーする場合は、コピー元のクリップとコピー先に存在するクリップがこれらの条件を満たしている必要があります。

フォルダーを作成する

1 エクスプローラウィンドウのツリー表示部で、フォルダーを作成したいメディアまたはフォルダーを選択する。

2 次のいずれかの操作を行う。

- フォルダの新規作成ボタンをクリックする。
- ［ファイル］メニューで［フォルダ］、［新規作成］を順に選択する。
- control キーを押したままメディアまたはフォルダーをクリックして表示されるコンテキストメニューから［フォルダの新規作成］を選択する。

手順 **1** で選択したメディアまたはフォルダー内に、新規フォルダーが作成されます。

フォルダーが作成できないときは

以下に示す状況では、フォルダーは作成されず、メッセージが表示されます。
- 手順 **1** で選択したメディア / フォルダーに対する書き込みの権限がない。
- 手順 **1** で選択したメディア / フォルダーが書き込み禁止になっている。

ご注意

- コンピューターのファイルシステム上、書き込みができないファイルシステムでは、フォルダーを作成することはできません。
- フォルダーの作成直後は通常のフォルダーと同じですが、クリップのコピーや移動などを 1 度でも行うと、自動的に XDCAM EX 機器用または XDCAM HD 機器用のワークフォルダーにフォーマットされます。（必要なフォルダーやメタデータファイルが自動的に作成されます。）

フォルダー名を変更するには

1 作成したフォルダーを選択し、次のいずれかの操作を行う。

- ［ファイル］メニューで［フォルダ］、［名前の変更］を順に選択する。
- control キーを押したままフォルダーをクリックして表示されるコンテキストメニューから［フォルダ］、［名前の変更］を順に選択する。

フォルダー名が編集可能な状態になります。

2 希望のフォルダー名を入力し、return キーを押すか名前以外の場所をクリックする。

ご注意

- 「BPAV」という名前を指定することはできません。
- OS で使用が禁止されている文字は使用できません。
- フォルダー名がフルパスで 200 文字以上ある場合、クリップを認識できないことがあります。

フォルダーのバックアップを作成するには

1 エクスプローラウィンドウのツリー表示部で、バックアップを作成したいフォルダーを選択する。

2 次のいずれかの操作を行う。

- [ファイル] メニューで [Finder で開く ...] を選択する。
- control キーを押したままフォルダーをクリックして表示されるコンテキストメニューから [Finder で開く ...] を選択する。

Finder が起動します。

3 Finder でバックアップ作成の操作を行う（任意のメディアまたはフォルダーにコピーする）。

フォルダーの容量が大きいため、1 つのメディア / フォルダーに保存できないときは

フォルダーを分割することにより、複数のディスクに分けてバックアップを作成することができます。分割されたフォルダーは再結合して元に戻すことができます。

◆ 詳しくは、「フォルダーを分割する」（87 ページ）および「フォルダーを結合する」（88 ページ）をご覧ください。

フォルダーを削除する

1 エクスプローラウィンドウのツリー表示部で、削除したいフォルダーを選択する。

2 次のいずれかの操作を行う。

- コマンド + delete キーを押す。
- 削除ボタンをクリックする。
- [編集] メニューで [削除] を選択する。
- control キーを押したままフォルダーをクリックして表示されるコンテキストメニューから [削除] を選択する。

削除を実行するかどうかを確認するメッセージが表示されます。

3 削除を実行する場合は [はい] ボタンを、中止する場合は [いいえ] ボタンをクリックする。

フォルダーを削除できないときは

以下に示す状況では、削除が実行されず、メッセージが表示されます。

- 選択したフォルダーに対する削除や書き込みの権限がない。
- 選択したフォルダーが書き込み禁止になっている。
- 選択したフォルダーの直下に、クリップや他のフォルダーが存在する。1)

ご注意

- フォルダーを削除すると、フォルダー内の全データが削除されますので注意してください。
- いったん削除が完了したら操作を取り消す（アンドゥを実行する）ことはできません。

1) 対象フォルダー（Work1）を削除できない例を以下に示します。

XDCAM EX 機器が管理していないファイルなどがあるとき

他のワークフォルダー（Work2）などがあるとき

Work1 フォルダーを削除するには、あらかじめ XDCAM EX 機器が管理していないファイルや Work2 フォルダーを削除する必要があります。ただし、本ソフトウェアの起動中に、Finder などを使用して Work1 フォルダー内にフォルダーやファイルを作成したときは、これらの操作を行わなくても削除される場合があります。

フォルダーを分割する

フォルダーを分割してクリップを分散させて保存することにより、各フォルダーの記録容量を小さくすることができます。フォルダー内の全データを、フォルダーよりも小さい容量のメディアにバックアップする場合に使用します。

たとえば、8GB のフォルダーを 4GB の DVD-R メディアにバックアップする場合、4GB のフォルダー 2 つに分割します。フォルダーを分割しても個々のファイルは分割されません。

ご注意

XDCAM EX フォーマット以外のクリップ（XDCAM HD クリップなど）は操作できません。XDCAM EX クリップのみが操作対象です。

1 エクスプローラウィンドウのツリー表示部で、分割したいフォルダーを選択する。

2 次のいずれかの操作を行う。

- フォルダの分割ボタンをクリックする。
- ［編集］メニューで［フォルダの分割 ...］を選択する。
- control キーを押したままフォルダーをクリックして表示されるコンテキストメニューから［フォルダの分割 ...］を選択する。

フォルダの分割ダイアログが開きます。

ご注意

フォルダーを分割しても個々のファイルは分割されません。分割後のフォルダーが指定した容量になるように、クリップが振り分けられます。したがって、フォルダー内にある一番大きなファイルサイズ以下のフォルダーサイズを指定することはできません。また、4GB 未満のサイズも指定できません。

3 ［メディア］リストからメディアの種類を選択する。

選択したメディアに応じて、フォルダーの分割後のサイズが表示されます。
「任意のサイズ」を選択した場合は、エディットボックスに任意の数値（4 〜 100 の整数）を入力します。

4 ［開始］ボタンをクリックする。

指定したフォルダーの容量に応じて、分割数が最小となるようにフォルダーが分割され、クリップが各フォルダーに振り分けられます。分割の結果生成されたフォルダーには、元のフォルダー名に通し番号が付加された名前が自動的に設定されます。

ご注意

- いったん分割を開始したら中断（キャンセル）することはできません。
- ファイル分割されているクリップは、それぞれ別のフォルダーに振り分けられることがあります。ファイル分割されているクリップの振り分け先を変更する場合は、フォルダー分割後に手動でクリップを移動してください。

フォルダーを結合する

指定したフォルダーに他のフォルダーを結合することができます。分割したフォルダーを元に戻すための機能です。

ご注意

- XDCAM EX フォーマット以外のクリップ（XDCAM HD クリップなど）は操作できません。XDCAM EX クリップのみが操作対象です。
- 結合の対象となるフォルダーは、同一階層にあり、かつ本ソフトウェアが管理するフォルダー（90 ページ参照）に限られます。

1 エクスプローラウィンドウのツリー表示部で、結合したいフォルダーを選択する。

2 次のいずれかの操作を行う。

- ［編集］メニューで［フォルダの結合 ...］を選択する。
- control キーを押したままフォルダーをクリックして表示されるコンテキストメニューから［フォルダの結合 ...］を選択する。

フォルダの結合ダイアログが開きます。

3 手順**1**で指定したフォルダーに結合したいフォルダーのチェックボックスをオンにする。フォルダーの結合後、元のフォルダーを削除する場合は、[結合後、フォルダを削除する]チェックボックスをオンにする。

ご注意

次の場合、フォルダーは削除されません。
- 結合するフォルダー内に別のフォルダーがあるとき
- フォルダーに削除や書き込みの権限がないとき
- フォルダーが書き込み禁止になっているとき

4 [開始]ボタンをクリックする。

手順**1**で指定したフォルダーに手順**3**で指定したフォルダーが結合され、フォルダー内のクリップが結合先に集められます。ファイル分割されていたクリップは自動的に連結し、1つのクリップとして利用できます。

フォルダーが結合されないときは

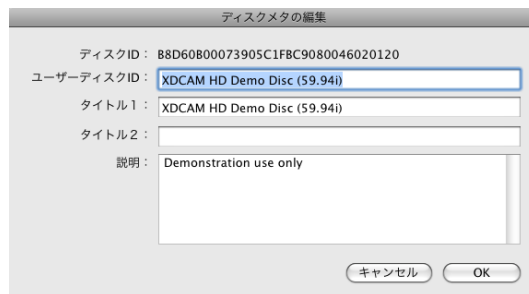
以下に示す状況では、フォルダーは結合されず、メッセージが表示されます。
- 結合先フォルダーの容量が不足している。
- 結合元または結合先フォルダーに対する書き込みの権限がない。
- 結合元または結合先フォルダーが書き込み禁止になっている。
- 同じクリップが複数存在する。

ディスクメタデータの内容を確認 / 編集する

XDCAMドライブまたはMXF属性フォルダーに保存されているディスクメタデータ(DISCMETA.XML)(91ページ参照)の内容を確認 / 編集することができます。

1 エクスプローラウィンドウのツリー表示部で、XDCAMドライブまたはMXF属性フォルダーを選択する。

2 次のいずれかの操作を行う。

- [編集]メニューで[ディスクメタの編集...]を選択する。
- controlキーを押したままXDCAMドライブまたはMXF属性フォルダーをクリックして表示されるコンテキストメニューから[ディスクメタの編集...]を選択する。

ディスクメタの編集ダイアログが開きます。

3 必要に応じて次の項目を編集する。

- ユーザーディスクID(最大127バイト)
- タイトル1(最大63バイト)
- タイトル2(最大127バイト)
- 説明(最大2047バイト)

4 [OK]ボタンをクリックする。

付録

EX フォーマットクリップのデータ管理構造について

記録フォーマット

本ソフトウェアでは、XDCAM EX 機器用に規定されたフォーマットを使用することができます。このフォーマットの仕様は次のとおりです。

- フォルダーの名前と構成は、次項の図のように決められている。
- ファイルには各ファイルやフォルダー間のリンクに関する情報が記録されている。

ご注意

- 本ソフトウェア以外のツールなどを使用して、ファイルを編集したり、ファイルやフォルダーに対して削除、移動、名前の変更などの操作は行わないでください。このフォーマットの仕様に従わないファイルは、XDCAM EX 機器や本ソフトウェアで認識できなくなります。
- 本ソフトウェアを使用して SxS PRO メモリーカード以外のメディアに作成、コピー、または移動したクリップは XDCAM EX 機器で再生できないことがあります。

記録フォルダー

映像や付加情報を記録するフォルダーは、次図のような階層構造になっています。
XDCAM EX フォーマットでは、BPAV フォルダー以下を 1 つのまとまりとして扱います。

- ワークフォルダーを Finder で開くと、BPAV フォルダーが 1 つだけ存在します。
- コピーやバックアップを行うときは、BPAV フォルダー以下を選択してください。
- エクスプローラウィンドウのツリー表示部でワークフォルダーを選択すると、BPAV フォルダーに登録されたクリップの一覧がリスト表示部に表示されます。AV データは CLPR フォルダーの下のフォルダー内に存在します。
- XDCAM EX 機器で使用するメディアは、メディアのルートフォルダーの下に BPAV フォルダーを作成します。
- ワークフォルダーに MP4 ファイルをインポートすると、CLPR フォルダーの下に新たにフォルダーが作成され、そこにインポートされたクリップがコピーされます。フォルダー名は自動的に付けられます。
- CLPR フォルダー内に MP4 ファイルがあるとき、そのフォルダーが属するワークフォルダーをエクスプローラウィンドウで参照すると、CLPR フォルダーの下に新たにフォルダーが作成され、そのフォルダー内に MP4 ファイルを移動します（インポートと同等の処理）。[1)]
- CLPR フォルダー内に未登録の AVI ファイルがあるとき、当該フォルダーをエクスプローラウィンドウで参照すると、その AVI ファイルは管理対象として登録されます（インポートと同等の処理）。ただし、ファイル名が XDCAM EX クリップの命名規則に従わない場合には、インポートは行えません。
- XDCAM EX 機器がサポートするメディアの場合、1 つの記録フォルダー内には最大で 600 個のクリップが登録できます。

1) XDCAM ドライブの UserData フォルダー内では機能しません。

ご注意

フォルダー名やファイル名はメタデータファイルと連携しているため、変更しないでください。

MXF フォーマットクリップのデータ管理構造について

記録フォーマット

本ソフトウェアでは、XDCAM HD 機器用に規定されたフォーマットを使用することができます。このフォーマットの仕様は次のとおりです。

- フォルダーの名前と構成は、次項の図のように決められている。
- ファイルには各ファイルやフォルダー間のリンクに関する情報が記録されている。

ご注意

- XDCAM HD フォーマットに対応していないツールなどを使用して、ファイルを編集したり、ファイルやフォルダーに対して削除、移動、名前の変更などの操作をしたりしないでください。このフォーマットの仕様に従わないファイルは、XDCAM HD 機器や本ソフトウェアで認識できなくなります。
- 本ソフトウェアを使用してプロフェッショナルディスク（XDCAM ドライブ）以外のメディアに作成、コピー、または移動したクリップは XDCAM HD 機器で再生できないことがあります。

記録フォルダー

映像や付加情報を記録するフォルダーは、次図のような階層構造になっています。

- 本ソフトウェアは、Clip、Edit、および Sub をサブフォルダーとして持つフォルダーを MXF 属性フォルダーと認識し、Clip フォルダー内を参照します。
- 環境設定ダイアログの全般タブで XDCAM ドライブモードを「UserData」に設定すると、本ソフトウェアの参照先は Clip フォルダーから UserData フォルダーに変わります（91 ページ参照）。
- ノーマルフォルダーに対してコピー操作によるファイルのフォーマット変換（73 ページ参照）を実行すると、DISCMETA.XML、MEDIAPRO.XML、Clip フォルダー、Edit フォルダー、Sub フォルダー、および General フォルダーが自動的に作成され、Clip フォルダー内にフォーマット変換されたファイルがコピーされます。（たとえば、ABC0000.MP4 ファイルをワークフォルダーにコピーすると、MXF ファイルに変換された ABC0000.MXF と、自動生成された ABC0000M01.XML が Clip フォルダー内に保存されます。）

ご注意

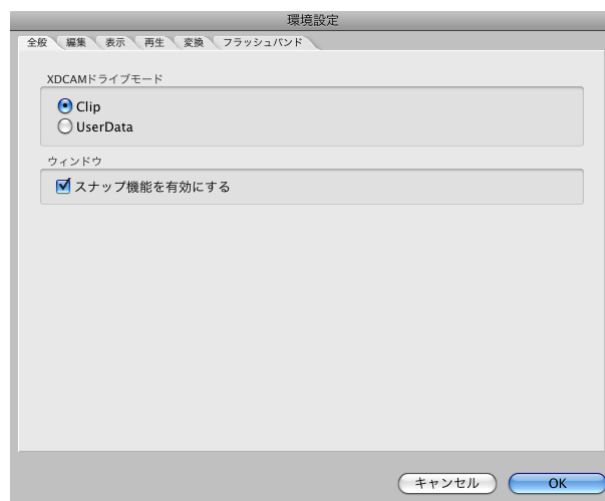
- フォルダー名やファイル名はメタデータファイルと連携しているため、変更しないでください。
- Finder などを使用して EX 属性フォルダー内に MXF フォーマットクリップの管理構造を作成しても、本ソフトウェアでは EX フォーマットが優先されるため、MXF フォーマットクリップを操作できません。

◆ MXF フォーマットクリップのデータ管理構造について詳しくは、XDCAM HD 機器の取扱説明書またはオペレーションマニュアルをご覧ください。

環境設定

環境設定ダイアログで、本ソフトウェアの各種設定を行います。

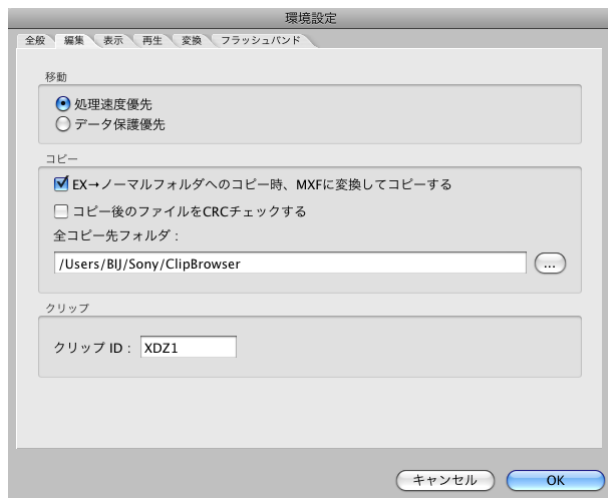
環境設定ダイアログを開くには、［ツール］メニューで［環境設定 ...］を選択します。

全般タブ

XDCAM ドライブモード：本ソフトウェアが使用する XDCAM ドライブ内のフォルダーを指定します。

- Clip：Clip フォルダーを使用する。このモードでは、XDCAM ドライブに対して MXF クリップのみ操作することができる（EX クリップは不可）。
  ツリー表示部に表示されるアイコンは、「XDCAM ドライブ（通常）」アイコンになる（64 ページ参照）。
- UserData：UserData フォルダーを使用する。このモードでは、XDCAM ドライブに対して EX クリップのみ操作することができる（MXF クリップは不可）。EX クリップのバックアップ用途向けモード。
  ツリー表示部に表示されるアイコンは、「XDCAM ドライブ（UserData）」アイコンになる（64 ページ参照）。

◆ 本ソフトウェアが扱う XDCAM ドライブのデータ管理構造については、91 ページをご覧ください。

スナップ機能を有効にする：チェックボックスをオンにすると、ウィンドウのスナップ機能が有効になります。スナップ機能には、次の働きがあります。
- ウィンドウをドラッグして別のウィンドウに近づけると、それぞれの端と端がぴったりとくっつく。
- ウィンドウの境界をドラッグしてサイズ変更すると、隣接するウィンドウとの並びを保ったまま、隣接するウィンドウのサイズも連動して変わる。

編集タブ

移動：クリップの移動（74 ページ参照）を実行するときの動作モードを選択します。
- 処理速度優先：クリップを複製しない、通常の移動方法
- データ保護優先：クリップを複製してから複製元のクリップを削除する移動方法

EX →ノーマルフォルダへのコピー時、MXF に変換してコピーする：チェックボックスをオンにすると、EX フォーマットファイルをノーマルフォルダー（EX 属性や MXF 属性以外のフォルダー）にコピーしたとき、コピー先のファイルを自動的に MXF フォーマットファイルに変換します。

コピー後のファイルを CRC チェックする：チェックボックスをオンにすると、コピーしたファイルに対して CRC（巡回冗長検査）方式による誤り検出を実行する機能が有効になり、コピーが正常に行われなかったときにメッセージを表示します。

全コピー先フォルダ：メディアまたはフォルダー内にある、すべてのクリップのコピー（74 ページ参照）を実行するときのコピー先のフォルダーを指定します。エディットボックスにドライブ名から始まるパス名を入力するか、[...] ボタンをクリックして開くフォルダの参照ダイアログでフォルダーを選択し、[OK] ボタンをクリックします。

クリップ ID：クリップのインポート（77 ページ参照）を実行するとき、インポートされるクリップの名前、およびそのクリップが保存されるフォルダーの名前の接頭語（4 文字まで）を指定します。

表示タブ

クリップ名：クリップ名として何を表示するかを、クリップの種類ごとに次のいずれかから選択します。
- タイトル優先：タイトルをクリップ名として表示する。
- ファイル名優先：ファイル名をクリップ名として表示する。

ご注意

「タイトル優先」に設定されていても、タイトルがないクリップはファイル名が表示されます。

サムネイル上のメタデータ表示：エクスプローラウィンドウのリスト表示部がサムネイル表示のとき、サムネイルの下の 1 ～ 3 行目に表示するクリップ属性を次の中から選択します。
- フォーマット
- クリップ名
- ファイル名
- 撮影日時
- ビットレート
- フレーム / 秒
- 解像度
- クリップ長

50p/60p タイムコード表示：フレーム周波数が 50p または 60p のクリップを再生するときのタイムコード表示モードを選択します。

- 全フレーム表示：1 フレームごとにカウントアップする形式で表示する。（60p クリップの表示例：00→01→02→・・・→58→59→00→・・・）
- * 表示：2 フレームごとにカウントアップし、2 番目のフレームに「*」を付加する形式で表示する（ソニー製 VTR の表示形式）。（60p クリップの表示例：00→00*→01→・・・→29→29*→00→・・・）

プレビュー可能なクリップ数を超えた場合： プレビューウィンドウについて、同時にプレビューするクリップ数（同時に開くウィンドウ数、または追加するタブ数）が上限を超えるときの動作を選択します。

- 差し替え対象が編集中の場合は、警告を表示する
- 警告なく、表示順が一番古いクリップと差し替える

再生タブ

解像度： 再生時の映像の解像度を、次の中から選択します。

- 自動：プレビュー画面のサイズに合わせて解像度を自動的に変えてデコードする。
- 通常：プレビュー画面のサイズに関係なく、元の画像の解像度でデコードする。
- 1/2、1/4：解像度を落としてデコードする。プレビュー画質は低下するが、再生時のデコーダーの負荷が低減するため、再生レスポンスは向上する。

MXF 再生モード： MXF フォーマットクリップの再生モードを、次のいずれかから選択します。

- MPEG HD：高解像度で再生する（MXF フォーマットクリップそのものの映像を再生する）。
- Proxy：低解像度で再生する（プロキシ AV データを再生する）。

◆ MXF 再生モードに関する注意事項については、81 ページをご覧ください。

アスペクト比： SD クリップ（DV-AVI フォーマットクリップ）の代表画とプレビュー画のアスペクト比を次の中から選択します。

- 自動：当該クリップのアスペクト比に合わせて 16:9 または 4:3 を自動選択する。
- 16:9
- 4:3

変換タブ

使用地域の設定： 本ソフトウェアを使用する地域で採用されているビデオ方式を選択します。

- NTSC（24p を含む）
- PAL

MP4 → MXF 変換コピー時の設定： MP4 から MXF へのフォーマット変換コピー時に使用する記録フォーマットを指定します。

- ビットレート設定
  カラーフォーマットが 4:2:0 のクリップについて、コピー操作によってファイルのフォーマット変換を行うとき、変換後のファイルのビットレートを次の中から選択します。（4:2:2 クリップは、50Mbps に固定されます。）
  - 18Mbps
  - 25Mbps
  - 35Mbps
- フォーマット設定：クリップなしフォルダの場合
  コピー操作によってファイルのフォーマット変換を行うとき、コピー先にクリップが 1 つも存在しない場合の記録フォーマット（フレームレートとフォーマット）を指定します。選択可能な設定値の組み合わせは次のとおりです。

使用地域の設定	フレームレート	フォーマット
NTSC（24p を含む）	60i/60p/30p	4:2:0 18Mbps（x1080）
		4:2:0 25Mbps（x720）
		4:2:0 25Mbps（x1080）
		4:2:0 35Mbps（x720）
		4:2:0 35Mbps（x1080）
		4:2:2 50Mbps
	24p	4:2:0 18Mbps（x1080）
		4:2:0 25Mbps（x1080）
		4:2:0 35Mbps（x1080）
PAL	50i/50p/25p	4:2:0 18Mbps（x1080）
		4:2:0 25Mbps（x720）
		4:2:0 25Mbps（x1080）
		4:2:0 35Mbps（x720）
		4:2:0 35Mbps（x1080）
		4:2:2 50Mbps

◆ コピー操作によるファイルのフォーマット変換については、73 ページをご覧ください。

OPAtom 出力先フォルダ：クリップのエクスポートで［Avid AAF 変換］を選択したときの OPAtom ファイルの出力先フォルダーを指定します（次項の「Avid 社の編集機でメディアの保存フォルダーを設定するには」を参照）。エディットボックスにドライブ名から始まるパス名を入力するか、[...］ボタンをクリックして開くダイアログでフォルダーを選択し、[OK］ボタンをクリックします。

Avid 社の編集機でメディアの保存フォルダーを設定するには

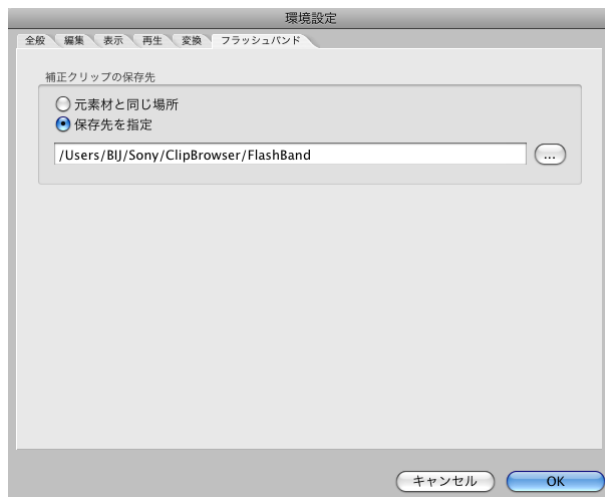
Avid Media Composer（V2.5.3 以降）の場合は、次のように操作します。

1 ［Settings］メニューで［Media Creation］を選択する。

Media Creation ダイアログが開きます。

2 Import タブで Video Drive/Audio Drive（メディアの保存ドライブ）として Macintosh HD を指定する。

3 Avid Media Composer に任意の MXF ファイルをインポートする。

手順 **2** で指定したドライブ内に「Avid Media Files/MXF/1」というフォルダーが作成されます。
［OPAtom 出力先フォルダ］で、このフォルダーを指定します。

フラッシュバンドタブ

補正クリップの保存先：フラッシュバンド補正（83 ページ参照）によって複製されたクリップの保存先フォルダーを指定します。
- 元素材と同じ場所
- 保存先を指定：エディットボックスにドライブ名から始まるパス名を入力するか、[...］ボタンをクリックして開くフォルダの参照ダイアログでフォルダーを選択し、[OK］ボタンをクリックします。

メニュー一覧

本ソフトウェアのメニュー一覧を示します。
「キーボード操作」欄で、あるキーを押したまま別のキーを押すときは、「コマンド＋ N」のようにキーの名前を「＋」記号でつないで示します。

メニュー	コマンド	サブコマンド	キーボード操作	機能	参照先
XDCAM EX Clip Browser	XDCAM EX Clip Browser について	—	—	バージョン情報を表示する。	—
	MainConcept 変換パックについて	—	—	MainConcept 社製プラグインソフトウェアのバージョン情報を表示する。	—
	環境設定 ...	—	コマンド + ,	環境設定ダイアログを開く。	91 ページ
	サービス	Mac OS で用意されている各種のコマンド	—	各種の機能を実行する。	—
	XDCAM EX Clip Browser を隠す	—	コマンド + H	本ソフトウェアを隠す / 表示する。	—
	他を隠す	—	option + コマンド + H	本ソフトウェア以外のアプリケーションを隠す / 表示する。	—
	すべてを表示	—	—	起動しているすべてのアプリケーションを表示する。	—
	XDCAM EX Clip Browser を終了	—	コマンド + Q	本ソフトウェアを終了する。	60 ページ
ファイル	新しいエクスプローラを開く	—	—	新しいエクスプローラウィンドウを開く。	61 ページ
	新しいプレビューを開く	—	—	新しいプレビューウィンドウを開く。	
	新しいタブを開く	—	コマンド + T	アクティブなウィンドウに新しいタブを追加する。	—
	フォルダ	新規作成	shift + コマンド + N	選択したメディアまたはフォルダー内に新しいフォルダーを作成する。	86 ページ
		名前の変更	option + コマンド + R	選択したフォルダーの名前を変更する。	86 ページ
	ウィンドウを閉じる	—	コマンド + W	アクティブなウィンドウを閉じる。	—

メニュー	コマンド	サブコマンド		キーボード操作	機能	参照先
ファイル	タブを閉じる	—		—	アクティブなタブを閉じる。	—
	Finder で開く ...	—		コマンド＋N	フォルダーのバックアップを作成するとき、選択したフォルダーを Finder で開く。	87 ページ
	インポート ...	—		—	選択したフォルダーに MP4 ファイルをインポートする。	77 ページ
	エクスポート	NLE への MXF 変換 ...		—	選択したクリップのフォーマットをノンリニア編集システム用 MXF フォーマットに変換する。	78 ページ
		XDCAM HD への MXF 変換 ...		—	選択したクリップのフォーマットを XDCAM HD フォーマットに変換する。	
		XDCAM HD422 への MXF 変換 ...		—	選択したクリップのフォーマットを XDCAM HD422 フォーマットに変換する。	
		XDCAM MPEG IMX への MXF 変換 ...		—	選択したクリップのフォーマットを XDCAM MPEG IMX フォーマットに変換する。	
		XDCAM DVCAM への MXF 変換 ...		—	選択したクリップのフォーマットを XDCAM DVCAM フォーマットに変換する。	
		RAW DV 変換 ...		—	選択したクリップのフォーマットを RAW DV フォーマットに変換する。	
		AVI DV 変換 ...		—	選択したクリップのフォーマットを AVI DV フォーマットに変換する。	
		Avid AAF 変換 ...		—	選択したクリップのフォーマットを Avid AAF フォーマットに変換する。	
		Windows Media File 変換 ...		—	選択したクリップのフォーマットを Windows Media ファイルフォーマットに変換する。	
		PSP 用変換 ...		—	選択したクリップのフォーマットを PSP 用ファイルフォーマットに変換する。	
		iPod 用変換 ...		—	選択したクリップのフォーマットを iPod 用ファイルフォーマットに変換する。	
		動画配信サイト用変換 ...		—	選択したクリップのフォーマットを動画配信サイト用ファイルフォーマットに変換する。	
	静止画を作成 ...	—		—	現在位置のフレームをビットマップ形式の静止画として保存する。	81 ページ
	クリップ一覧の出力 ...	—		—	クリップ一覧の出力ダイアログを開く。	66 ページ
	イン / アウト間での新規クリップ作成	—		—	クリップにイン点とアウト点を設定して、新しいクリップを作成する。	76 ページ
	フラッシュバンド	検出	イン / アウト間	—	選択したクリップのイン点からアウト点までの範囲でフラッシュバンドが発生したフレームを自動検出する。	83 ページ
			全範囲	—	選択したクリップの全範囲でフラッシュバンドが発生したフレームを自動検出する。	
		補正	イン / アウト間	—	選択したクリップのイン点からアウト点までの範囲でフラッシュバンドが発生したフレームを補正する。	
			全範囲		選択したクリップの全範囲でフラッシュバンドが発生したフレームを補正する。	
		検出と補正	イン / アウト間	—	選択したクリップのイン点からアウト点までの範囲でフラッシュバンドが発生したフレームを自動検出し、補正する。	
			全範囲	—	選択したクリップの全範囲でフラッシュバンドが発生したフレームを自動検出し、補正する。	
	メディアの取り出し	—		—	メディアの取り出し、またはメディアを安全に取りはずせる状態にする。	—

メニュー	コマンド	サブコマンド	キーボード操作	機能	参照先
編集	切り取り	—	コマンド＋ X	選択したクリップを切り取る。	74 ページ
	コピー	—	コマンド＋ C	選択したクリップをコピーする。	72 ページ
	貼り付け	—	コマンド＋ V	コピーまたは切り取られたクリップを貼り付ける。	72 ページ 74 ページ
	削除	—	コマンド＋ delete	選択したクリップまたはフォルダーを削除する。	76 ページ 87 ページ
	すべてコピー	—	option ＋コマンド＋ C	選択したメディアまたはフォルダー内のクリップをすべてコピーする。	74 ページ
	クリッププロパティの一括編集 ...	—	—	クリッププロパティの一括編集ダイアログを開く。	71 ページ
	すべて選択	—	コマンド＋ A	選択したメディアまたはフォルダー内のクリップをすべて選択する。	—
	フォルダの分割 ...	—	shift ＋コマンド＋ W	選択したフォルダーを、指定したサイズで分割する。	87 ページ
	フォルダの結合 ...	—	shift ＋コマンド＋ J	選択したフォルダーに、指定した別のフォルダーを結合する。	88 ページ
	検索	検索 ...	コマンド＋ F	検索ダイアログを開く。	82 ページ
		開始	—	検索を開始する。	
		停止	—	検索を停止する。	
		エクスプローラで表示	—	選択したクリップをエクスプローラウィンドウで表示する。	
	ディスクメタの編集 ...	—	—	ディスクメタの編集ダイアログを開く。	89 ページ
	特殊文字 ...	—	—	特殊文字や記号の入力ができる文字パレットを開く。	—

メニュー	コマンド	サブコマンド	キーボード操作	機能	参照先
表示	ツールバーを表示 / 隠す	—	option +コマンド+T	ツールボタンの表示 / 非表示を切り換える。	63 ページ
	フォルダツリーを表示 / 隠す	—	—	ツリー表示部の表示 / 非表示を切り換える。	64 ページ
	コンポーネントビューを表示 / 隠す	—	—	コンポーネントビューの表示 / 非表示を切り換える。	64 ページ
	1 つ上の階層へ	—	コマンド+↑	選択されているフォルダーの 1 つ上の階層に移動する。	—
	サムネイル	—	—	リスト表示部をサムネイル表示にする。	64 ページ
	詳細	—	—	リスト表示部を詳細表示にする。	
	整列	クリップ名	—	選択した項目をキーにして、クリップの昇順整列と降順整列を切り換える。	
		サイズ	—		
		クリップ長	—		
		ステータス	—		
		撮影日時	—		
		最終更新日時	—		
		記録モード	—		
		メディア跨ぎ	—		
		フォルダパス	—		
		整列順の記憶	—	現在の整列順をフォルダーごとのメタデータに反映する。	—
	表示フィルター	すべて表示	—	XDCAM EX クリップのファイルフォーマットによる表示条件を切り換える。	—
		MP4 を表示	—		
		DV-AVI を表示	—		
	詳細表示の設定 ...	—	—	詳細表示の設定ダイアログを開く。	66 ページ
	ツールチップの表示設定 ...	—	—	ツールチップの表示設定ダイアログを開く。	66 ページ
	メッセージのオプション	初期状態に戻す	—	[次回からこのメッセージを表示しない] チェックボックスをオンにして非表示にしたメッセージボックスを次回から表示させる。	—
	最新の情報に更新	—	—	エクスプローラウィンドウでアクティブになっているタブの表示を最新の情報に更新する。	—
	全画面	—	option + return	ビューアー部のスクリーンをフルスクリーン表示にする。	68 ページ

メニュー	コマンド	サブコマンド	キーボード操作	機能	参照先
プレビュー	再生	—	L またはスペース	選択したクリップを再生する。	80 ページ
	停止	—	K またはスペース	クリップの再生を停止する。	
	逆再生	—	J	選択したクリップを逆方向に再生する。	
	イン / アウト間再生	—	shift ＋スペース	選択したクリップのイン点からアウト点までの範囲を再生する。	
	1 フレーム戻す	—	←	前のフレームに移動する。	
	1 フレーム進む	—	→	次のフレームに移動する。	
	スタートへ	—	home	クリップのスタート点（先頭フレーム）に移動する。	
	エンドへ	—	end	クリップのエンド点（最終フレーム）に移動する。	
	イン点へ	—	↑	イン点に移動する。	
	アウト点へ	—	↓	アウト点に移動する。	
	前のエッセンスマークへ	—	shift ＋←	前のエッセンスマークに移動する。	
	次のエッセンスマークへ	—	shift ＋→	次のエッセンスマークに移動する。	
	編集	代表画の設定	P	現在位置のフレームを代表画に設定する。	81 ページ
		マークイン	I	現在位置をイン点に設定する。	76 ページ
		マークアウト	O	現在位置をアウト点に設定する。	
		マークインのクリア	shift ＋ I	イン点の設定を解除する。	
		マークアウトのクリア	shift ＋ O	アウト点の設定を解除する。	
		マークイン / アウトのクリア	shift ＋ X	イン点およびアウト点の設定を解除する。	
		エッセンスマークの追加	E	現在位置にエッセンスマークを設定する（126 個まで）。	—
		エッセンスマークの削除	shift ＋ E	現在位置に設定されているエッセンスマークを削除する。	—
	オーディオチャンネルの設定 ...	—	—	チャンネル設定ダイアログを開く。	81 ページ
ウィンドウ	次のタブを選択	—	shift ＋コマンド＋ }	次のタブを選択する。	62 ページ
	前のタブを選択	—	shift ＋コマンド＋ {	前のタブを選択する。	
	しまう	—	コマンド＋ M	アクティブなウィンドウを隠す。	—
	拡大 / 縮小	—	—	アクティブなウィンドウを拡大 / 縮小する。	—
	すべてを手前に移動	—	—	開いているウィンドウをすべて手前に移動する。	—

エラー / 警告メッセージ一覧

<table>
<tr><th>メッセージ</th><th>対処方法</th></tr>
<tr><td>OLE の初期化に失敗しました。OLE ライブラリのバージョンが正しいことを確認してください。</td><td rowspan="2">本ソフトウェアのインストールに問題が発生した可能性があります。再インストールを実施してください。</td></tr>
<tr><td>Export 用のライブラリーの読み込みに失敗しました。</td></tr>
<tr><td>不完全なクリップが存在します。選択フォルダ直下の［BPAV］フォルダ以下すべてを SxS カードにコピーし、記録を行った装置でサルベージを実行してください。</td><td rowspan="2">記録中に XDCAM EX 機器の電源を切ったり、記録メディアを抜いたことにより、メディアのデータが不完全な状態になっています。メディアを XDCAM EX 機器に戻して直ちにデータを復旧させてください。データを復旧させないまま操作を続けると、データが復旧できなくなります。</td></tr>
<tr><td>不完全なクリップが存在します。記録を行った装置でサルベージを実行してください。</td></tr>
<tr><td>理由：クリップデータベースが不正です。</td><td>XDCAM EX フォーマットが異常になっている可能性があります。別のフォルダーに MP4 ファイルをインポートするなどの作業を行い、素材の復旧を試みてください。</td></tr>
<tr><td>理由：他のアプリケーションで作成されたクリップデータベースです。</td><td>選択したクリップデータベース（記録フォルダー）は、本アプリケーションで作成したものではありません。クリップの操作および編集は、作成したアプリケーションで行ってください。</td></tr>
<tr><td>理由：不正なメディアか、メディアが破損している可能性があります。</td><td>選択されたクリップがサポート外のフォーマットか、素材データに異常があります。クリップのプロパティーを確認してください。</td></tr>
<tr><td>エクスプローラで表示できるクリップではありません。</td><td>選択したクリップが XDCAM EX 互換フォーマットではないため、インポートやリスト表示ができません。クリップのプロパティーを確認してください。</td></tr>
<tr><td>整列順の記憶に失敗しました。</td><td>本ソフトウェアまたはコンピューターを再起動してください。症状が変わらない場合は、本ソフトウェアを再インストールしてください。</td></tr>
<tr><td>コピー先に指定されているドライブは、存在しないか準備ができていない可能性があります。利用可能なドライブを指定してください。</td><td rowspan="4">指定したドライブが無効か、またはドライブにメディアが挿入されていません。利用可能なドライブを指定するか、またはドライブにメディアを挿入してください。</td></tr>
<tr><td>移動先に指定されているドライブは、存在しないか準備ができていない可能性があります。利用可能なドライブを指定してください。</td></tr>
<tr><td>インポート先に指定されているドライブは、存在しないか準備ができていない可能性があります。利用可能なドライブを指定してください。</td></tr>
<tr><td>クリップ一覧の出力に失敗しました。
理由：ドライブが存在しないか準備が出来ていない可能性があります。</td></tr>
<tr><td>クリップデータベースが不正なため、コピーすることは出来ません。</td><td rowspan="3">XDCAM EX フォーマットが異常になっている可能性があります。別のフォルダーに MP4 ファイルをインポートするなどの作業を行い、素材の復旧を試みてください。</td></tr>
<tr><td>クリップデータベースが不正なため、移動することは出来ません。</td></tr>
<tr><td>プロパティの更新に失敗しました。</td></tr>
<tr><td>4GB を超えるファイルは分割が必要なため、コピーすることは出来ません。</td><td rowspan="2">XDCAM EX 機器で使用する SxS メモリーカードなどのメディアでは、4GB を超えるファイルは管理できません。あらかじめ編集ソフトウェアなどで 4GB 以下になるようにファイル分割してから、もう一度操作してください。</td></tr>
<tr><td>4GB を超えるファイルは分割が必要なため、移動することは出来ません。</td></tr>
<tr><td>AVI クリップが含まれているため、クリップを作成することは出来ません。</td><td rowspan="2">サポート外の DV-AVI クリップが含まれています。DV-AVI クリップを除いてから、もう一度操作してください。</td></tr>
<tr><td>AVI クリップが含まれているため、MXF に変換してコピーすることは出来ません。</td></tr>
<tr><td>クリップの作成に失敗しました。</td><td>次のいずれかの理由によって処理が中止されました。
• 選択したメディア / フォルダーに対する削除や書き込みの権限がない、またはこれらの操作が禁止されている。
• データに互換性がない、または異常がある。
メディア / フォルダーのプロパティーを確認してください。</td></tr>
<tr><td>理由：フレームレートが一致していません。</td><td>コピー元クリップのフレームレートとコピー先に存在するクリップのフレームレートが異なるため、コピーできません。コピー元およびコピー先クリップのフレームレート（NTSC/24p/PAL）を確認し、フレームレートが一致するコピー先にコピーしてください。</td></tr>
</table>

メッセージ	対処方法
理由：ビデオフォーマットが異なります。	コピー元クリップの解像度とコピー先に存在するクリップの解像度が異なるため、コピーできません。コピー元およびコピー先クリップの解像度を確認し、解像度が一致するコピー先にコピーしてください。
理由：デフォルトフォーマットが設定されていません。[環境設定] の変換情報を確認してください。	環境設定ダイアログの変換タブで［記録フォーマット不定時の設定値］のフレームレートとビットレートを設定してください。
理由：ビットレートが設定されていません。[環境設定] の変換情報を確認してください。	環境設定ダイアログの変換タブで［MP4 → MXF 変換ビットレート設定］を設定してください。
MainConcept Conversion Pack が試用版のため、ロゴが入る場合があります。変換時にロゴが入らないようにするには MainConcept Conversion Pack を購入してください。	MainConcept 社のウェブサイトでプラグインソフトウェア（MainConcept Conversion Pack #1 または #2）を購入し、インストールしてください。MainConcept 社のサイトにアクセスするには、［XDCAM EX Clip Browser］メニューの［MainConcept 変換パックについて］を選択して開くダイアログで URL をクリックします。
理由：変換に失敗しました。	コピー元およびコピー先クリップの記録フォーマットを確認してください。変換前ファイルの記録フォーマットと変換後ファイルの記録フォーマットの組み合わせによっては、変換できないことがあります。
理由：2 秒未満のクリップは書込みできません。	XDCAM 機器では、2 秒未満のクリップの書き込みに対応していません。
2 秒未満のクリップが含まれているため、コピーすることは出来ません。	
MXF ファイルのコピー先に UserData フォルダを指定することは出来ません。[環境設定] の全コピー先フォルダを変更してください。	環境設定ダイアログの全般タブで［全コピー先フォルダー］の設定を変更してください。
インポートに失敗しました。	このクリップへのアクセス権がない、または XDCAM EX フォーマットと互換性のない MP4 ファイルの可能性があります。クリップのプロパティーを確認してください。
出力先に UserData フォルダを指定することは出来ません。	出力先を変更してください。
OPAtom ファイルの出力先に UserData フォルダを指定する事はできません。[環境設定] の OPAtom 出力先フォルダを変更して下さい。	環境設定ダイアログの変換タブで［OPAtom 出力先フォルダ］の設定を変更してください。
指定された名前は既に使用されています。別の名前を指定してください。	別の名前を指定するか、出力先を変更してください。
xxxx と同名のデータが出力先に存在します。別の名前を指定し直してください。	
上記のパスは無効かまたは長すぎます。	保存先のフルパスが長すぎると、保存先を認識できないことがあります。パス名が短くなる保存先に変更してください。
エッセンスマークが 127 個以上のクリップが含まれているため、クリップ一覧の出力は出来ません。	出力対象に 127 個以上のエッセンスマークが設定されているクリップが含まれています（本ソフトウェアが扱うことのできる 1 クリップ内のエッセンスマークは最大 126 個）。出力対象からこれらのクリップをはずしてください。これらのクリップを出力対象に含めるには、不要なエッセンスマークを削除し、126 個以下になるようにしてください。
エクスポート中にエラーが発生しました。詳細は各クリップのコンテキストから参照してください。	エクスポートダイアログで、エラーが発生したクリップのコンテキストメニューから［エラーの詳細］を選択して表示されるレポートを確認してください。
理由：変換中エラー	次のいずれかの理由によって変換できませんでした。 • 出力フォルダーに対する書き込みの権限がない、またはこの操作が禁止されている。 • 選択されたクリップがサポート外のフォーマット、または素材データに異常がある。 フォルダーまたはクリップのプロパティーを確認してください。
理由：サポートしていない XDCAM です。	選択した XDCAM ドライブがサポート外です。
理由：サポートしていないコーデックです。	選択した XDCAM ドライブ内のクリップのコーデックがサポート外です。
フォルダの作成に失敗しました。	選択したメディア / フォルダーに対する削除や書き込みの権限がない、またはこれらの操作が禁止されている可能性があります。メディア / フォルダーのプロパティーを確認してください。
フォルダ名として利用出来ません。別の名前を指定してください。	「BPAV」以外の名前を指定してください。
システムが予約している文字列が含まれているため設定する事が出来ません。	OS で使用が禁止されている文字が含まれない名前を指定してください。
理由：予約されたクリップファイル名です。	ファイル名またはコピー先を変更してください。

メッセージ	対処方法
“.”（ドット）で始まる名前はシステムだけが使用できます。ユーザーディスク ID には別の名前を指定してください。	別の名前を指定してください。
フォルダ名の変更に失敗しました。	選択したフォルダーに対する削除や書き込みの権限がない、またはこれらの操作が禁止されている可能性があります。フォルダーのプロパティーを確認してください。
フォルダの削除に失敗しました。	
フォルダの分割に失敗しました。	
フォルダの結合に失敗しました。	結合元または結合先のフォルダーに対する削除や書き込みの権限がない、またはこれらの操作が禁止されている可能性があります。フォルダーのプロパティーを確認してください。
フォルダ［XXX］内に作業フォルダが存在するため消去することは出来ません。	選択したメディア / フォルダー内に本ソフトウェアが管理しないフォルダーがあります。これらのフォルダーを移動または削除してから、もう一度操作してください。
サブフォルダが存在します。	
フォルダを分割することは出来ません。理由：指定したサイズを超えるクリップが存在します。	表示されたクリップには、指定された分割サイズよりも大きなファイルが存在するため、フォルダーを指定サイズに分割することができません。最大ファイルサイズよりも大きい分割サイズを指定してください。
ディスクメタの保存に失敗しました。	選択した XDCAM ドライブに対する削除や書き込みの権限がない、またはこれらの操作が禁止されている可能性があります。XDCAM ドライブのプロパティー、およびディスクの記録禁止タブの状態を確認してください。
管理情報の更新を行います。ライトプロテクトを掛けている場合は一旦解除してください。	選択したメディアまたはフォルダーにアクセス拒否または書き込み禁止を設定している場合は、解除してください。
理由：オーディオサンプル数が不足しています。	オーディオサンプル数が規定値に達していないため、変換すると音声にノイズが混じる可能性があります。変換元クリップのオーディオサンプル数を確認してください。
xxxx のメディア取り出しに失敗しました。メディアは使用中の可能性があります。ファイルにアクセスしていないことを確認してください。	メディア内のクリップにアクセスしているときは、アクセスを中止してください。

プラグインソフトウェア（有償）の入手方法

以下の URL へアクセスして当該ソフトウェアをダウンロードしてください。このウェブサイトは、［XDCAM EX Clip Browser］メニューの［MainConcept 変換パックについて］を選択して開くダイアログの URL をクリックすることによって表示することができます。
http://www.mainconcept.com/plugin4clipbrowser

ライセンス

MPEG-4 Visual Patent Portfolio License について

本製品は、MPEG LA, LLC. がライセンス活動を行っている MPEG-4 Visual Patent Portfolio License の下、次の用途に限りライセンスされており、その他の用途に関してはライセンスされていません。

(i) 消費者が個人的、非営利の使用目的で、MPEG-4 Visual 規格に合致したビデオ信号（以下、MPEG-4 Video といいます）にエンコードすること。

(ii) MPEG-4 Video（消費者が個人的に非営利目的でエンコードしたもの、もしくは MPEG LA よりライセンスを取得したプロバイダーがエンコードしたものに限られます）をデコードすること。

プロモーション、営利目的に利用することに関する詳細な情報につきましては、MPEG LA, LLC. のホームページ <http://www.mpegla.com> を参照してください。

MPEG LA は、(i) MPEG-4 Visual ビデオ情報を記録した媒体（PACKAGED MEDIA）を製造し、販売する行為、(ii) MPEG-4 Visual ビデオ情報を何らかの方法 (オンラインビデオ配信サービス、インターネット放送、TV 放送など) で配信・放送する行為について、ライセンスを提供しています。その他の使用方法につきましても、MPEG LA からのライセンス取得が必要な場合があります。
詳しくは、MPEG LA にお問い合わせください。
MPEG LA. L.L.C., 250 STEELE STREET, SUITE 300, DENVER, COLORADO 80206
ホームページ：http://www.mpegla.com

MPEG-2 Video Patent Portfolio License について

個人的使用以外の目的で、MPEG-2 規格に合致した本製品をパッケージメディア向けビデオ情報をエンコードするために使用する場合、MPEG-2 PATENT PORTFOLIO の特許に関するライセンスを取得する必要があります。尚、当該ライセンスは、MPEG LA. L.L.C.,（住所：250 STEELE

STREET, SUITE 300, DENVER, COLORADO 80206）より取得可能です。

AVC Patent Portfolio License について

本製品は、MPEG LA, LLC. がライセンス活動を行っているAVC PATENT PORTFOLIO LICENSE の下、次の用途に限りライセンスされています：

(i) 消費者が個人的、非営利の使用目的で、MPEG-4 AVC 規格に合致したビデオ信号（以下、AVC VIDEO といいます）にエンコードすること。

(ii) AVC Video（消費者が個人的に非営利目的でエンコードしたもの、若しくは MPEG LA よりライセンスを取得したプロバイダーがエンコードしたものに限られます）をデコードすること。

なお、その他の用途に関してはライセンスされていません。プロモーション、商業的に利用することに関する詳細な情報につきましては、MPEG LA, LLC. のホームページ（HTTP://WWW.MPEGLA.COM）をご参照下さい。

VC-1 Patent Portfolio License について

本製品は、MPEG LA, LLC. がライセンス活動を行っているVC-1 PATENT PORTFOLIO LICENSE の下、次の用途に限りライセンスされています：

(i) 消費者が個人的、非営利の使用目的で、VC- 1 規格に合致したビデオ信号（以下、VC-1 VIDEO といいます）にエンコードすること。

(ii) VC-1 VIDEO（消費者が個人的に非営利目的でエンコードしたもの、若しくは MPEG LA よりライセンスを取得したプロバイダーがエンコードしたものに限られます）をデコードすること。

なお、その他の用途に関してはライセンスされていません。プロモーション、商業的に利用することに関する詳細な情報につきましては、MPEG LA, LLC. のホームページ（HTTP://WWW.MPEGLA.COM）をご参照下さい。

お問い合わせは
「ソニー業務用製品ご相談窓口のご案内」にある窓口へ

ソニー株式会社 〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

http://www.sony.co.jp/